

2013 年度 北海道大学オープンコースウェア 活動報告書

Annual Report of HU-OCW

2014 年 3 月

北海道大学オープンコースウェア
Hokkaido University OpenCourseWare(HU-OCW)

巻頭言

現代は情報革命のただ中にあると言われていています。情報を根幹とした社会変革が着実に進んでおり、大学教育における学びも情報化を踏まえて新たなステージへ進みつつあります。振り返ると日本における 2000 年前後の大学設置基準の改訂も、情報化における大学教育の位置づけの変化を象徴しています。多様なメディアを高度に利用することにより、授業を教室以外の場所で履修できるようになり(1998 年)、そのような履修形態における単位の上限が緩和され(1999 年)、設問解答・添削指導・質疑応答の指導・学生の意見交換の機会確保を前提として、同時双方向ではない学びを授業としての履修と認められるようになりました(2001 年)。まさにこのころ、米国マサチューセッツ工科大学(MIT)によるオープンコースウェア活動が提唱されることになります。大学の授業で実際に使われている教育資料を無償で一般公開するというオープンコースウェアの基本理念は、世界に強烈なインパクトを与えました。

北海道大学(以下、本学)では、2006 年からオープンコースウェア活動を推進してまいりました。当初は、コンテンツのオープン化のために、講義資料に掲載されている資料の著作者に対して許諾を求める際には、オープンコースウェアが何たるかを丁寧にお話しし、ご理解を賜ることが必須でした。現在、オープンコースウェアという言葉は知名度を上げ、許諾も以前より随分と求めやすくなっています。グローバルに多数の大学が連携し、10 年という長きにわたって息長く活動を行ってきた賜物であり、関係の皆様のご努力とご協力に心より感謝申し上げます。2013 年度末現在、本学では 1000 を超えるコンテンツを公開しております。また、韓国高麗大学と、相互のオープンコースウェアコンテンツを翻訳・交換し公開するプロジェクトを 2013 年度から試行的に進めております。

さて、オープンコースウェアは、大学におけるコンテンツ蓄積と公開による社会活動という位置づけが大きいものでしたが、新たに、教育コンテンツを効果的に活用し、私たちの学びを豊かにしようとする動きが出てきています。MOOC(Massive Open Online Course)をはじめとした、学習者の学習活動のログを蓄積し、学習者コミュニティにおける協調活動を通じた学びの推進です。

本学では、このような動きを踏まえ、高等教育推進機構に「オープンエデュケーションセンター」を設置することとなりました。本学のオープンコースウェアは、今後、同センターにて、発展的に活動を進めてまいります。また本学は、北海道内の国立大学における教養教育連携事業を推進し、来年度から双方向遠隔授業を連携大学と協同で実施いたします。オープンエデュケーションセンターでは、このような本学に留まらない学びの深化を目指すとともに、成果を学内外に発信していくこととなります。引き続き、皆様のご理解、ご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

北海道大学オープンコースウェアプロジェクトチーム・代表
北海道大学情報基盤センター教授 布施 泉

目次

目次

1. 概要	1
1.1 組織	2
1.2 公開状況	5
1.3 利用状況	6
2. 活動状況	10
2.1 活動記録	10
2.2 講義資料公開状況	21
2.3 学内での活動	25
2.4 学外での活動	28
2.5 著作権処理	34
3. まとめ	38
資料	39
I. 利用条件	40
II. 2013 年度掲載科目	52
III. 広報資料	108

1. 概要

北海道大学では、大学の社会貢献、大学のビジビリティ向上、大学教育の改善を目的として、2006 年より北海道大学オープンコースウェア(以下、北大 OCW)の Web サイトを開設し、教育コンテンツの提供を行ってきた。本年度も多くの先生方にご協力いただき、また学内の諸事業等と連携・協力し、コンテンツ収録・受領および公開を行った。2013 年 2 月末現在で、収録・受領件数は、正規講義 116 コンテンツ(12 コース)、公開講座等 93 コンテンツの合計 209 コンテンツである。また、公開件数は、正規講義 102 コンテンツ(11 コース)、公開講座等 62 コンテンツの合計 164 コンテンツである(3 月公開予定を含む)。

iTunes U からの配信を進めたほか、iTunes U サイトへのリンクを明示し、視聴者の利便性向上に努めた。また、北大学生や入学希望学生の支援のひとつとして、各学部・学科の紹介コンテンツやオープンキャンパスの講義の収録・配信を行った。さらには、国際化推進のため、英語で行われている講義の収録・配信、外国語に翻訳されたコンテンツの配信、韓国・高麗大学 OCW と連携し、相互に翻訳・交換するプロジェクト(コンテンツ交換プロジェクト)を進めた。

広報活動としては、従来から行っていたポスター配布等に加え、講義・公開講座収録時にパンフレットを配布することも試みた。また、日本オープンコースウェア・コンソーシアム(JOCW)及び国際オープンコースウェア・コンソーシアム(OCWC)と連携し、北大 OCW の活動を紹介するとともに、活動の連携・協力を進めてきた。JOCW の今後のあり方についても提案している。

本年度の平均月間アクセス数は、ページビュー(閲覧)数約 63 万となり、目標値である年間 400 万ページビューの定常的な閲覧数の確保を達成している。利活用の形態としては、既に資料を公開している複数の教員が、新規開講科目のシラバス上に北大 OCW 上の公開講義資料を参考すべき資料として 14 科目で記載していた。また、教育用 DVD として二次利用されるなど、学外からの二次利用に関する問合せが 3 件あった。

コンテンツの作成にあたっては、OCW スタッフが映像収録や編集・著作権処理を行うことで、講義担当教員、講演者の負担を軽減している。しかしながら、著作権処理については、著作物 1 点ごとに精査し、第三者著作物の場合には著作権者への許諾申請を行っているため、膨大な処理時間がかかっていた。第三者著作物に対する「ぼかし」処理等により、講義・講演の本質が損なわれことを防ぎつつ、著作権処理の効率化及び許諾率向上に向けた対策を行った。

1.1 組織

北大 OCW プロジェクトチームが OCW 事業に関わる事項について企画・調整を行い、OCW 連絡責任者が各部局との連絡・調整を行っている。また、実施チーム(高等教育推進機構 1 名、学務部 2 名)が撮影・編集・著作権処理等の実務を行っている。



北海道大学オープンコースウェア実施体制概略

1.1.1 北海道大学 OCW プロジェクトチーム

	所属・職名	氏名
チームリーダー	情報基盤センター 教授	布施 泉
	情報基盤センター 准教授	重田 勝介
	高等教育推進機構 准教授	山田 邦雅
	高等教育推進機構 准教授	三上 直之
	高等教育推進機構 准教授	池田 文人
	高等教育推進機構 特任准教授	石村 源生
	高等教育推進機構 特定専門職員	佐多 正至
オブザーバ	学務部	米永 明恵
オブザーバ	学務部	川村 優子

1.1.2 OCW 連絡責任者

所属・職名	氏名
文学研究科 教授	川端 康弘
法学研究科 准教授	水野 浩二
経済学研究科 准教授	肥前 洋一
医学研究科 教授	大滝 純司
歯学研究科 准教授	高橋 茂
工学研究院 教授	羽山 広文
獣医学研究科 講師	坂本 健太郎
情報科学研究科 教授	北 裕幸
水産科学研究院 准教授	平譚 亨
地球環境科学研究院 教授	露崎 史朗
理学研究院 教授	日置 幸介
薬学研究院 教授	木原 章雄
農学研究院 教授	小林 泰男
先端生命科学研究院 教授	芳賀 永
教育学研究院 准教授	浅川 和幸
メディア・コミュニケーション研究院 教授	園田 勝英
保健科学研究院 教授	村田 和香
公共政策学連携研究部 准教授	堀口 健夫
低温科学研究所 講師	杉山 慎
電子科学研究所 准教授	辻見 裕史
遺伝子病制御研究所 教授	清野 研一郎
触媒化学研究センター 准教授	高草木 達
スラブ研究センター 准教授	長縄 宣博
情報基盤センター 准教授	重田 勝介
北方生物圏フィールド科学センター 教授	山田 敏彦
留学生センター 教授	山下 好孝
高等教育推進機構 准教授	山田 邦雅

1.2 公開状況

1.2.1 配信チャネル

北大 OCW では、情報基盤センター(メイン)及び北京オフィス(ミラー)に Web サーバを設置し PDF 等の講義資料配信及び Flash ストリーミングによる映像配信を行っている。また、MP4 形式での配信チャネルとしては、ポッドキャスト配信、アップル社によるコンテンツ配信サイト iTunes Store、iTunes U(2012 年 1 月より配信開始)となっている。将来的には iTunes U に一元化する予定である。

1.2.2 Web サイト公開状況

2013 年度の公開数(3 月公開予定を含む)は、全学教育科目から 97 コンテンツ(6 コース)、学部専門科目から 1 コンテンツ(1 コース)、大学院教育科目から 3 コンテンツ(3 コース)、高麗大学提供 1 コンテンツ(1 コース)の、合わせて 102 コンテンツ(11 コース)である。また、オープンキャンパス、国際原子力人材育成イニシアティブ事業提供の公開講義、鈴木章名誉教授の「サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館」、北海道大学公開講座など 62 コンテンツの講演等の映像を公開し、合計 164 コンテンツを新規に公開した。

これにより正規科目約 130 コース、公開講座等約 270 コースの計約 400 コース(1000 を超えるコンテンツ)が公開されている。

1.2.3 iTunes U 公開状況

コンテンツ提供形態を充実させるために、本年度も iTunes U からの新規公開、配信コンテンツの高解像度化を図った。正規科目 66 コンテンツ(7 コース)、公開講座等 24 コンテンツ(14 コース)の計 90 コンテンツ(21 コース)の新規登録・更新を行った。これにより 188 のコースが公開されている。

1.3 利用状況

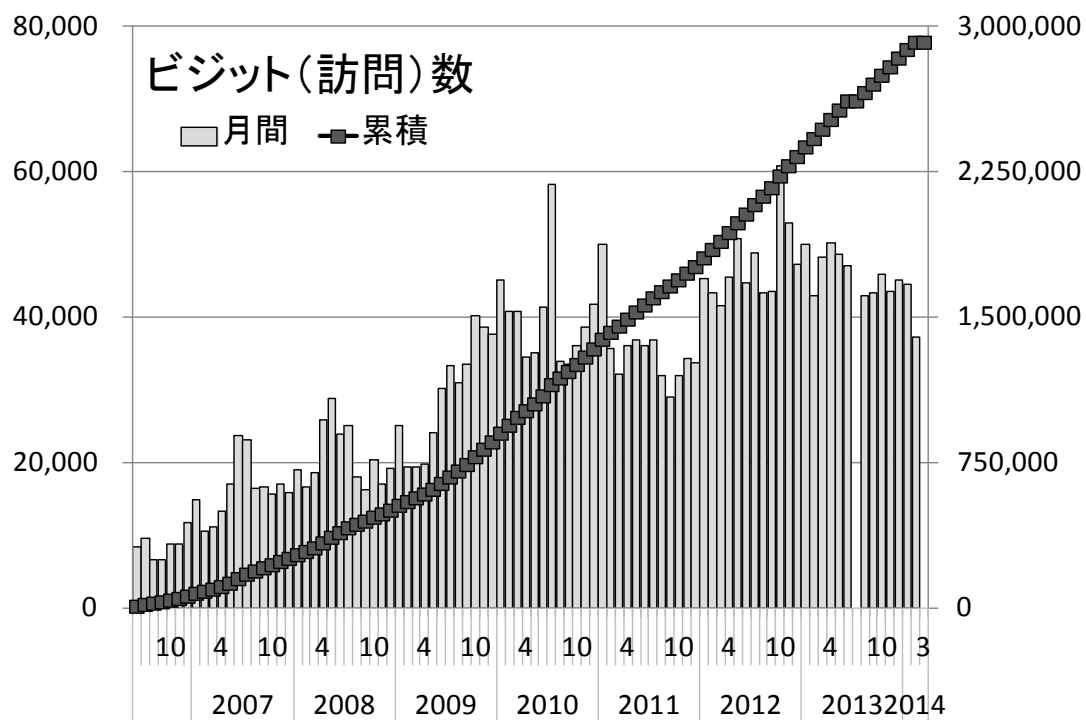
1.3.1 アクセス統計（全体）

次頁にビジット数およびページビュー数の推移を示す。これらの値は情報基盤センター(メイン)及び北京オフィス(ミラー)の Web サーバへのアクセスのほか、iTunes Uからのアクセスが含まれる。2006 年の北大 OCW の Web サイト公開以来、コンテンツ数の増加に伴い、ビジット数、ページビュー数いずれについても順調にアクセス数が増加している。特に映像コンテンツを増加させた 2009 年の podcast 配信開始後からビジット数に急激な増加が見られる。また 2012 年 1 月、iTunes U からの配信開始後のアクセス数においても、急激な増加が見られる。

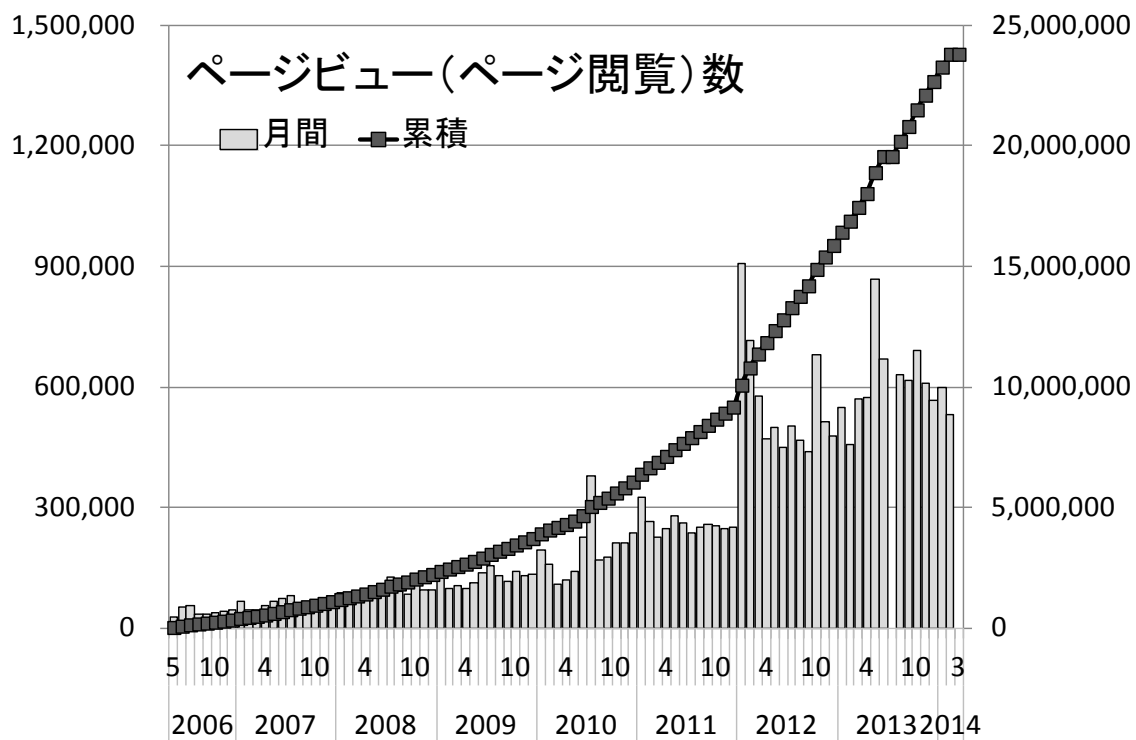
2013 年 4 月～2014 年 2 月(2013 年 7 月末集計)の平均月間アクセス数は、ビジット数約 4.5 万、ページビュー数約 63 万である。2012 年度の平均月間アクセス数は、ビジット数約 4.8 万、ページビュー数約 51 万であるから、昨年比としてはそれぞれ 0.93 倍、1.25 倍となる。北大 OCW の Web サイト公開以来の累計は、2014 年 2 月末で、ビジット数約 290 万、ページビュー数約 2,380 万となっている。

1.3.2 アクセス統計（学内）

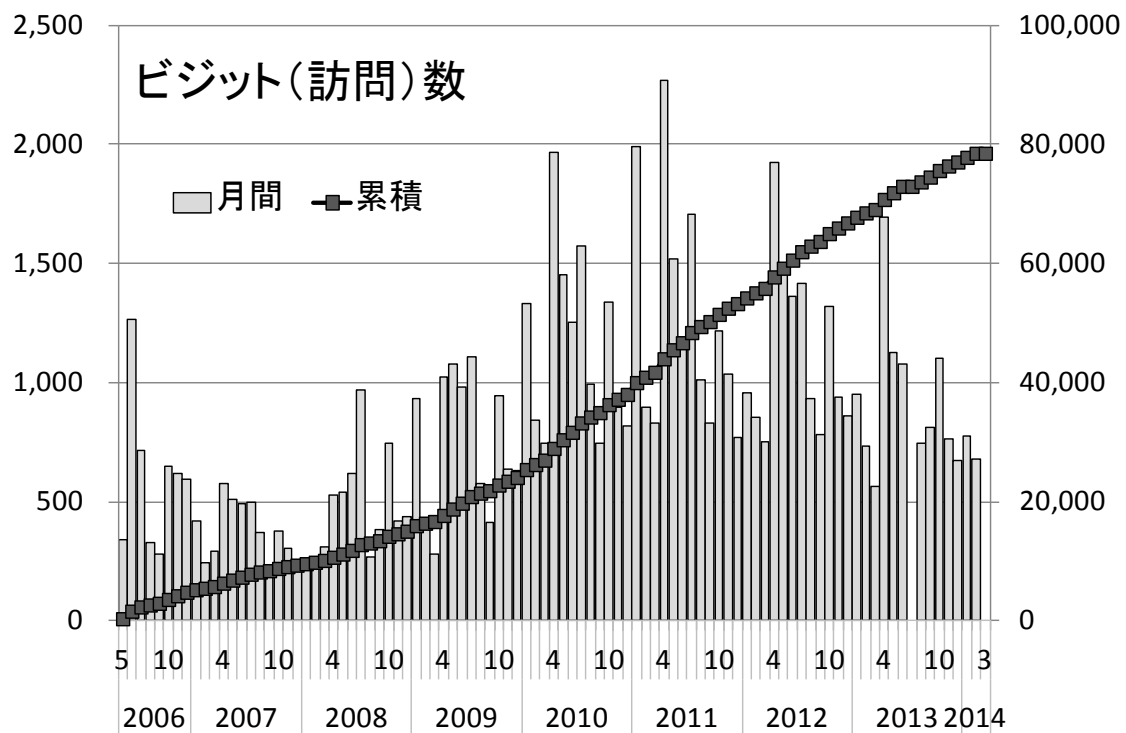
学内からの利用について、2013 年 4 月～2014 年 2 月(2013 年 7 月末集計)の平均月間アクセス数は、ビジット数約 950、ページビュー数約 5.4 万である。2012 年度の平均月間アクセス数は、ビジット数約 1,100、ページビュー数約 4.4 万である。



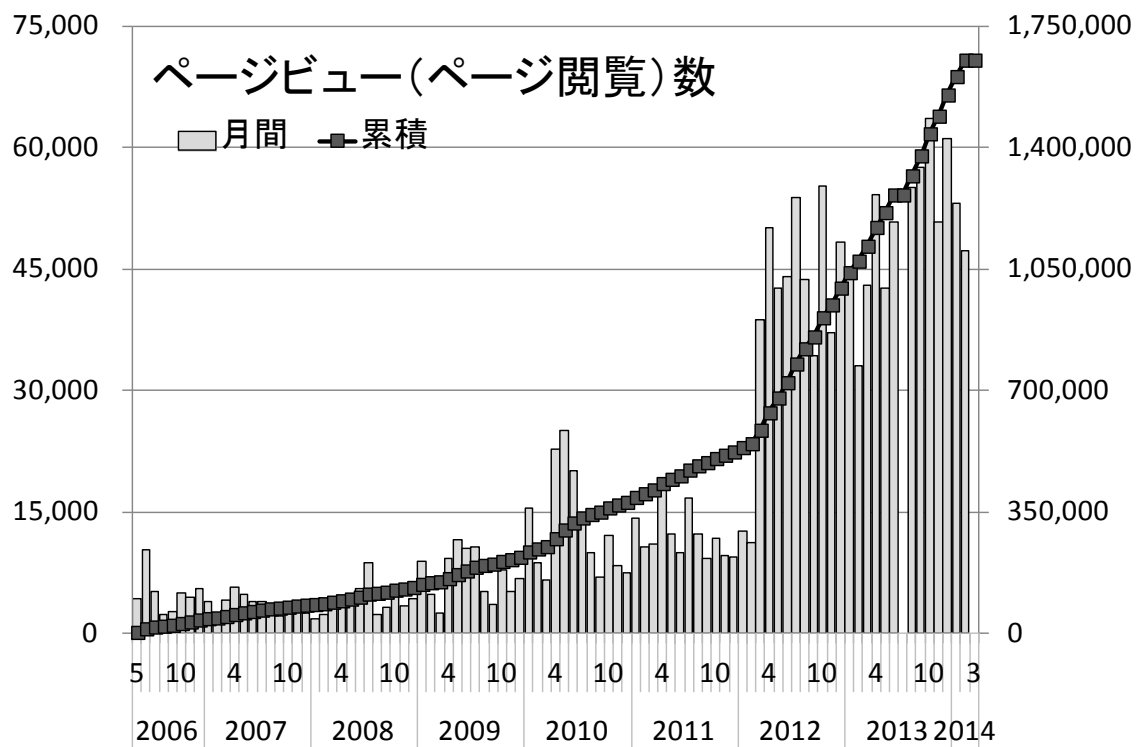
ビジット (訪問) 数推移



ページビュー数推移



学内からの訪問数推移



学内からのページビュー数推移

1.3.3 シラバスシステムで紹介している科目

履修時に参考になるようにシラバスシステムにおいて、2013 年度は 14 科目が明示している。

シラバスシステムで OCW 公開講義資料を紹介している 2013 年度開講科目

	科目名	担当教員
学士課程	特別講義 大学と社会	亀野 淳、木村 純、三上 直之
	特別講義 キャリアデザイン I	亀野 淳、三上 直之
	英語演習 上級:Introduction to Logic	中戸川 孝治
	論理学 初等論理学	中戸川 孝治
	人間と文化 誰でもプログラミング	布施 泉、平林 義治、山本 裕一
	生物機能化学実験 II	渡部 敏裕、江澤 辰広
	水産海洋工学	芳村 康男
	応用物理学	芳村 康男、上野 洋路
	英語Ⅲ 中級:CALL	河合 剛
	英語Ⅳ 初級	河合 剛
	英語演習 中級:all-English training for giving a campus tour	河合 剛
修士課程	氷河・氷床学特論(氷床・氷河の動力学)	GREVE RALF GUNTHER
	マルチメディア言語情報処理論演習	河合 剛

1.3.4 HU-OCW 映像コンテンツの二次利用

北海道大学オープンコースウェアコンテンツの二次利用についての学外からの問合せは、2013 年度 3 件あった。このうち「サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館」は教育用 DVD として活用されることが決定している。

2. 活動状況

2.1 活動記録

2013 年

4 月	5 日	北大総合博物館 展示映像 「北海道大学和歌山研究林本館」受領	情報基盤センター
	8 日	新入生対象パンフレット配布	高等教育推進機構
	11 日	JOCW 幹事会	明治大学(東京)
	13 日	北大総合博物館土曜市民セミナー 「Serbia - a crossroad / セルビア」収録	総合博物館
	15 日	「情報倫理小冊子(韓国語版)」受領	情報基盤センター
	16 日	放送大学 JOCW 横断検索システムメタデータ (2012 年度分)提出	
	18 日	全学教育科目 特別講義 「大学と社会」収録	高等教育推進機構
	23 日	JOCW 幹事会	情報基盤センター
	25 日	全学教育科目 特別講義 「大学と社会」収録	高等教育推進機構
	26 日	台湾大学副学長来学	高等教育推進機構
	26 日	第 13 回時計台サロン 「北海道農業は気候変動にどう向き合うか？」収録	札幌市時計台
	30 日	北大総合博物館 展示映像 「和歌山研究林紹介 北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 森林圏ステーション 2013」受領	情報基盤センター

5 月	4 日	バイオミメティクス市民セミナー 「ナノテクノロジーが拓くバイオミメティクス」収録	総合博物館
	9 日	全学教育科目 特別講義 「大学と社会」収録	高等教育推進機構
	11 日	北大総合博物館土曜市民セミナー 「豊平川がつくりだした自然景観」収録	総合博物館
	14 日	JOCW 幹事会	情報基盤センター
	16 日	全学教育科目 特別講義 「大学と社会」収録	高等教育推進機構
	22 日	JOCW 総会	内田洋行株式会社 東京協創広場 CANVAS(東京)
	23 日	全学教育科目 特別講義 「大学と社会」収録	高等教育推進機構
	23 日	最終講義 「旅の途中にて-サケ学起学」受領	情報基盤センター
	30 日	全学教育科目 特別講義 「大学と社会」収録	高等教育推進機構
6 月	1 日	バイオミメティクス市民セミナー 「ナノインプリント技術による表面構造の模倣とバイオミメティクス」収録	総合博物館
	8 日	北大総合博物館土曜市民セミナー 「破綻国家の教訓から考える持続的国家」収録	総合博物館
	13 日	韓国・高麗大学 OCW コンテンツ 「食品と社会(Food in Society)」受領	情報基盤センター
	15 日	国際原子力人材育成等推進事業 「環境放射能基礎コース(初級コース)」収録	工学部
	16 日	国際原子力人材育成等推進事業 「環境放射能基礎コース(初級コース)」収録	工学部
	20 日	全学教育科目 特別講義 「大学と社会」収録	高等教育推進機構

	20 日	JOCW 幹事会	情報基盤センター
	21 日	第 14 回時計台サロン 「森林空間の科学」収録	札幌市時計台
	27 日	全学教育科目 特別講義 「大学と社会」収録	高等教育推進機構
7 月	1 日	北海道大学公開講座 「グローバリゼーションと教育の変容」収録	情報教育館
	2 日	CEED 共同プロジェクト打ち合わせ	情報基盤センター
	4 日	全学教育科目 特別講義 「大学と社会」収録	高等教育推進機構
	4 日	北海道大学公開講座 「エネルギーと人類の関わり」収録	情報教育館
	6 日	バイオミメティクス市民セミナー 「バイオテンプレートと構造機能材料」収録	総合博物館
	8 日	北海道大学公開講座 「実産業を支える画像技術」収録	情報教育館
	8 日	北海道大学オープンコースウェア 高校生対象ポスター発行	
	11 日	北海道大学公開講座 「日本の物価を考える」収録	情報教育館
	13 日	北大総合博物館土曜市民セミナー 「地域の問題解決と大学研究活動」収録	総合博物館
	13 日	情報基盤センター共同研究講演会 「知識のオープン化と教育の未来」収録	情報基盤センター
	14 日	国際原子力人材育成等推進事業 「環境放射能コース(中級コース)」収録	工学部
	15 日	国際原子力人材育成等推進事業 「環境放射能コース(中級コース)」収録	工学部
	18 日	全学教育科目 特別講義 「大学と社会」収録	高等教育推進機構

	18 日	北海道大学公開講座 「北海道の都市と交通の将来展望」収録	情報教育館
	20 日	人文学カフェ 「北の大地を掘る・みる・聞く」収録	紀伊国屋書店 札幌本店
	22 日	北海道大学公開講座 「わが国の医療と薬の近未来像とは」収録	情報教育館
	22 日	北海道大学オープンコースウェア 北大学附属図書館企画展示『新渡戸稲造の青春』 対象パンフレット発行	
	25 日	全学教育科目 特別講義 「大学と社会」収録	高等教育推進機構
	25 日	北海道大学公開講座 「2030 年、そのとき北海道の 食料とエネルギーは？」収録	情報教育館
	26 日	オープンキャンパス用ポスター掲示	
	29 日	北海道大学公開講座 「宗教とソーシャル・キャピタル」収録	情報教育館
8 月	3 日	バイオメテックス市民セミナー 「発生遺伝学とバイオメテックス」収録	総合博物館
	4 日	オープンキャンパス 「文学部 体験講義」収録	人文・社会科学 総合教育研究棟
	4 日	オープンキャンパス 「法学部 講演」収録	人文・社会科学 総合教育研究棟
	4 日	オープンキャンパス 「理学部 公開講座」収録	理学部
	5 日	オープンキャンパス 「農学部 生物環境工学科」収録	農学部 農場
	5 日	オープンキャンパス 「理学部 公開講座」収録	理学部
	10 日	北大総合博物館土曜市民セミナー 「再生可能エネルギーと地域経済の活性化」収録	総合博物館

20 日	第 15 回時計台サロン 「夜まで討論 TPP 第 2 弾」収録	札幌市時計台
20 日	北海道大学オープンコースウェア 一般向けパンフレット発行	
25 日	国際原子力人材育成等推進事業 「環境放射能専門家育成コース(上級コース)」収録	工学部
30 日	JOCW 幹事会	新潟大学(新潟)

9 月	6 日	全学教育科目 学問の世界 「学問の世界 2013」受領	情報基盤センター
	7 日	バイオメティクス市民セミナー 「魚類学者から見たバイオメティクス」収録	総合博物館
	13 日	国際原子力人材育成等推進事業 共同プロジェクト打ち合わせ	情報基盤センター
	14 日	北大総合博物館土曜市民セミナー 「サステナブルな企業報告を考える」収録	総合博物館
	17 日	全学教育科目 学問の世界 「学問の世界 2013」収録・受領	高等教育推進機構
	18 日	全学教育科目 学問の世界 「学問の世界 2013」収録・受領	高等教育推進機構
	19 日	全学教育科目 学問の世界 「学問の世界 2013」収録・受領	高等教育推進機構
	20 日	全学教育科目 学問の世界 「学問の世界 2013」収録・受領	高等教育推進機構
	26 日	全学教育科目 学問の世界 「学問の世界 2013」受領	情報基盤センター
	24 日	JOCW 交流会	大阪大学中之島セン ター(大阪)
	27 日	講演会 「中国における大学生の情報倫理の現状」収録	情報基盤センター

10 月	2 日	全学教育科目 英語 IV 「初級: All-English Training for Travel and Documentaries」収録	高等教育推進機構
	3 日	全学教育科目 思索と言語 「言葉を科学する」収録	高等教育推進機構
	3-4 日	CRIC 著作権ビジネス講座	京都ガーデンパレス (京都)
	5 日	バイオメティクス市民セミナー 「昆虫の SEM 写真から読み取るバイオメティクス」 収録	総合博物館
	9 日	全学教育科目 英語 IV 「初級: All-English Training for Travel and Documentaries」収録	高等教育推進機構
	10 日	全学教育科目 思索と言語 「言葉を科学する」収録	高等教育推進機構
	12 日	北大総合博物館土曜市民セミナー 「木質バイオマスの総合利用とその今日的意義」収録	総合博物館
	16 日	全学教育科目 英語 IV 「初級: All-English Training for Travel and Documentaries」収録	高等教育推進機構
	17 日	全学教育科目 思索と言語 「言葉を科学する」収録	高等教育推進機構
	23 日	全学教育科目 英語 IV 「初級: All-English Training for Travel and Documentaries」収録	高等教育推進機構
	24 日	全学教育科目 思索と言語 「言葉を科学する」収録	高等教育推進機構
	29 日	第 16 回時計台サロン 「農畜産物と私たちの健康」収録	札幌市時計台
	30 日	全学教育科目 英語 IV 「初級: All-English Training for Travel and Documentaries」収録	高等教育推進機構

	31 日	全学教育科目 思索と言語 「言葉を科学する」収録	高等教育推進機構
11 月	3 日	サステナビリティ・ウィーク 「ようこそ！ ヘルスサイエンスの世界へ」収録	保健科学研究所
	6 日	サステナビリティ・ウィーク 「サステイナブルキャンパス国際シンポジウム」収録	学術交流会館
	6 日	全学教育科目 英語 IV 「初級：All-English Training for Travel and Documentaries」収録	高等教育推進機構
	7 日	全学教育科目 思索と言語 「言葉を科学する」収録	高等教育推進機構
	8 日	全学教育科目 一般教育演習 「あつまれメディカル Lab サイエンス大好き人間!!」 収録	高等教育推進機構
	9 日	国際原子力人材育成等推進事業 「第3回環境放射能に関する国際セミナー 福島の実地研修のための科学的基礎」収録	学術交流会館
	9 日	北大総合博物館土曜市民セミナー 「男らしさの神話と実話」収録	総合博物館
	10 日	国際原子力人材育成等推進事業 「第3回環境放射能に関する国際セミナー 福島の実地研修のための科学的基礎」収録	学術交流会館
	13 日	全学教育科目 英語 IV 「初級：All-English Training for Travel and Documentaries」収録	高等教育推進機構
	14 日	全学教育科目 思索と言語 「言葉を科学する」収録	高等教育推進機構
	15 日	全学教育科目 一般教育演習 「あつまれメディカル Lab サイエンス大好き人間!!」 収録	高等教育推進機構
	17 日	人文学カフェ 「視線のドラマ」収録	紀伊国屋書店 札幌本店
	20 日	全学教育科目 英語 IV 「初級：All-English Training for Travel and	高等教育推進機構

Documentaries」収録

	21 日	全学教育科目 思索と言語 「言葉を科学する」収録	高等教育推進機構
	24 日	サステナビリティ・ウィーク 「白夜の北極・グリーンランド展 同時開催市民セミナー」収録	総合博物館
	25 日	全学教育科目 学問の世界 「学問の世界 2013」受領	情報基盤センター
	27 日	全学教育科目 英語 IV 「初級: All-English Training for Travel and Documentaries」収録	高等教育推進機構
	27 日	JOCW 幹事会	明治大学(東京)
	28 日	全学教育科目 思索と言語 「言葉を科学する」収録	高等教育推進機構
	29 日	北海道大学オープンコースウェア Newsletter No.6 メディア・コミュニケーション研究院奥准教授に インタビュー	メディア・コミュニケー ション研究院
12 月	2 日	サイエンスパーク 収録打ち合わせ	情報基盤センター
	3 日	CEED 制作ダイジェスト 受領	情報基盤センター
	4 日	全学教育科目 英語 IV 「初級: All-English Training for Travel and Documentaries」収録	高等教育推進機構
	5 日	全学教育科目 思索と言語 「言葉を科学する」収録	高等教育推進機構
	7 日	サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館 「ノーベル化学賞鈴木先生と見て、触れて、楽しみ、 学ぼう！」収録	総合博物館
	11 日	全学教育科目 英語 IV 「初級: All-English Training for Travel and Documentaries」収録	高等教育推進機構

12 日	全学教育科目 思索と言語 「言葉を科学する」収録	高等教育推進機構
12 日	富山高専 OCW 担当者による北大 OCW 視察	情報基盤センター
14 日	北大総合博物館土曜市民セミナー 「食快感の解剖学」収録	総合博物館
18 日	第 17 回時計台サロン 「身近にいた温暖化の意外な犯人」収録	札幌市時計台
18-20 日	大学 ICT 推進協議会 2013 年度年次大会	幕張メッセ(千葉)
19 日	全学教育科目 思索と言語 「言葉を科学する」収録	高等教育推進機構
20 日	JOCW 幹事会	幕張メッセ(千葉)

2014 年

1 月	5 日	バイオミメティクス市民セミナー 「バイオミメティクスだけじゃない!!博物館の活用法」 収録	総合博物館
	10 日	全学教育科目 一般教育演習 「あつまれメディカル Lab サイエンス大好き人間!!」収録	高等教育推進機構
	11 日	北大総合博物館土曜市民セミナー 「フカシギの数え方」収録	総合博物館
	14 日	北海道大学オープンコースウェア 北大生対象パンフレット発行	
	15 日	全学教育科目 英語 IV 「初級: All-English Training for Travel and Documentaries」収録	高等教育推進機構
	15 日	北海道大学オープンコースウェア Newsletter No.6 発行	

15 日	JOCW 幹事会	情報基盤センター
16 日	全学教育科目 思索と言語 「言葉を科学する」収録	高等教育推進機構
22 日	文学部専門科目 英米文学 「Applied Literature for Sustainability」	人文・社会科学 総合教育研究棟
23 日	全学教育科目 思索と言語 「言葉を科学する」収録	高等教育推進機構
24 日	全学教育科目 一般教育演習 「あつまれメディカル Lab サイエンス大好き人間!!」 収録	高等教育推進機構
30 日	全学教育科目 思索と言語 「言葉を科学する」収録	高等教育推進機構
2 月	1 日 バイオミメティクス市民セミナー 「生物の不思議を工学に生かす」収録	総合博物館
	6 日 全学教育科目 思索と言語 「言葉を科学する」1 回目再収録	高等教育推進機構
	8 日 北大総合博物館土曜市民セミナー 「有珠火山の植生と土壌の回復」収録	総合博物館
	11 日 講演会 「アンプラグド・コンピュータ科学教材の開発 ―高麗大学における学生のプロジェクト学習―」収録	情報基盤センター
	22 日 人文学カフェ 「机の上のペン」と「ペンの下の机」 言葉のしくみを科学する認知言語学」収録	紀伊国屋書店 札幌本店
	27 日 第 11 回創成シンポジウム 「石狩から電力革命 ―目指せ！送電ロス・ゼロの世界―」収録	学術交流会館
	27 日 Open Learning Initiative 担当者と Open Education に関するワークショップ	情報基盤センター
3 月	7 日 韓国・高麗大学 コンテンツ交換プロジェクト打ち合わせ	高麗大学 (Seoul, Korea)

9 日	KOCW 担当者と OCW に関する打ち合わせ	高麗大学 (Seoul, Korea)
9 日	バイオメディクス市民セミナー 「シジミチョウ、その騙しのテクニック」収録	総合博物館
12 日	Open Education Week における JOCW イベント	情報基盤センター
22 日	文学研究科国際シンポジウム 「新渡戸稲造とこれからのグローバル化 —『武士道』と国際人—」受領	情報基盤センター
31 日	2013 年度北海道大学オープンコースウェア活動報告書発行	

2.2 講義資料・映像公開状況

2013 年度新規公開コンテンツの一覧は下記の通りである(3 月公開予定を含む)。

コース 種別		コース名	年度	担当者	コ ン テ ン ツ 数
全学 教育	特別講義	大学と社会	2013	亀野 淳 木村 純 三上 直之	10
	情報学 I	情報倫理小冊子 (情報学 I:2012 年度)	2012	布施 泉	40
	学問の世界	学問の世界	2013	瀬名波 栄潤 渡慶次 学 萩原 亨 内藤 哲 松藤 敏彦 藤井 義明 金子 勇 門出 健次 生方 信 富田 章久 小野 哲雄	11
	英語IV	初級: All-English Training for Travel and Documentaries	2013	河合 剛	13
	思索と言語	言葉を科学する	2013	奥 聡	14
	文学部	英米文学 Applied Literature for Sustainability	2013	瀬名波 栄潤	1
学部 専門 教育	工学研究科 ／工学院	広域シミュレーション特論 (CEED制作ダイジェスト)	2009	金子 勝比古	1
		構造ダイナミクス特論 (CEED制作ダイジェスト)	2012	小林 幸徳	1

	情報科学研究科	混沌系工学特論 (CEED制作ダイジェスト)	2011	井上 純一	1
公開 講義	工学	環境放射能基礎コース(初級コース)	2013	小崎 完 山盛 徹 藤吉 亮子	3
	工学	環境放射能コース(中級コース)	2013	藤吉 亮子 五十嵐 敏文 山内 有二	3
	工学	環境放射能基礎コース(上級コース)	2013	佐藤 大樹	1
オープ ンキャン パス	理学	宇宙のなぞと物理学	2013	羽部 朝男	1
	法学	受験が終わったらバイトをしよう！バ イトでも役に立つ労働法の基礎知識	2013	池田 悠	1
最終 講義	水産学	旅の途中にて-サケ学起学	2012	帰山 雅秀	1
研究 教育 資料	生物学	LEPIDOPTERA(レピドプテラ) 空 を舞う昆虫たち、チョウとガの世界	2011	総合博物館	1
	林学	北海道大学和歌山研究林本館	2013	揚妻 直樹 藤田 良治	1
	林学	和歌山研究林紹介	2013	揚妻 直樹 藤田 良治	1
公開 講座／ 市民 セミナ	サイエンスパーク	ノーベル化学賞 鈴木 章先生と見 て、触れて、楽しみ、学ぼう！	2013	鈴木 章 山本 靖典	1
	サステナビリティ・ ウィーク	ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ	2012	小林 清一 宮本 顯二	2
		ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ	2013	神島 保 三神 大世 傳田 健三	3
	北海道大学公開 講座	グローバリゼーションと教育の変容	2013	小内 透	1
		日本の物価を考える	2013	工藤 教孝	1
		わが国の医療と薬の近未来像とは	2013	武田 宏司	1
		北海道の都市と交通の将来展望	2013	岸 邦宏	1

土曜市民セミナー	原子力発電所の廃炉と放射性廃棄物の処分	2012	小崎 完	1
	食糧問題から見る昭和史	2012	白木沢 旭児	1
	考古動物学から考えるアホウドリの歴史	2012	江田 真毅	1
	豊平川がつくりだした自然景観	2013	前田 寿嗣	1
	破綻国家の教訓から考える持続的国家:アフリカの社会に適した民主主義とは	2013	鍋島 孝子	1
	Serbia - a crossroad / セルビア	2013	ノヴコヴィチ・ビリャナ	1
	地域の問題解決と大学研究活動	2013	小磯 修二	1
	再生可能エネルギーと地域経済の活性化	2013	吉田 文和	1
	サステナブルな企業報告を考えるー環境報告から統合報告へー	2013	吉見 宏	1
	男らしさの神話と実話	2013	瀬名波 栄潤	1
人文学カフェ	明治十五年の《アポロ讃歌》・プラトンがつないだ古代ギリシアと日本	2012	近藤 智彦	1
	北の大地を掘る・みる・聞くー最新考古学事情ー	2013	高瀬 克範	1
	「机の上のペン」と「ペンの下の机」言葉のしくみを科学する認知言語学	2013	高橋 英光	1
時計台サロン	第 8 回 我らのスピリッツ	2012	藤田 正一 大田原 高昭	2
	第 10 回 スーパーマーケットはどこへ行くのか	2012	坂爪 浩史 横山 清	2
	第 11 回 夜まで討論！TPP 問題	2012	久田 徳二 東山 寛 吉田 徹	3
	第 13 回 北海道農業は気候変動にどう向き合うか？	2013	広田 知良 高橋 昌志	2

		第 14 回 森林空間の科学	2013	小池 孝良	1
		第 16 回 農畜産物と私たちの健康	2013	仁木 良哉 川端 潤	2
	バイオミメティクス 市民セミナー	北海道の昆虫多様性とバイオミメティクス	2012	堀 繁久	1
		農業とエントモミメティクス、バイオミメティクス	2012	森 直樹	1
		ゲルとバイオミメティクス	2012	龔 劍萍(ゲン チェンピン)	1
		生物画像から工学的「きづき」を生み出す新しいデータベース	2012	長谷山 美紀	1
		ナノテクノロジーが拓くバイオミメティクス	2013	居城 邦治	1
セミナー/講演会	教育	スキルアップセミナー 第 2 回 論文・レポートを書く前に	2012	多田 泰紘 堀越 邦恵	2
		知識のオープン化と教育の未来	2013	渡辺智暁	1
	創成シンポジウム	第 10 回 「北大から世界へ がん研究最前線」	2012	白土 博樹 田仲 伸哉 藤田 恭之 佐藤 のりゆき	4
資料室	オープンコースウェア・セミナー	アート&テクノロジーが導く未来	2012	土佐 尚子	1
コンテンツ交換プロジェクト	HU-OCW 全学教育科目	情報倫理小冊子(韓国語版) (情報学 I:2012 年度)	2012	布施 泉 岡部 成玄	9
	HU-OCW 人文学カフェ	村上春樹「1Q84」を読む(韓国語版)	2010	中村 三春	1
	KU-OCW	食品と社会 (Food in Society)	2012	キム・チオルギョ	1

2.3 学内での活動

2.3.1 コンテンツの作成・公開

本年度も引き続き、講義のほか公開講座等の映像収録を行い、映像コンテンツを公開した。映像の作成については OCW スタッフが映像の収録、編集及び著作権処理を行うことで講義の担当教員、公開講座等の講演者、主催者の負担を軽減している。

コンテンツ提供形態を充実させるために、iTunes U から OCW コンテンツの配信を行っている(2012 年 1 月開始)。しかしながら、そのうちの多くは映像の解像度が低くなっている。そこで本年度は iTunes U からの配信をさらに進めたほか、映像コンテンツの高解像度化も進めた。さらに、Flash 非対応のユーザや iPhone 等のユーザが映像コンテンツを視聴しやすくするよう、iTunes U ページへのリンクを OCW ウェブサイトに記載し、明示的に表記するよう改善した。

また、従来より英語コンテンツの公開や Web サイトの英語・中国語翻訳化を進めてきたが、本年度はさらなる多言語翻訳化に向けた取り組みを行った。具体的には映像コンテンツのテキスト化であり、約 50 の映像コンテンツを対象とした。将来的にこれらを翻訳することで多言語化できること、HTML5 に記述するテキスト情報として役に立つであろうと見込んでいる。

2.3.2 パンフレット・ニュースレター

新入生を対象にしたパンフレットを 2013 年 4 月に配布した。2013 年 7 月にはオープンキャンパス開催にあわせ北海道内の全高校にポスターを送付、また学内でも実施会場を中心に掲示した。また本ポスターをもとに一般市民向けパンフレット、北大生向けパンフレットをリメイクし、公開講座や市民セミナー、講義収録の際に配布、北海道大学オープンコースウェアの認知度が高まるよう広報活動を行った。2014 年 1 月にはニュースレター第 6 号を発行し全教員に配布した。

2.3.3 学内連携活動

本年度に行った学内連携活動のうち、特筆すべきものを記載する。

1. 国際原子力人材育成イニシアティブ事業との連携

人材育成プログラムのひとつである独自の講義、「環境放射能基礎コース(初級コース)」、「環境放射能コース(中級コース)」、「環境放射能専門家育成コース(上級コース)」および「国際セミナー(上級コース)」の4コースのOCW化を図っている。2014年2月末時点で7コンテンツ(3コース)が公開されている。

中級・上級コースは学部・大学院の講義レベルに設定されており、正規の講義ではないものの、オープンエデュケーションを推進する活動であると考え。また、OCW化されたコンテンツを受講レベルチェックなどに活用することも予定されている。

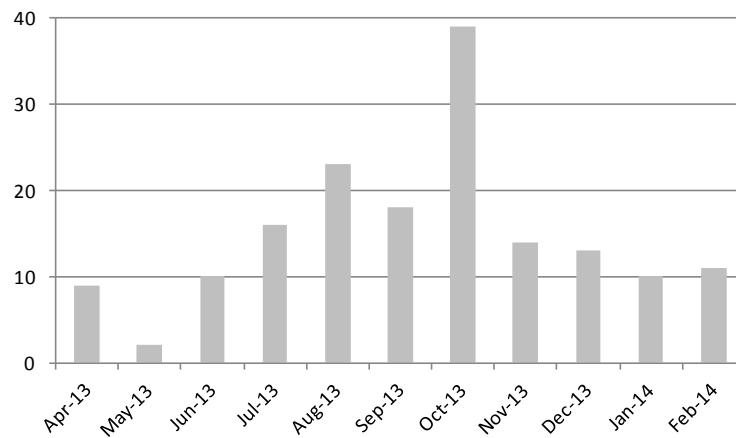
2. 北海道大学大学院工学研究院工学系教育研究センター(CEED)との連携

総合入試学生に対する学部決定の際の参考情報提供、一般人を対象とした広報を目的として、CEEDで保有しているe-learningコンテンツのダイジェスト版を北大OCWから配信することとなった。本年度は3コンテンツ(3コース)が提供され、北大OCWのウェブサイトのほか、iTunes Uからの配信も行っている。

3. 北海道大学附属図書館との連携

附属図書館主催の展示「新渡戸稲造の青春」開催(2013年8月～11月)にあたり、相互に広報活動を行った。北大OCWのウェブサイトでは、展示情報へのリンクおよびお知らせを掲載した。また、北大OCW掲載コンテンツである「知の系譜」に関連して、本展示では受講ノートの精巧なレプリカが展示されていたことから、北大OCWパンフレット、「知の系譜」パンフレット(参照:資料Ⅲ広報資料)を展示場で配布した。「知の系譜」については作成したパンフレット80部全てが配布された。

次のグラフは「知の系譜」で掲載しているPDFファイルダウンロード数の推移である。2013年8月～10月にダウンロード件数が増加していることがわかる。昨年度の月平均ダウンロード数が13件であるから、広報効果はあったものと考えられる。



「知の系譜」ファイルダウンロード件数推移

4. 総合入試学生支援

総合入試で入学した 1 年次学生に対する支援として、全学教育科目「学問の世界」を収録、主に学内限定で配信を行った。「学問の世界」は北海道大学の各学部・学科等における学問についてその概論を学ぶ講義であり、北大 OCW コンテンツを視聴することで、移行する学部・学科を決める参考になるものと期待できる。全 55 コマ(学部・学科等)のうち、15 コマの講義資料・映像を受領・収録し、2014 年 2 月末時点で 11 コンテンツが公開されている。

2.4 学外での活動

2.4.1 日本オープンコースウェアコンソーシアム（JOCW）

日本オープンコースウェア・コンソーシアム(JOCW)は、我が国におけるオープンコースウェアの活動に関し会員間での情報交換を行い、その活動を援助し普及することを目的としている。2013 年 5 月時点で正会員(高等教育機関等)23、準会員(非営利団体等)3、賛助会員(営利団体等)15 の計 41 団体が加盟している。

正会員

大阪大学	関西大学	関西学院大学
九州大学	京都大学	熊本大学
慶應義塾大学	国際基督教大学	上智大学
女子栄養大学	筑波大学	東京工業大学
東京大学	同志社大学	名古屋大学
文化学園	北海道大学	法政大学
放送大学	明治大学	立命館大学
立命館アジア太平洋大学	早稲田大学	

準会員

クリエイティブ・コモンズ・ ジャパン	高度映像情報センター	サイバー・キャンパス・ コンソーシアム TIES
-----------------------	------------	-----------------------------

賛助会員

株式会社アーネット	株式会社内田洋行 (特別賛助会員)	NTT レゾナント株式会社
キャストリア株式会社	グローバルコモンズ株式会社	株式会社サイバー教育研究所
株式会社 CMS コミュニケーションズ	セレゴ・ジャパン株式会社	株式会社デジタル・ナレッジ
東京電機大学出版局	日本イーラーニング コンソーシアム	株式会社ネットラーニング (特別賛助会員)
株式会社プロシーズ	メディアサイト株式会社	株式会社メディア・リンク

本年度総会において JOCW の位置付けを拡大することが承認され、それに対応して規約が改正された(日本オープンコースウェア・コンソーシアム会則より)。

1. 第 3 条を以下の通り変更する。

本会は広くオープン教育の普及活動に関し、会員間での情報交換を行い、この活動を援助し普及することを目的とする。オープン教育に関する活動には、高等教育機関における正規の講義に関する情報のインターネット無償公開活動であるオープンコースウェア(OpenCourseWare:OCW)を核として、そこから派生したより広範な概念であるオープン教育資源(Open Educational Resources:OER)の生成・蓄積・利活用、および大規模なオープンオンライン講座(Massive Open Online Courses:MOOCs)などを含む。

2. 第 5 条の正会員、准会員、賛助会員を以下の様に変更する。

正会員:本会は学校教育法で定められた高等教育機関およびその構成部局等であって、本会の目的(第 3 条)に賛同する機関を正会員とする。正会員は本会の運営に関わる代表者名を幹事会に提出する。この代表者を正会員代表者と呼ぶ。

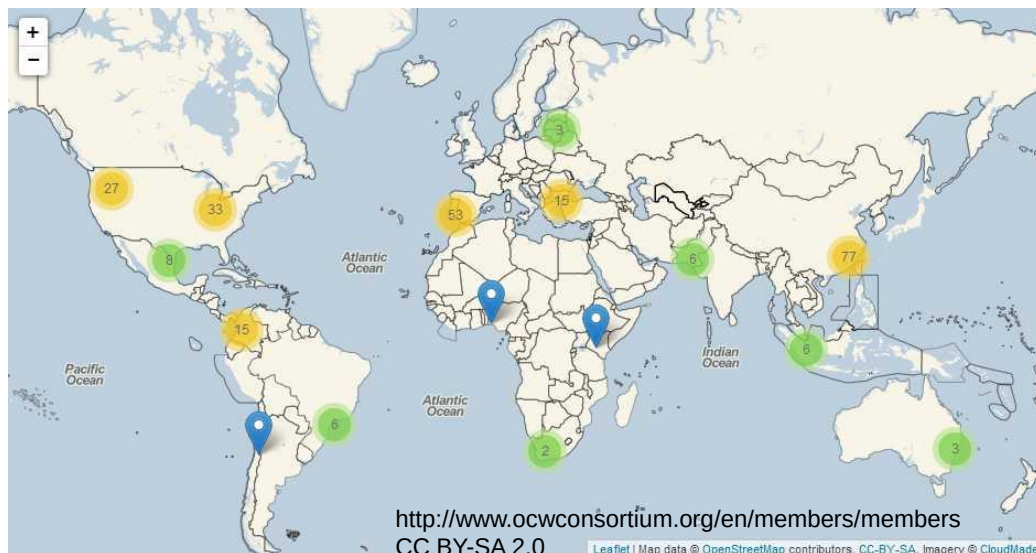
准会員:本会の目的(第 3 条)に賛同する非営利機関を准会員とする。准会員は本会の運営に関わる代表者名を幹事会に提出する。この代表者を准会員代表者と呼ぶ。

賛助会員:本会の目的(第 3 条)に賛同する機関を賛助会員とする。賛助会員は本会の運営に関わる代表者名を幹事会に提出する。この代表者を賛助会員代表者と呼ぶ。

北海道大学は幹事校として JOCW 幹事会に参加しており、活動計画等について審議、検討している。2014 年 1 月に開催された幹事会では、JOCW の今後のあり方について JOCW のミッション、役割、望ましい組織体制を提案した。

2.4.2 オープンコースウェア・コンソーシアム（OCWC）

オープンコースウェア・コンソーシアムは世界の 52 の国・地域から 250 を超える大学・機関がメンバーとして加盟しており、年 2 回開催される OCW 国際会議などで情報交換等を行っている。



OCW 加盟機関所在国・地域

加盟機関所在国・地域（2014 年 2 月末時点）

Afghanistan	Australia	Belgium
Brazil	Canada	Chile
China	Colombia	Costa Rica
Denmark	Dominican Republic	Ecuador
Finland	France	Germany
Greece	Hong Kong	India
Indonesia	Iran	Israel
Italy	Japan	Kenya
Korea	Malaysia	Mexico
Netherlands	Nigeria	Oman
Pakistan	Panama	Peru
Poland	Portugal	Puerto Rico
Russia	Saudi Arabia	Serbia and Montenegro
Slovenia	South Africa	Spain
Sweden	Switzerland	Taiwan
Thailand	Turkey	United Arab Emirates
United Kingdom	United States	Venezuela
Vietnam		

2.4.3 会議、研究会等

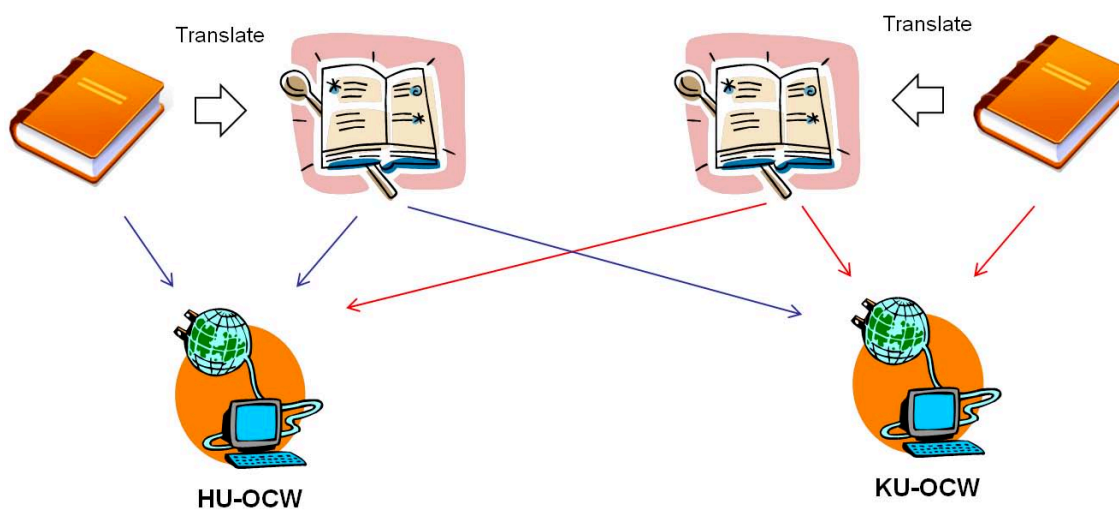
国内で開催された会議等に参加し、北海道大学オープンコースウェアについて報告した。

会議

JOCW 幹事会	2013 年 4 月 11 日 明治大学(東京)
JOCW 幹事会	4 月 23 日 遠隔参加
JOCW 幹事会	5 月 14 日 遠隔参加
JOCW 総会	内田洋行株式会社 東京協創広場 CANVAS(東京)
JOCW 幹事会	6 月 20 日 遠隔参加
JOCW 幹事会	8 月 30 日 新潟大学(新潟)
JOCW 交流会	9 月 24 日 大阪大学中之島センター(大阪)
JOCW 幹事会	11 月 27 日 明治大学(東京)
JOCW 幹事会	12 月 20 日 幕張メッセ(千葉)
JOCW 幹事会	2014 年 1 月 15 日 遠隔参加
Open Education Week JOCW イベント(ライブストーリーミング)	2014 年 3 月 12 日 遠隔参加

2.4.4 学外連携活動

北大 OCW では昨年度より韓国・高麗大学 OCW との連携を図り、コンテンツ交換プロジェクトを進めてきた。本プロジェクトでは、下図のようにそれぞれが保有するコンテンツを他言語（日本語コンテンツなら韓国語、韓国語コンテンツなら日本語）に翻訳し、翻訳されたコンテンツを相互に交換・広報する。



コンテンツ交換プロジェクト

本プロジェクトを進めることにより、

- 外国語コンテンツの数が増加し、国際化推進の一助となる
- 他機関のコンテンツの数が増加し、国際化推進の一助となるほか、海外と比較するための研究・教育資料となる
- 配信チャンネルが増加し、広報効果が高まる

ことが見込める。

北大 OCW からは以下の 2 つのコンテンツを準備した。

1. 情報倫理小冊子(韓国語版)
※全学教育科目「情報学 I」で使われた情報倫理に関する資料
2. 村上春樹「1Q84」を読む 一物語をかきかえるー (韓国語版)
※北大 OCW No.1 アクセスコンテンツ(2013/2-2014/1 iTunes U ダウンロード数)

一方、高麗大学 OCW からは、

1. 食品と社会(Food in Society)
※2012 年第 2 四半期に高麗大学で開設された講義資料

の提供を受けることになっている。

また、本プロジェクトを機に、北大 OCW の Web サイトの韓国語ページを作成し、多言語化を進めた。



北大 OCW コンテンツ交換プロジェクトのページ（韓国語版）
<http://ocw.hokudai.ac.jp/Project/Exchange/index.php?lang=kr>

2.5 著作権処理

2.5.1 はじめに

北海道大学オープンコースウェアでは、Web サイト上で講義資料を公開する際には、著作権法の順守を特に重要視している。

日本の著作権法では、第 35 条に示されるように、教育機関における授業の中での著作物の使用については、著作権者の利益を不当に害することなく、必要と認められる限度においては、著作権者の許諾を得る必要がない。しかし、それは授業が行われる場に限定されており、たとえ教育機関の Web サイトであっても、インターネット等で公開する場合は同条の適用はされない。

また、著作権法第 32 条第 1 項の「引用」に該当するのであれば、著作者の許諾を得ずとも利用が可能であるが、「正当な範囲内」となる要件を満たすこと、引用の必然性があることを示す必要がある。現状としては、条件をきちんと満たしているか否かが不明確な場合、もしくは担当者が判断できない場合が多いことから、北大 OCW では、第三者著作物は、原則、著作者の許諾を得てから掲載している。

(学校その他の教育機関における複製等)

第 35 条 学校その他の教育機関(営利を目的として設置されているものを除く。)において教育を担当する者及び授業を受ける者は、その授業の過程における使用に供することを目的とする場合には、必要と認められる限度において、公表された著作物を複製することができる。ただし、当該著作物の種類及び用途並びにその複製の部数及び態様に照らし著作権者の利益を不当に害することとなる場合は、この限りでない。

2 公表された著作物については、前項の教育機関における授業の過程において、当該授業を直接受ける者に対して当該著作物をその原作品若しくは複製物を提供し、若しくは提示して利用する場合又は当該著作物を第 38 条第 1 項の規定により上演し、演奏し、上映し、若しくは口述して利用する場合には、当該授業が行われる場所以外の場所において当該授業を同時に受ける者に対して公衆送信(自動公衆送信の場合にあつては、送信可能化を含む。)を行うことができる。ただし、当該著作物の種類及び用途並びに当該公衆送信の態様に照らし著作権者の利益を不当に害することとなる場合は、この限りでない。

(引用)

第 32 条 公表された著作物は、引用して利用することができる。この場合において、その引用は、公正な慣行に合致するものであり、かつ、報道、批評、研究その他の引用の目的上正当な範囲内で行なわれるものでなければならない。

2 国若しくは地方公共団体の機関、独立行政法人又は地方独立行政法人が一般に周知させることを目的として作成し、その著作の名義の下に公表する広報資料、調査統計資料、報告書その他これらに類する著作物は、説明の材料として新聞紙、雑誌その他の刊行物に転載することができる。ただし、これを禁止する旨の表示がある場合は、この限りでない。

2.5.2 著作権処理作業

講義・講演資料の Web 公開に際しては、利用している図表等の原著作者から転載の許諾を要する必要性が多く資料で見受けられる。この利用許諾を申請する作業は、教員・講演者にとって非常に煩雑なものであり、北大 OCW で代行してきた。講義・講演資料で第三者著作物が使用されている場合は、その第三者著作物に関する情報提供を当該担当者に求め、講義・講演資料を第三者著作物 1 点ごとに精査し、明確にパブリックドメインとして自由に利用できる、あるいは引用として明確である場合以外は、すべて著作権者に使用許諾を求める手続きをしている。以下に、北大 OCW が行っている著作権処理と使用許諾申請結果等を記述する。

著作権処理は、下記のような手順となる(著作権処理フローチャート)。

1. 講義・講演資料に含まれる全ての著作物(図版、表、グラフ、写真、地図など)を抽出
2. 著作者(作成者)の確認
図等の作成者が第三者かどうかチェックする。
3. 出典の確認
出典の情報が正しいかどうか等チェックする。
4. 利用規約の確認
第三者著作物の出版・発行者(以下、発行者)の Web サイト等を確認し、何らかの規約が明示されている場合には、その形式や手順に従う。使用条件が明示されていない場合には問い合わせを行う。使用条件と申請方法が明らかになった後、指定された書式、手順で申請を行う。
5. 著作権者へ使用許諾申請
発行者が特に明示していない場合には、最初の問い合わせの段階で、講義資料に掲載して公開すること、非営利・教育目的の使用であること、北大 OCW の利用規約により、転載が認められた場合は「制限資料」として扱うことを明示し、許諾依頼の書類を添付する。これにより、使用許諾申請を兼ねたものになっている。
6. 利用規約または申請結果への対応
利用規約や返答で提示された条件にしたがい、出典表示の修正、画像差替え等、また映像コンテンツの場合には、ボカシ処理や削除処理を施す。

2.5.3 著作権処理における問題点

問題点としては大きく 2 つあげられる。一つ目は、第三者著作物の出典が不明なものが多いことである。このような場合、その確認のために処理の作業量が増加し、当該担当者・OCW スタッフ双方の負担が大きくなる。また、ボカシ処理や削除処理を行わざるを得なくなるため、講義・講演の本質が損なわれてしまうことにもなる。

二つ目は出典確認のほか、利用規約の調査、著作権者に対する使用許諾申請および編集・権利表記処理にも非常に多くの時間を要している。

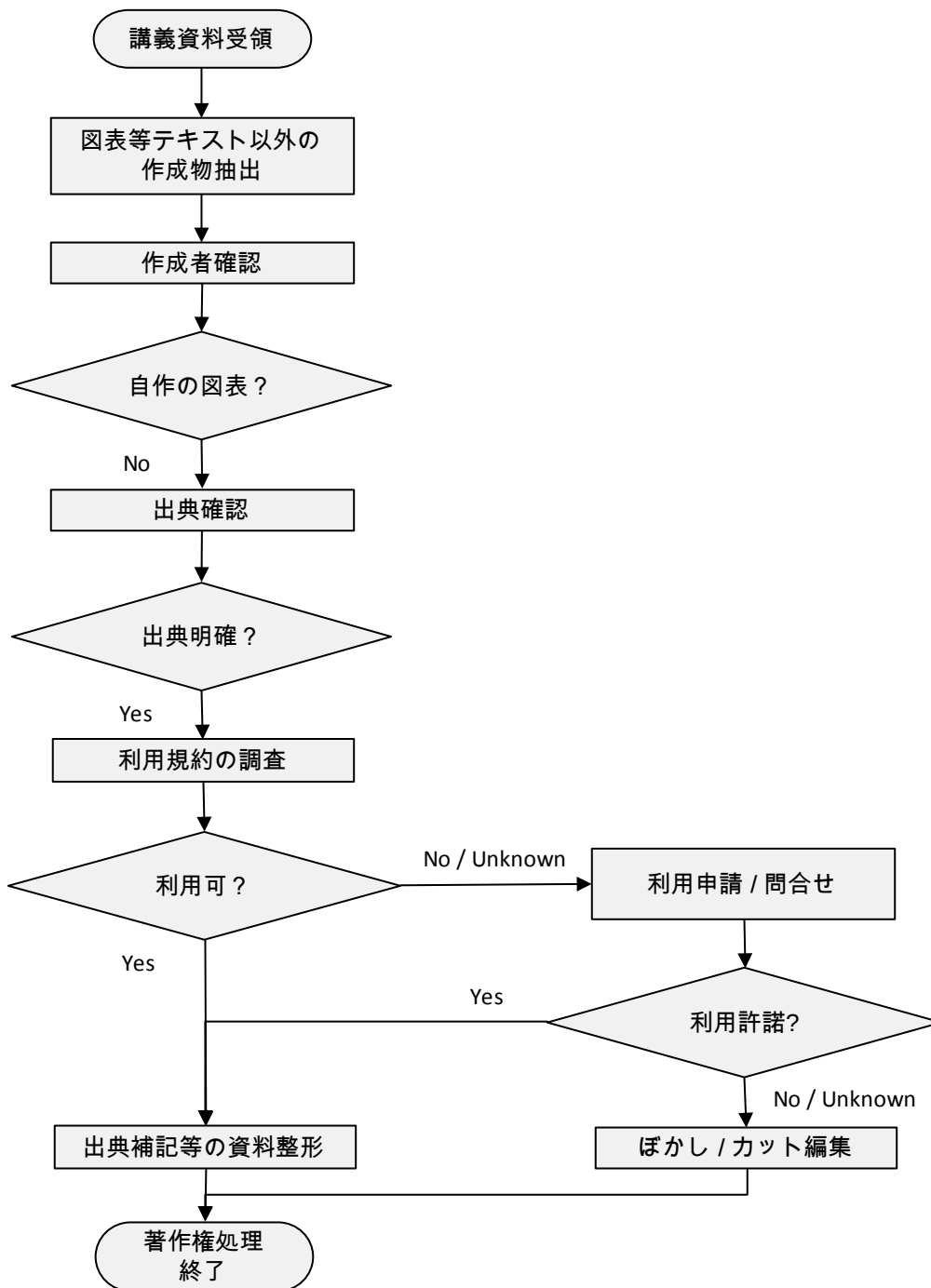
2.5.4 著作権処理の手順の効率化と許諾率の向上に向けた対策

上記であげた問題に対し、手順の効率化と許諾率の向上に向けた対策を行った。手順の効率化としては、過去実績に基づく著作物利用許諾に関する判断リストを作成し、当該リストを講演者へ周知した。その結果、著作権処理を要しない第三者著作物の割合が 5.5% (2012 年度) から 17% (2013 年度) に増加した。当該リスト情報が蓄積されることで、効率化向上が見込めることから、過年度の情報も含めてデータベース化・システム化を図り、また他の OCW 関連機関との共有を図ることで、更なる効率化を期待する。

また、講義・講演の本質が損なわれることが少なくなるよう、講義・講演の核となるような第三者著作物については、一部のものについてであるが、図の差替えや差替え図の情報提供を行うようにしている。

許諾率向上に向けた取り組みとしては、利用許諾申請時に、OCW コンテンツ内に出版社名等発行元等を記載する出典の明示を徹底すること等を行った。これにより、実質的な許諾率も向上している(許諾率:2009 年度 62.6%, 2013 年度 71.3%)。今後は、学内関連機関や学外 OCW 関連機関と連携して出版社等との包括契約や、著作権法の改正に向けて働きかけることにも期待したい。

今後、さらに数多くのコンテンツを公開し、北大 OCW の活動を持続的に進めていくこと、またコンテンツの二次利用を推進していくためには、利用許諾申請の必要な第三者著作物がないことが望ましい。過去実績に基づく著作物利用許諾に関する判断リストをより充実させ、事前の打ち合わせ時に情報提供するなど、教員・講演者へ周知することが重要となる。また、教員・講演者の協力をより一層得るために、著作権等に関する講習会等の企画等の啓蒙活動の強化もさらに図る必要がある。



著作権処理フローチャート

3. まとめ

北大 OCW では、オープンエデュケーションの活動として、北海道大学で開講されている正規講義の資料・映像のほか、公開講座や市民セミナーの映像を Web サイトおよび iTunes U などインターネットを介して配信している。今年度も順調にコンテンツ数を増やし、正規講義、公開講座合わせて 164 コンテンツを公開し、累計で 1000 を超えるコンテンツが公開されている。

コンテンツ提供形態の充実のために、iTunes U からの新規公開、配信コンテンツの高解像度を図ったほか、視聴者の利便性を高めるために、iTunes U サイトへのリンクを北大 OCW の Web サイトに明示することも順次行っている。

本年度から、総合入試で入学した学生を支援する取り組みとして、各学部・学科等における学問について学ぶ「学問の世界」をまずは「閲覧者限定」の形で配信することを行った。著作権処理に時間を要するため、一般向けには早期公開が難しいが、この方法であれば比較的早期公開が可能である。一般公開コンテンツ、学生支援をともに充実させるためには、まずは閲覧者限定の形でコンテンツを蓄積し、著作権処理に膨大な時間を費やさずに済むコンテンツを一般公開する、という段階を踏んだ試みも今後必要になると思われる。

国際化を図る取り組みとしては、英語で行われている講義の収録・配信を行った。今後、留学生を対象とした講義を収録・配信することで、より国際化が推進するものと考ええる。また、韓国・高麗大学 OCW との連携で、相互にコンテンツの翻訳と交換を行った。本連携プロジェクトを引き続き行うことで、国外への教育コンテンツの提供が進むものと考えられる。

広報活動としては、北大の新入生やオープンキャンパス開催時に北海道内の全高校にパンフレット／ポスターを配布したほか、教員向けにニュースレターを作成、配布した。さらには、講義・公開講座収録時にパンフレットを配布することも試みた。

このような活動の結果、月間平均のアクセス状況はページ閲覧数約 63 万、訪問者数約 4.5 万を記録している。また、単純な閲覧だけでなく、教育用 DVD として二次利用されるなど、利活用も進みつつある。

今後もオープンエデュケーションの活動を推進していくためには、これまでの取り組みに加え、利活用を前提とした教材作成を依頼することも必要となる。この場合、利用許諾申請の必要な第三者著作物がないことが望ましいため、CC(クリエイティブ・コモンズ)ライセンスの著作物など二次利用も可能な著作物・素材集の情報をより充実させ、教員・講演者へ周知することが重要となる。一方で、教員・講演者に著作権への理解を深めていただくことも必要であろう。

来年度からはオープンエデュケーションセンター設置が決定している。これまで北大 OCW で蓄積したオープンな教育資産(OER: Open Educational Resources)とノウハウを活かし、これまで行っていた活動と OER を活用した教育・学習支援を推進していく。

資料

- I. 利用条件
- II. 2013 年度掲載科目
- III. 広報資料

I. 利用条件

日本語版

北海道大学オープンコースウェア利用条件

本資料(第1条に定義)は、以下に定める使用許諾(以下「本使用許諾」)の条項の下で、北海道大学によって利用者(第1条に定義)に提供されるものです。本資料は、各国の著作権法やその他の法律により保護されており、本使用許諾により許諾された以外の方法で、本資料を使用することは禁止されています。

利用者が、本使用許諾により付与された本資料に関する権利を行使した場合、本使用許諾の条項に拘束されることを承諾し、同意したとみなされます。使用許諾者(北海道大学)は、利用者がそれらの条項を承諾することを条件として、以下に定める権利を利用者に付与します。

第1条 (定義)

1. 「編集著作物」とは、新聞、雑誌、百科事典など、素材の選択又は配列によって創作性を有するものをいいます。
2. 「データベースの著作物」とは、情報の選択又は体系的な構成によって創作性を有するデータベースをいいます。
3. 「二次的著作物」とは、翻訳、編曲、変形、脚色、映画化、その他翻案することにより創作されたものをいいます。
4. 「使用許諾者」とは、北海道大学のことをいいます。
5. 「原著作者」とは、本資料を作成した北海道大学の教員その他の者のことをいいます。
6. 「本資料」とは、本使用許諾の条項に基づいて本ウェブサイトにおいて提供され、著作物として保護される著作物です。ただし、第3条で規定する例外は除きます。
7. 「HU-OCW」とは、北海道大学によって運営され提供されるオープンコースウェア(Hokkaido University OpenCourseWare)を意味します。
8. 「本ウェブサイト」とは、北海道大学が HU-OCW を提供するウェブサイトのことをいいます。
9. 「利用者」とは、本使用許諾についての権利を行使する個人又は団体であり、以前に本資料に関して本使用許諾の条項に違反したことがないか、以前に違反があつ

たものの、使用許諾者から本使用許諾に基づく権利を行使するための明白な許可を得ている者のことをいいます。

10. 「第三者著作物」とは、本資料の中で、北海道大学または北海道大学の教員が、第三者から使用許諾を受けた著作物、もしくは、著作権法上の適法引用に該当する第三者の著作物をいいます。

第2条 （使用許諾の付与）

第3条で規定する例外を除いて、北海道大学は利用者に対し、本資料に関し、第6条に定める期間、如何なる国においても、無償で、非排他的で、継続的な、以下に定める権利を、非営利的かつ教育的な目的に限って行使することのできる権利を許諾します。

1. 本資料(編集著作物やデータベースの著作物に組み込まれる場合を含む)の複製
2. 本資料の複製物の頒布
3. 本資料の公衆送信
4. 本資料(注:第三者著作物が含まれる資料は除く)からの二次的著作物の創作と複製
5. 本資料(注:第三者著作物が含まれる資料は除く)からの二次的著作物を、複製物により頒布すること、公開すること、上映すること、及び公衆送信すること

注:第三者著作物が含まれる資料の場合で、かつ、その権利者の使用許諾が必要であることを示す「使用許諾必要マーク」が付されている場合には、当該権利者から、直接、当該第三者著作物の使用許諾を受けなければなりません。また、第三者著作物に関する著作権法上の適法引用の要件を充足性を損なう形での利用は認められません。

上記の権利は、(現存又は将来考案されるものかを問わず)すべての媒体及び形式において行使できるものとします。上記権利には、他の媒体及び形式によって権利を行使するために技術的に必要な変更を行う権利を含みます。

本ウェブサイトは、北海道大学が著作権を有しています(Copyright (c) 2006 Hokkaido University)。本ウェブサイトに関する権利のうち、本使用許諾により明示的に許諾されたものの以外は、すべて北海道大学に留保されています。

本資料は、使用許諾を要しない一部のものを除いて、北海道大学、北海道大学の教員又はそれぞれの使用許諾者に著作権があり、それらの者に排他独占的に帰属する財産です。本使用許諾は、本資料の使用について限られた権利を許諾するものであり、本資料の著作権、特許、商標

又はその他一切の知的所有権を、利用者に付与するものではありません。北海道大学は、利用者への通知なしに、いつでも、本ウェブサイトや本資料の内容を追加したり、削除したり、変更する権利を保持するものとします。

第3条 （使用許諾の制限）

写真やグラフィックス等、本ウェブサイトの内容の一部は、北海道大学又は北海道大学の教員と第三者との間の使用許諾条項により、その取り扱いに制約があります(以下「使用制限資料」といいます)。使用制限資料は、"⌘"というシンボルと"使用制限"という文章によって示されます。

本使用許諾について特に示されていない限り、使用制限資料を再使用する場合、利用者は、使用制限資料の著作権者より、直接、使用許諾を得なくてはなりません。

利用者は、本資料に関し、第 2 条に規定する使用許諾の権利を行使する際には、原作者の人格的利益に配慮し、原作者の名誉又は声望を害する方法で本資料を使用してはならないものとします。

本ウェブサイトに含まれる一切の資料の取り扱いに当たっては、各利用者の責任において、各国の著作権法やその他の適用法、本使用許諾並びに本使用許諾中の使用条件、及び使用制限資料または特定の資料に関して適用される制約に従うものとします。

第4条 （使用許諾の条件）

1. 利用者は、本使用許諾の条項に従うことを条件として、第 2 条により付与された使用許諾の権利を行使できるものとします。
2. 利用者は、非営利的かつ教育的な目的においてのみ、第 2 条により付与された使用許諾の権利を行使できるものとします。
3. 利用者は、本資料の複製物又はそれを用いて利用者が創作する編集著作物、データベースの著作物及び二次的著作物の全てに、本使用許諾の写しを添付し、又は URI (Uniform Resource Identifier) などによって本使用許諾の所在を明示するものとします。利用者は、本使用許諾のすべての条項及び免責規定などの修正をおこなってはならないものとします。
4. 利用者が、第 2 条により付与された使用許諾の権利を行使する際には、本資料に付される北海道大学及び原作者の著作権を適切に示さなければならないものとします。著作者及び著作権者の著作権表記として適切なものは次の通りです。

「この資料は、(氏名)により、(タイトル)という表題で作成され、(年)に、北海道大学オープンコースウェアで公開された資料をもとに翻案されたものです。Copyright (c) (年) (氏名)。」

又は、

「この資料は、(氏名)により、(タイトル)という表題で作成され、(年)に、北海道大学オープンコースウェアで公開された資料をもとに翻案されたものです。Copyright (c) (年) (北海道大学)。」

5. 利用者は、上記 4 項により定められた本資料のクレジット表記としての場合を除き、本資料の使用に関し、北海道大学の書面による事前の同意なしに、「北海道大学」、「北大」及び「hokudai」の名称、これらについての造語又は略語その他の如何なるバリエーション、北海道大学の評議員、理事、職員、教員、学生、従業員又は代理業者などの名前、及び北海道大学が所有する如何なる商標も使用してはならないものとします。さらに、北海道大学又は北海道大学の教員より要請があった場合には、利用者は、本資料をもとに作成された如何なる二次的著作物又は編集著作物からも、当該教員の氏名を削除しなければならないものとします。
6. 利用者は、本資料の使用について、本使用許諾の条項を変更又は制限するような条件を提案したり課したりしてはならないものとします。また、利用者は、本使用許諾の条項に反する方法で、本資料へのアクセス又は使用をコントロールするような技術的手段により、第 2 条により付与された使用許諾の権利を行使してはならないものとします。

第5条 (免責規定)

本ウェブサイトにおける本資料の内容は、北海道大学、著作者である教員及び資料内容の開発者により、高い学術的水準に見合う正確性及び完成度が確保されるよう配慮されています。しかしながら、北海道大学及び原著作者も、本資料の正確性、完成度、品質及び特定の目的への適合性について、明示・黙示の別を問わず、一切保証をするものではありません。本資料は、現状有姿のまま提供されるものであり、北海道大学及び著作権者は、明示・黙示の別を問わず、本資料について何らの保証を表明するものではありません。これには、商業化の可能性、特定の目的に対する適合性、権利の非侵害性、潜在的な瑕疵やその他の欠陥がないこと、正確性、及び発見可能・不可能の別を問わず誤りの存在や不在についての保証等を含みますが、これらに限られません。北海道大学は、本資料とその他の如何なる資料との適合性についても、一切責任を負いません。さらに、北海道大学は、本資料の使用が、北海道大学やその他の第三者の特許、著作権又はその他の知的所有権、プライバシー権、名誉権その他の権利を侵害しないことを保証するものでもありません。

北海道大学や、北海道大学の評議員、理事、職員、教員、従業員又は関係者は、北海道大学への通知の有無、損害の事実の認識の有無又は損害の事実の認識可能性の有無を問わず、いかなる場合であっても、経済的損害、物的又は人的な損害、逸失利益などを含む、付随損害、結果損害その他の如何なる損害についても、一切責任を負うものではありません。

第6条 （終了）

本使用許諾及びこれに基づく権利は、利用者による本使用許諾の条項の違反により、自動的に終了するものとします。しかしながら、本使用許諾に基づき二次的著作物、編集著作物又はデータベースの著作物を利用者から受領した個人又は団体は、かかる個人又は団体が本使用許諾の条項を遵守している限りにおいて、その使用許諾は終了しないものとします。第 1 条、第 3 条、第 4 条、第 5 条及び第 7 条は、本使用許諾が終了してもなお有効に存続するものとします。

上記の条項に従うことを条件として、本使用許諾は永久に存続するものとします（ただし、本資料に適用される著作権又は著作者人格権の存続期間に限りです）。しかしながら、使用許諾者は、別の使用許諾条項の下で本資料を公表する権利や、本資料の頒布をいつでも中止できる権利を留保します。そのような場合であっても、本使用許諾を（又は本使用許諾の条項の下で既に付与され、又は将来必要となる如何なる使用許諾も）終了させることはありません。また、上記の条項によって終了しない限り、本使用許諾は完全に有効なものとして存続するものとします。

第7条 （その他）

1. 利用者が、本資料や本資料を含む編集著作物、データベースの著作物又は二次的著作物を頒布し、公衆送信する場合には、北海道大学は、受領者に対し、本使用許諾下で利用者には与えられるものと同条件の使用許諾を付与します。
2. 本使用許諾のいずれかの規定が、適用される法の下で無効又は執行不能とされた場合であっても、本使用許諾の他の条項の有効性及び執行可能性には影響しないものとします。また、本使用許諾の当事者による何らの行為を必要とせず、当該無効又は執行不能とされた規定が、有効かつ執行可能なものとなるのに必要最低限の程度において修正されるものとします。
3. 本使用許諾の条項の全部又は一部の放棄又は不履行に関する同意は、書面により、かつ、かかる放棄又は不履行に関する同意について責任を負う当事者による署名又は記名押印がなされない限り、有効でないものとします。
4. 本使用許諾は、当事者による本資料に関する完全かつ唯一の合意です。本使用許

諾で明示されているもの以外は、本資料に関する一切の合意、約束、表明は存在しません。使用許諾者は、利用者より提示される如何なる追加の条項にも拘束されないものとしします。

第8条 （準拠法・管轄）

本使用許諾は、日本国の法律を準拠法とし、日本国の法律に基づいて解釈されるものとしします。また、本使用許諾に関する一切の紛争については、札幌地方裁判所を第一審の合意管轄裁判所としします。

権利侵害の通知

北海道大学は、本資料(北海道大学 オープンコースウェア 利用条件第1条で定義)を利用者に提供する以前に、権利の所在及び適切な使用の決定、又は本ウェブサイト(同条で定義)で提供するために必要な使用許諾の取得のために、本資料の全部を慎重に検討しています。北海道大学は、第三者の著作権等の権利を侵害するものであると判断された資料については、速やかに削除します。万一、本資料の一部に第三者の権利を侵害するものであると利用者が考えるものがあれば、下記の要領により、北海道大学に通知するようお願いいたします。なお、利用者からの通知に電子署名が付されていない場合には、署名付の書面による通知をファクシミリ又は郵送の方法によりご送付下さるようお願いする場合もあります。

利用者から通知をいただく場合は、以下の情報を記載するようお願いいたします。

1. 侵害されたと主張する著作物と同一のもの(著作権侵害の場合)
2. 侵害物であると主張する資料と同一のもの(侵害物の特定)
侵害物の発見のため、URL その他の方法等により、侵害物の特定のための十分な情報を含めるようお願いいたします。
3. 通知人自身が著作権者などの権利者又は権利者の代理人である場合には、通知人との連絡を可能とするための情報(Email アドレス、電話番号等)
4. 侵害物の使用が権利者又は権利者の代理人の適法な同意を得ていないと通知人が信ずる理由
5. 通知の内容が正確であること及び通知人自身が著作権者などの権利者又は権利者の代理人である場合には、権利者又は権利者の代理人であることの記述

北海道大学开放式课件使用条款

本资料（见第一条定义）按照以下使用许可（以下“本使用许可”）条款规定，由北海道大学向使用者（见第一条定义）提供。本资料受各国著作权法及其他法律保护，禁止以本使用许可规定以外的方法使用本资料。

使用者在行使本使用许可所赋予的对本资料的权利时，视为已经承诺和同意了本使用许可中约定的条款。使用许可者（北海道大学）以使用者对约定条款的承诺为前提，赋予使用者以下权利。

本使用条款以日文版原文为准。

第1条 （定义）

1. “编辑作品”是指对报纸、杂志、百科辞典等素材通过选择或整理创作的具有创作性的作品。
2. “数据库作品”是指通过对信息的选择或体系的构建创作的具有创作性的数据库。
3. “2次作品”是指翻译、编曲、变形、编剧、电影及其它改编方面的创作作品。
4. “使用许可者”是指北海道大学。
5. “原作者”是指编写本资料的北海道大学的教员及其他人员。
6. “本资料”是依据本使用许可条款在本网站提供，并受到保护的作品。但第3条所规定的例外除外。
7. “HU-OCW”是指北海道大学实行并提供的北海道大学开放式课件（Hokkaido University OpenCourseWare）。
8. “本网站”是指北海道大学提供 HU-OCW 的网站。
9. “使用者”是指行使本使用许可规定的权利的个人或团体，并且该个人或团体没有违反过本使用条款或即使曾经违反过，但已明确获得了使用许可者的行使本使用许可权利的认可。
10. “第三者作品”是指本资料中北海道大学或北海道大学的教职员从第三者处得到使用许可的作品，或依据著作权法依法引用的第三者作品。

第2条 （使用许可的赋予）

第 3 条规定的例外除外，北海道大学赋予使用者在第 6 条所规定的时间内，限以非营利性且以教育为目的时，在任何国家都可以无偿的、非排他的、持续的行使以下权利。

1. 本资料（包括被编入编辑作品和数据库作品的情况）的复制
2. 本资料的复制品的发布
3. 本资料的公众传输
4. 由本资料（注含有第三者作品的资料除外）衍生的 2 次编辑作品的创作和复制。
5. 将本资料（注:含第三者作品的资料除外）衍生的 2 次编辑作品翻印后进行分发、公开上映或公众传输。

注：使用包含第三者作品的资料、并且附有明确表示需要得到该权利人的使用许可的“需要使用许可标志”时，必须立即从权利人处直接取得第三者作品的使用许可，而且，对不符合著作权法有关第三者作品的合法引用要件的使用不予认可。

上述权利（无论现存或未来规划的）可以通过任何媒体以任何形式加以实施。上述权利还包括，为在其他媒体或以其他形式实施，需要在技术上加以变更或处理时的技术处理权。

本网站著作权归北海道大学所有(Copyright(c)2006 Hokkaido University). 关于本网站的权利中，本使用许可未作明确指出的权利均由北海道大学保留。

在本资料中，除一部分不需要使用许可的资料外，其余资料的著作权均为北海道大学、北海道大学的教员及各使用许可者所有，是具有排他性和独占性的财产权。本使用许可对本资料的使用权认可是一种有限认可，本使用许可并不赋予使用者使用本资料的著作权、特许、商标及其他一切知识产权的权利。北海道大学在未通知使用者的情况下，有权在任何时候对本网站、本资料的内容进行追加、删除或变更。

第3条 （使用许可的限定）

照片、图片等本网站内容的一部分根据北海道大学及北海道大学的教员和第三者之间使用许可条款，其使用受到制约。（以下称：限制使用资料）限制使用资料有“\$”的标记和“限制使用”的标语。

本使用许可中没有特别表示的情况下，使用者再次使用限制使用资料时，必须直接获得著作权所有者的使用授权，否则不可以使用。

使用者在履行本资料第 2 条所规定的使用许可权利时，考虑原作者的人格利益，使用的方式不可以影响原作者的名誉或名声。

使用者在读取本网站中的任何资料时，都应承担作为使用者的如下责任：遵守各国的著作权法及其他相关法律；符合本使用许可及本使用许可中有关使用条件的规定；在使用限制使用资料及特殊资料时，必须按照相应的限制规定进行使用。

第4条 （使用许可的条件）

1. 使用者以遵守本使用许可的条款为条件，可行使第 2 条所赋予的使用许可的权利。
2. 使用者仅限以非营利性的教育为目的时，可行使第 2 条所赋予的使用许可的权利。
3. 使用者在复制本资料或使用时，包括使用者使用本资料创作的编辑作品，数据库作品及 2 次编成品都应附加所有本使用许可的复本，并根据 URI (Uniform Resource Identifier) 等注明本使用许可的出处。使用者不可对本使用许可的所有条款及免责规定等作出修改。
4. 使用者在行使第 2 条所赋予的使用许可权利时，必须恰当标注本资料所附加的北海道大学及原作者的著作权，作者及著作权持有者的恰当标注方法如下。
“本资料是由(姓名)，标题为(题目)，于(年)在北海道大学的 Open Courseware 上公布的资料改编而成。Copyright(c) (年) (姓名)”
或
“本资料是由(姓名)，标题为(题目)，于(年)在北海道大学的 Open Courseware 上公布的资料改编而成。Copyright(c) (年) (北海道大学)”
5. 除使用者根据上述 4 项条款而确定的本资料标记外，使用本资料时，未经北海道大学书面上的事前同意，对于“北海道大学”、“北大”及“hokudai”名称、以及与此相关的造词或省略词或其它变通用词、北海道大学的评议员、理事、职员、教员、学生、从业员或代理业者等姓名及所有北海道大学的任何商标都不可以使用。另外，如果应北海道大学或北海道大学的教员的要求，在本资料基础上进行 2 次编辑时，必须删除该教员的姓名。
6. 使用者在使用本资料时，不得对本使用许可条款提出有关变更或限制条件的建

议或请求。并且，使用者不得用违反本使用许可的方法访问本资料或通过技术手段操作第 2 条所规定的使用许可权利。

第5条 （免责规定）

本网站的本资料内容是由北海道大学、作为作者的教员及资料内容的开发者制成，尽力追求对于本资料的学术水准，正确性及完成度。但是，北海道大学及原作者对于资料的正确性、完成度、质量及对特定目的的适用性无论明示默示均不作任何保证。本资料完全按照现有状况进行提供，北海道大学及著作权者，无论明示默示，对于本资料不表明任何保证。包括商业化的可能性、对于特定目的的适合性、权力的非侵害性、不存在潜在的瑕疵及其他缺陷、正确性及无论是否可能发现的错误存在与否等均不予以保证。而且不作保证的项目不仅局限于上述内容。北海道大学对本资料和其他的任何资料的适合性不负任何责任。此外，北海道大学针对本资料的使用不侵害北海道大学及其他的第三者的特许、著作权、知识产权、隐私权、名誉权及其他权利等不能予以保证。

北海道大学及北海道大学的评议员、理事、职员、教员、从业员及相关人士，无论是否通知北海道大学，无论对损害事实认识的有无或对损害事实认识的可能性的有无，在任何情况下对出现的经济上的损害、对物或人的损害、包括逸失利益等附加损害、最终损害及除此以外的任何损害均不承担任何责任。

第6条 （终止）

对违反本使用许可条款的使用者，本使用许可及本使用许可授予的权利自动终止。但是对于从使用者处获取的依据本使用许可产生的 2 次作品、编辑作品、数据库作品的个人或团体，该个人或团体只要遵守本使用许可条款，此类情况下，使用许可则不被终止。第 1 条、第 3 条、第 4 条、第 5 条、第 7 条条款即使在本使用许可终止的情况下也继续有效。

只要遵守上述规定，本使用许可永久存在，持续有效（但以本资料适用的著作权及作者人格权的有效存续期间为限）。但使用许可者保留在其他使用条款下公开本资料的权利，以及保留随时终止分发本资料的权利。即使在这种情况下，也并不终止本使用许可（或者按照本使用许可条款已经授予的许可，及将来必要的任何使用许可）。在上述条款不终止的情况下，本使用许可完全有效，持续存在。

第7条 （其他）

1. 使用者在分发本资料或本资料所包含的编辑作品、数据库作品 2 次作品，进行公众传送时，北海道大学对受领人在本使用许可下给予同样条件的使用许可。
2. 本使用许可的任何规定按照相应的法律，即使无效或无法执行，也不影响本使用许可的其他条款的有效性及执行可能性。另外，本使用许可的当事人不需要任何作为，出现相应无效或无法执行的规定时，将以有效可执行为目的，进行必要的最低限度的修改。
3. 放弃或不履行本使用许可条款的全部或一部分，需要有书面同意。对该放弃和不履行的同意须由负责人签名或盖章，如无此项，则无效。
4. 本使用许可是当事人达成的有关本资料的完整并且唯一的协议。除了本使用许可明示的内容以外，不存在其他一切与本资料相关的协议、约定和表明。使用许可者不受由使用者提出的任何追加条款的约束。

第8条 （法律 管辖）

本使用条款以日本法律为准据法，按照日本法律进行解释。有关本使用许可的任何纷争，都以札幌地方法院为一审管辖法院。

侵犯权利的通知

北海道大学将本资料（见北海道大学开放式课件使用条款第 1 条定义）提供给使用者前，对权利的所在及恰当使用的决定、或为了获得在本网站（本条定义）提供所必要的使用许可，慎重审查了本资料的全部内容。北海道大学对被确认为侵犯了第 3 者著作权的资料，会立即删除。如果万一本资料的一部分中含有被使用者认为侵犯第 3 者权利的内容，请按下述要领通知北海道大学。另外，如果使用者没有在该通知上附加电子签名，那么有可能会要求使用者将书面签名以传真或邮寄的方式发送至北海道大学。

使用者在发送通知时请记载以下信息

1. 认为受到侵害的作品的原作（侵犯著作权时）
2. 被认为是侵害作品的相关资料（对侵害作品的特定）
为了发现侵害作品，恳请采用 URL 或其它方法，提供包含充分的足以特定侵害作品的信息。
3. 通知人本人为著作权人等权利人或权利人的代理人时，请提供与通知人的联系

方式。(Email 地址, 电话号码等)

4. 对于侵害作品的使用, 通知人相信这种使用未取得权利人或权利人的代理人的合法同意的理由。
5. 请记明通知内容正确。通知人本人为权利人或是权利人的代理人时, 请记明权利人或权利人的代理人的身份。

全学教育 > 特別講義 大学と社会 (2013 年度)

講義： 大学と社会 (2013 年度)

亀野 淳、木村 純、三上 直之

対象： 1 年生～

開講： 2013 年度

掲載： 2013 年 5 月 9 日～

講義映像(学内限定)



本授業は、北大を卒業し社会の各分野で活躍する方々を講師としてお招きし、学生時代から現在までの体験談などを話していただくが、これらを通じて、大学生活のあり方や将来のキャリアについて自ら考える能力を育成する。

全学教育 > 情報倫理小冊子(情報学 I:2012 年度)

教材： 情報倫理小冊子（情報学 I：2012 年度）

布施 泉

開講： 2012 年度

掲載： 2013 年 10 月 2 日

教材

Booklet of Information Ethics - 情報倫理小冊子-

This material was created with the supported of JSPS KAKENHI (20500823/23501129) / 本教材は、科研費(20500823、及び、23501129)の助成を受けて開発したものです。

Table of Contents - 目次-

1. What if you forget your password?(パスワード忘れたらどうする?)



2. The problem with using an easy password(安直なパスワードで重大事件!)

3. A Report Copied from the Web is No Good [the Story Part]
3. Web貼り付けレポートはNG! (物語編)

4. A Report Copied from the Web is No Good [Explanation Part]
4. Web貼り付けレポートはNG! (解説編)

5. Can I Post Someone's Email on my Blog?(ブログでメール紹介したらダメ?)

6. Infringing on Portraiture Right (Webカメラで肖像権を侵害?)

7. Spyware Infected my Computer (パソコンに忍び込むスパイウェア)

8. Fraudulent Websites (悪意のあるWebページ)

9. Phishing (フィッシング)

10. Public Key Cryptosystem -the Unsung Hero (公開鍵暗号は緑の下の力持ち)

Copyright(C) 2013 Izumi FUSE and Shigeto OKABE, Hokkaido University, All Rights Reserved

本冊子は、情報学 I の授業で使われた情報倫理に関する資料です。留学生への対応のため、日本語、英語、中国語、韓国語の教材と なっています。なお、日本語教材は、文章や漫画のセリフを クリックすることで中国語の音声流れるようになっています。

全学教育 > 学問の世界 (2013 年度)

講義： 学問の世界 (2013 年度)

瀬名波 栄潤、渡慶次 学、萩原 亨、内藤 哲、松藤 敏彦、藤井 義明、
金子 勇、門出 健次、生方 信、富田 章久、小野 哲雄

対象： 1 年生

開講： 2013 年度

掲載： 2013 年 11 月 22 日～

講義資料・映像

全学教育科目(総合科目)
集中講義

学問の世界

系A(文系)

文学部 言語・文学コース

北海道大学高等教育推進機構
2013年9月17日～20日

文学の居場所
～現実の向こう側、虚構のこちら側～

瀬名波 栄潤
北海道大学大学院文学研究科

1. イントロ：「学問の世界」について
2013年度夏期集中講義「学問の世界」
全学教育科目(総合科目)
責任教員：和田博樹(文)
単位数：1単位

キーワード
北大の学問、多様な学問、総合入試、学部・学科移行

授業の目標
総合入試で入学した学生に対して、北海道大学の各学部・学科等について、その概論を学ぶ。また、様々な学部の最新の研究あるいは問題意識を知ることによって、本学の学生としての自覚を持ち、本学でのこれからの勉学への意欲を高める。

到達目標
本学で行われている様々な学問のおおよその全体像を理解し、同じ学部でも学科によって学ぶ内容が大きく異なったり、異なる学部でも同じような内容が学べたりすることを理解する。その上で、自分が本当に学びたいことは何なのか、将来どのようなことをしたいのか、どの学部が自分にあっているのかを十分に考えて、移行する学部・学科を決める参考にする。

受講希望
学問に興味がある学生

集中講義 学問の世界
北海道大学高等教育推進機構 2013年9月17日

総合入試で入学した1年次学生に対して、北海道大学の各学部・学科等における学問について、その概論を学ぶ。また、様々な学部の最新の研究あるいは問題意識を知ることによって、本学の学生としての自覚を持ち、本学でのこれからの勉学への意欲を高める。

本学で行われている様々な学問のおおよその全体像を理解し、同じ学部でも学科によって学ぶ内容が大きく異なったり、異なる学部でも同じような内容が学べたりすることを理解する。その上で、自分が本当に学びたいことは何なのか、将来どのようなことをしたいのか、どの学部が自分にあっているのかを十分に考えて、移行する学部・学科を決める参考にする。

3 系に分割して実施する。

系A(文系)

系B(理系:数学・物理学・医学系)

系C(理系:化学・生物系)

全学教育 > 英語Ⅳ 初級: All-English Training for Travel and Documentaries (2013)

講義： 英語Ⅳ 初級： All-English Training for Travel and Documentaries (2013)

河合 剛

対象： 1年生～

開講： 2013年度

掲載： 2013年12月11日～

講義資料・映像

全学教育科目 外国語科目

英語Ⅳ 初級

All-English training for travel and documentaries

河合 剛
北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授

2013年第2学期
第2回

In this one-semester wholly-English course, students acquire skills to (a) meet people, (b) understand short videos such as anime and documentaries, and (c) say, hear, read and write using phrases that commonly appear in casual conversations or documentary programs.



when you're the clerk

- ask for info and fill in the blanks
- give info
- create your answers

updated 2013-10-07 05:15 utc goh@kawaii.com http://goh

clerk	partner ID	99121234
name	Sirokuro	
destination	Mexico City	
number of bags	1	
seating preference	window	

英語Ⅳ 初級

河合 剛
北海道大学
大学院メディア・コミュニケーション研究院



全学教育科目 外国語科目
2013年度第2学期 第2回

全学教育 > 思索と言語 言葉を科学する (2013)

講義： 思索と言語 ことばを科学する：人間の再発見(2013)

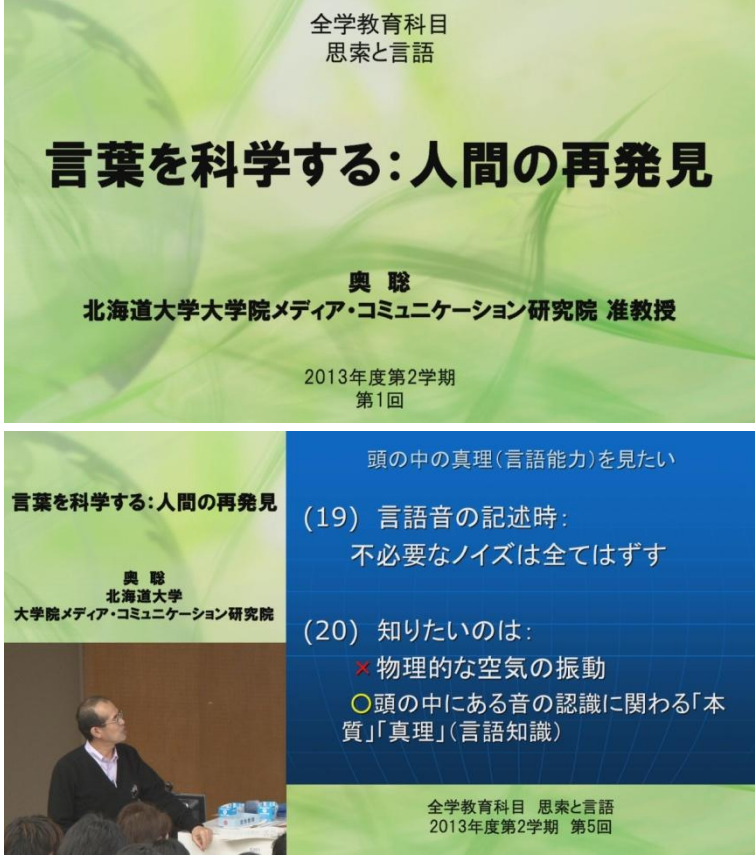
奥 聡

対象： 1年生～

開講： 2013年度

掲載： 2013年3月～(予定)

講義資料・映像



全学教育科目
思索と言語

言葉を科学する:人間の再発見

奥 聡
北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授

2013年度第2学期
第1回

言葉科学:人間の再発見

奥 聡
北海道大学
大学院メディア・コミュニケーション研究院

頭の中の真理(言語能力)を見たい

(19) 言語音の記述時:
不必要なノイズは全てはずす

(20) 知りたいのは:
✕ 物理的な空気の振動
○ 頭の中にある音の認識に関わる「本質」「真理」(言語知識)

全学教育科目 思索と言語
2013年度第2学期 第5回

この授業では、1950年代から始まった新しいことば研究の方法論(生成言語理論)を基調に、人間が持つことばのさまざまな側面について考えてみます。特に、自分の母語は自分にとってあまりにも当たり前のものなので、それを客体化してあらためて考えるということをしなればかりか、自分のことばのことは自分がよく知っていると思いい込んでしまいがちです。人間のことばを操る能力は実際には大変不思議で、奥が深いものです。その特徴を少し知ることによって、自分自身を含めた人間というものを「再発見」する機会にしたいと考えています。

同時に、人間の言語能力の研究方法を通して、科学的な研究の本質とは何かを考えてみる。

学部専門教育 > 英米文学 Applied Literature for Sustainability (2013)

講義： 英米文学 Applied Literature for Sustainability (2013)

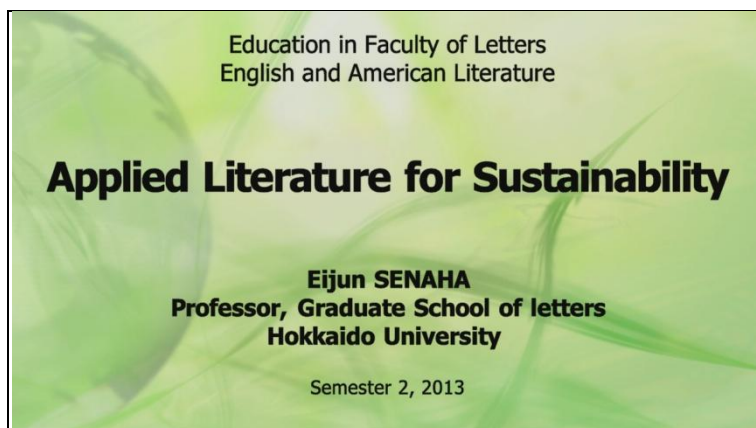
瀬名波 栄潤

対象： 2～4 年生

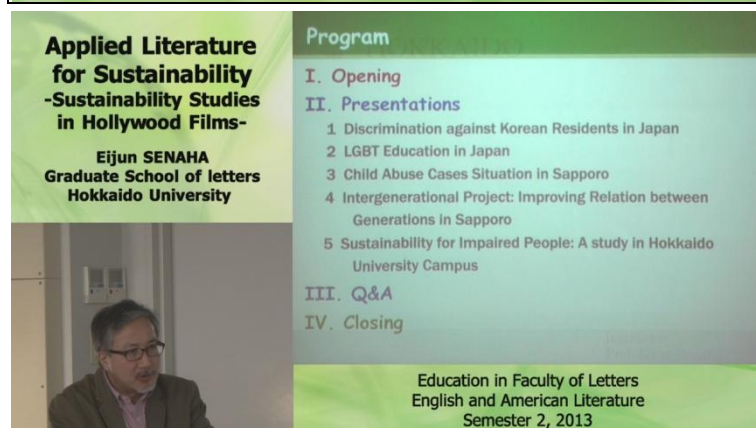
開講： 2013 年度

掲載： 2013 年 3 月 (予定)

講義映像



The emphasis of this course is placed on achievement of comprehension skills of English language and its application to understand global issues raised in UNDESD (United Nations Decade of Education for Sustainable Development).



大学院教育 > 広域シミュレーション特論(2009 年度)

講義： 広域シミュレーション特論 (2009 年度)

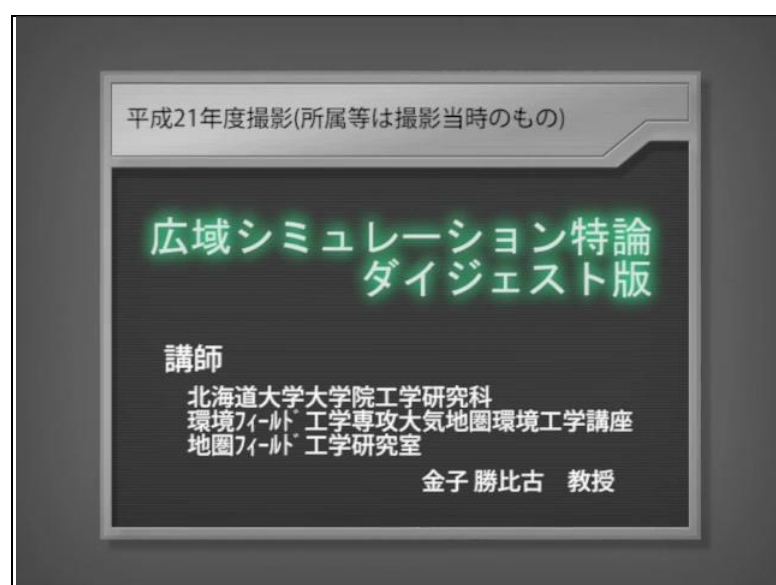
金子 勝比古

対象： 修士・博士

開講： 2009 年度

掲載： 2014 年 1 月 6 日

講義映像



大型構造物・地殻の運動・破壊挙動や、地殻中の移動現象を計算する広域シミュレーション手法について学習する。さまざまな移動現象を記述する方程式と数値解法について理解し、また離散要素法 (DEM) に代表される離散系力学の計算方法について学ぶ。さらに、有限要素法 (FEM) の基礎理論と計算手法の概要を理解した上で、大規模計算のための計算容量削減法と連立方程式の高速解法について学ぶ。
(CEED 制作ダイジェスト)

大学院教育 > 構造ダイナミクス特論(2012 年度)

講義： 構造ダイナミクス特論 (2012 年度)

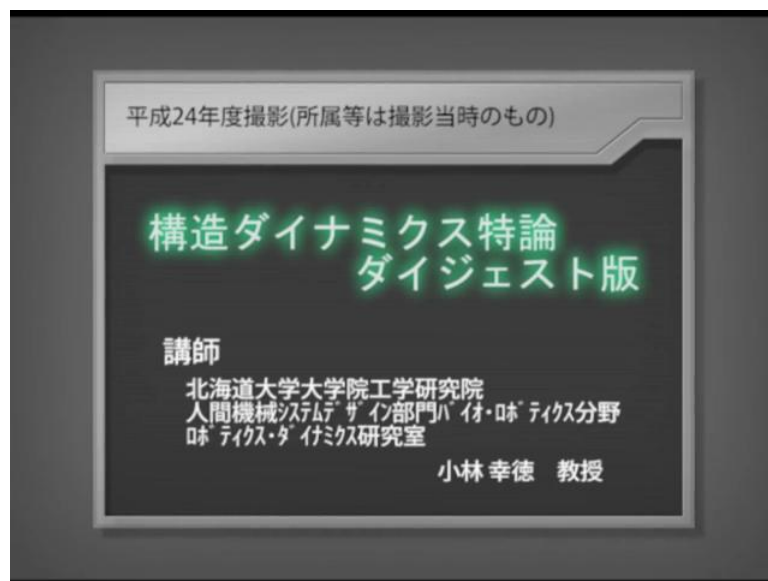
小林 幸徳

対象： 修士・博士

開講： 2012 年度

掲載： 2014 年 1 月 6 日

講義映像



機械システムの設計において、その系の運動状況と動的特性を力学系に把握することは極めて大切である。この講義では、変分法、ハミルトンの原理、ラグランジュ方程式など力学の諸原理の理解に重点を置き、これに基づいて連続体の振動、モード解析、非線形振動について学ぶ。さらにロボットの構造解析、運動方程式および状態方程式の導出についても学ぶ。

(CEED 制作ダイジェスト)

大学院教育 > 混沌系工学特論(2011 年度)

講義： 混沌系工学特論 (2011 年度)

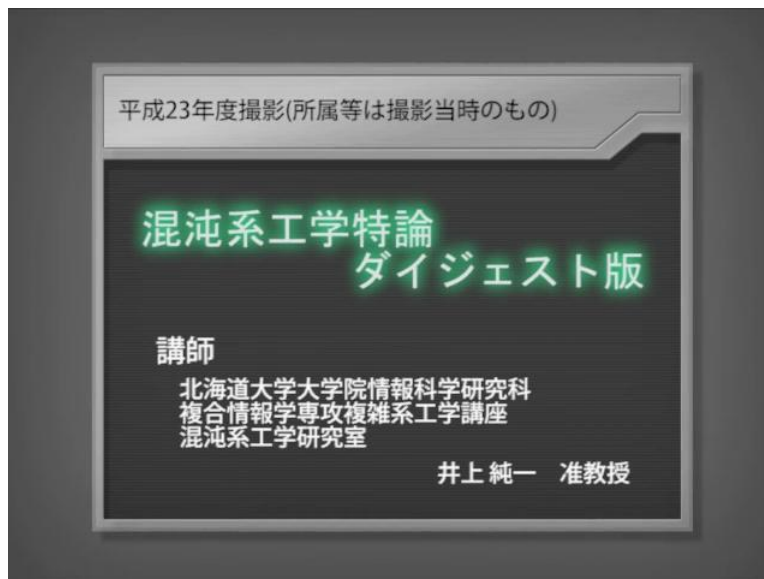
井上 純一

対象： 修士・博士

開講： 2011 年度

掲載： 2014 年 1 月 6 日

講義映像



本講義では確率モデルを用いた情報処理技法に関し、その基礎と応用を具体例から学習する。理論編では音声認識などで広く用いられる隠れマルコフモデル(HMM)とそのマイクロ/マクロパラメータ推定(推論形式)に関し、最尤法およびEM法を詳しく学ぶ。また、HMMをより一般化したモデルであり、近年データマイニングなどにも使われるベイジアンネットワーク(グラフィカルモデル)について、それを用いた推論形式を確率伝搬法や平均場法など最近開発された確率的アルゴリズムを中心に解説する。時間が許せば、これらをより一般的に扱う体系である情報統計力学について触れる。応用編では、HMMやベイジアンネットワークの手法を実際にロボットシステムへ応用した事例(具体的には、ヒューマノイドによる音声認識や動作生成の事例)を紹介する。

(CEED 制作ダイジェスト)

公開講義 > 環境放射能基礎コース(初級コース)

講義： 環境放射能基礎コース（初級コース）

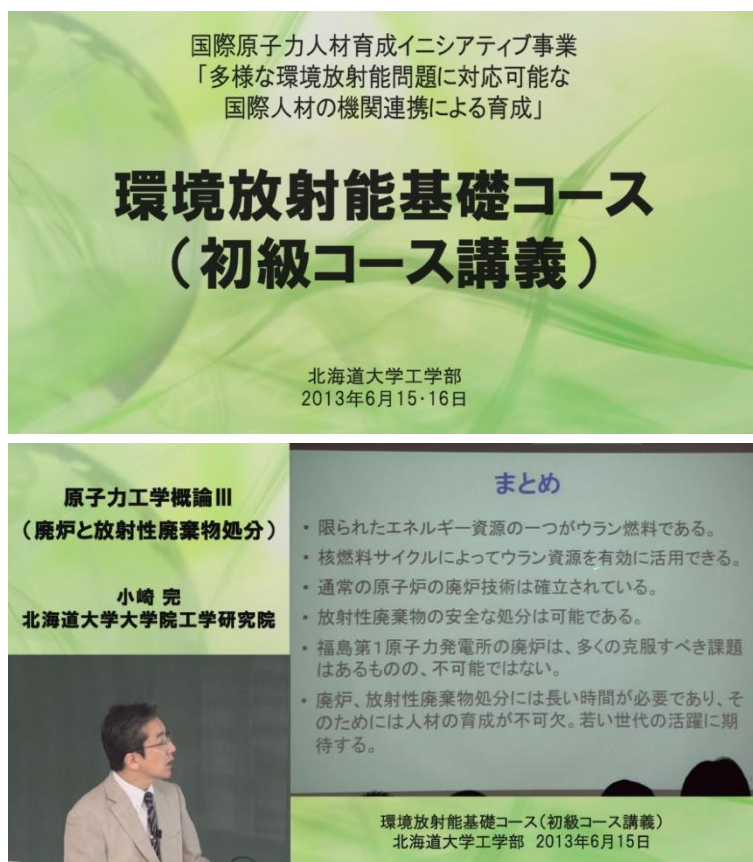
小崎 完、山盛 徹、藤吉 亮子

対象： 大学生、大学院生、社会人

開講： 2013年6月15-16日(北海道大学工学部)

掲載： 2014年8月23日～

講義映像



国際原子力人材育成イニシアティブ事業
「多様な環境放射能問題に対応可能な
国際人材の機関連携による育成」

環境放射能基礎コース (初級コース講義)

北海道大学工学部
2013年6月15・16日

**原子力工学概論Ⅲ
(廃炉と放射性廃棄物処分)**

小崎 完
北海道大学大学院工学研究院

まとめ

- ・ 限られたエネルギー資源の一つがウラン燃料である。
- ・ 核燃料サイクルによってウラン資源を有効に活用できる。
- ・ 通常の原子炉の廃炉技術は確立されている。
- ・ 放射性廃棄物の安全な処分は可能である。
- ・ 福島第1原子力発電所の廃炉は、多くの克服すべき課題はあるものの、不可能ではない。
- ・ 廃炉、放射性廃棄物処分には長い時間が必要であり、そのためには人材の育成が不可欠。若い世代の活躍に期待する。

環境放射能基礎コース(初級コース講義)
北海道大学工学部 2013年6月15日

本事業では、放射線や放射能および原子力について正確な知識を習得し、原子力工学分野のみならず、環境科学、放射化学、保健物理学、獣医学、農学などの他分野の視点から環境放射能の諸課題を学び、さらに放射線計測の実習を通して環境放射能測定の実習を通して環境放射能測定の技術を習得した、多様な環境放射能問題に対応可能な国際的人材を育成することを目的と致します。

初級コースは、環境放射能に関心を持つ学生ならびに研究機関、民間企業、地方自治体などに所属する社会人が、原子力システム工学概論、核燃料サイクル概論、原子力安全工学概論、基礎放射化学、基礎放射線生物学の講義を受講できるコースです。

公開講義 > 環境放射能コース(中級コース)

講義： 環境放射能コース (中級コース)

藤吉 亮子、五十嵐 敏文、山内 有二

対象： 大学生、大学院生、社会人

開講： 2013年7月14-15日(北海道大学工学部)

掲載： 2014年10月25日～

講義映像

国際原子力人材育成イニシアティブ事業
「多様な環境放射能問題に対応可能な
国際人材の機関連携による育成」

環境放射能コース (中級コース講義)

北海道大学工学部
2013年7月14・15日

環境放射能測定II
(空間放射線量と大気浮遊物質中の
放射能測定法)

藤吉 亮子
北海道大学大学院工学研究院

自然放射線(バックグラウンド)

宇宙線(2次)
(中性子)
 $^{14}\text{N}_2$
 $^{14}\text{C} + \text{陽子}$
 $^{14}\text{CO}_2$

コンクリート
ブロック
(^{226}Ra , ^{40}K)

^{238}U (^{226}Ra), ^{232}Th , ^{235}U , ^{40}K

^{222}Rn

環境放射能コース(中級コース講義)
北海道大学工学部 2013年7月14日

本事業では、放射線や放射能および原子力について正確な知識を習得し、原子力工学分野のみならず、環境科学、放射化学、保健物理学、獣医学、農学などの他分野の視点から環境放射能の諸課題を学び、さらに放射線計測の実習を通して環境放射能測定技術の習得した、多様な環境放射能問題に対応可能な国際的人材を育成することを目的と致します。

中級コースは、環境放射能のさらなる知識を望む学生および社会人が、放射線計測学および環境放射能測定法に関する講義ならびに北海道大学の施設を利用した関連実験を受講できるコースです。

公開講義 > 環境放射能専門家育成コース(上級コース)

講義： 環境放射能専門家育成コース（上級コース）

佐藤 大樹

対象： 大学生、大学院生、社会人

開講： 2013年8月25日(北海道大学工学部)

掲載： 2014年12月10日

講義映像

国際原子力人材育成イニシアティブ事業
「多様な環境放射能問題に対応可能な
国際人材の機関連携による育成」

環境放射能専門家育成コース (上級コース講義)

北海道大学工学部
2013年8月25日・26日

環境修復II
(除染評価コードの概要
ならびにその実演)

佐藤 大樹
日本原子力研究開発機構

予測することの必要性

やみくもな除染 → うまく線量率を下げる事ができないばかりか、労力と費用の浪費につながる可能性も...

実際に行動を起こす前に、その行動がもたらす効果を予測することが重要

行動の選択肢が多岐にわたると予測すべき状況も多様化

実験に基づく予測では対応しきれない場合も...
シミュレーション技術の活用

環境放射能専門家育成コース(上級コース講義)
北海道大学工学部 2013年8月25日

本事業では、放射線や放射能および原子力について正確な知識を習得し、原子力工学分野のみならず、環境科学、放射化学、保健物理学、獣医学、農学などの他分野の視点から環境放射能の諸課題を学び、さらに放射線計測の実習を通して環境放射能測定技術を習得した、多様な環境放射能問題に対応可能な国際的人材を育成することを目的と致します。

上級コースは、環境放射能に関連する分野で将来国際的に活躍できる人材の育成を目標とした、放射性廃棄物処理・処分技術および環境修復技術に関する講義ならびに非密封放射性同位体を用いた関連実験とフィールドワークを受講できるコースです。また、講義の成果をもとにした発表を通して、一般市民への情報発信スキルを身につけることができます。

オープンキャンパス > 理学部自由参加プログラム(2013)

講義： 物理学科公開講座 宇宙のなぞと物理学

羽部 朝男

対象： 高校生

開講： 2013年8月4日（北海道大学理学部）

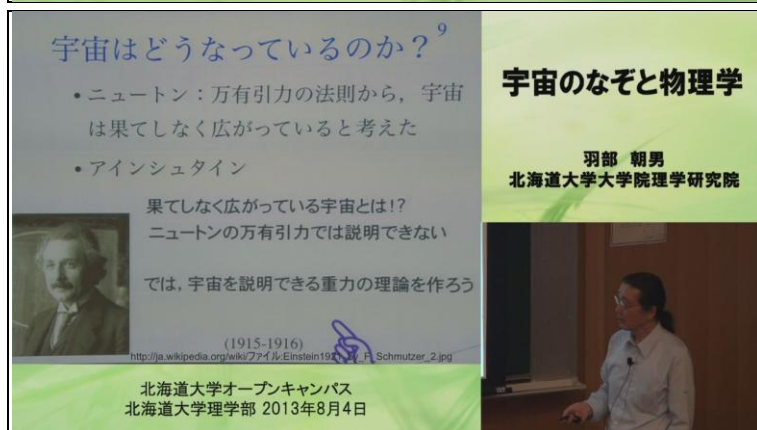
掲載： 2013年10月31日

講義映像



「理学部自由参加プログラム」の物理学科公開講座「宇宙のなぞと物理学」の様です。

物理学には様々な分野がありますが、本講義では、宇宙の話と物理学の関係についてお話しします。宇宙について、物理学者はどう考えてきたのか、現在どのように理解しているのかを解説します。



オープンキャンパス ＞ 法学部自由参加プログラム(2013)

講義： 受験が終わったらバイトをしよう！バイトでも役に立つ労働法の基礎知識

池田 悠

対象： 高校生

開講： 2013 年 8 月 4 日（北海道大学文系共同講義棟）

掲載： 2013 年 11 月 19 日

講義資料・映像



法学部自由参加プログラム第2
講演の模様です。

本講義では、日常的に接する
可能性が高い法律である労働
法について解説します。



最終講義 > 旅の途上にて ～サケ学起学

講義： 旅の途上にて ～サケ学起学

帰山 雅秀

開講： 2013 年 3 月 1 日 (北海道大学水産学部)

掲載： 2013 年 12 月 17 日

講義映像



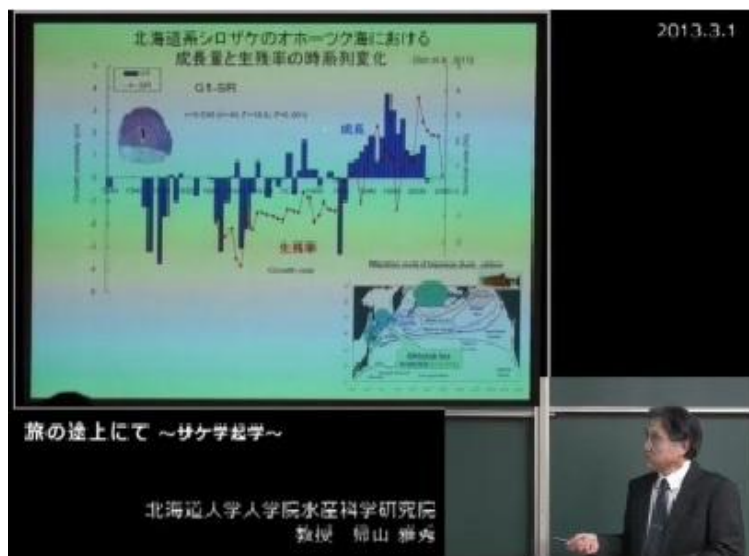
帰山雅秀教授(北海道大学大学院水産科学研究院)の最終講義の様様です。

本講義では、次の世代にサケをなんとか残したいという視点から、

- ・現在サケのおかれている現状
- ・現在の課題
- ・将来展望

について解説し、今後の課題についてお話しします。

提供:北海道大学大学院水産科学研究院



研究教育資料 > LEPIDOPTERA(レピドプテラ) 空を舞う昆虫たち、チョウとガの世界

講義： LEPIDOPTERA（レピドプテラ） 空を舞う昆虫たち、チョウとガの世界

北海道大学総合博物館

開講： 2011 年度

掲載： 2013 年 4 月 9 日

講義映像



「北海道大学総合博物館
2011 年度 夏の企画展示映像」
として上映した動画です。

提供:北海道大学総合博物館

研究教育資料 > 北海道大学和歌山研究林本館

講義： 北海道大学和歌山研究林本館

揚妻 直樹、藤田 良治

掲載： 2013 年 4 月 15 日

講義映像



和歌山県古座川町平井地区にある登録有形文化財（建造物）「北海道大学和歌山研究林本館」の紹介映像。研究林本館は1927年に建てられた洋風の木造建造物で、北大研究林の歴史を残している。

北海道大学の研究林は国内7カ所にあり、和歌山県以外の研究林はすべて北海道にある。和歌山研究林は北海道帝国大学時代の1925年に開設された。北大研究林で戦前に建てられた建造物を現在も利用しているのは和歌山研究林のみである。この映像では、和歌山研究林本館の内部を揚妻林長に案内してもらい、建物内の魅力を語ってもらっている。

提供：北海道大学総合博物館

研究教育資料 > 和歌山研究林紹介

講義： 和歌山研究林紹介
北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 森林圏ステーション 2013

揚妻 直樹、藤田 良治

掲載： 2013 年 5 月 15 日

講義映像



北海道大学和歌山研究林の紹介映像です。林内にあるジャングルジムシステム、リタートラップ、炭焼窯、モノレールなど研究林の実験設備や森林の魅力について揚妻直樹研究林長が紹介しています。

提供:北海道大学総合博物館



サイエンスパーク in 博物館 > サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館(2013)

講義： サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館（2013 年度）

鈴木 章、山本 靖典

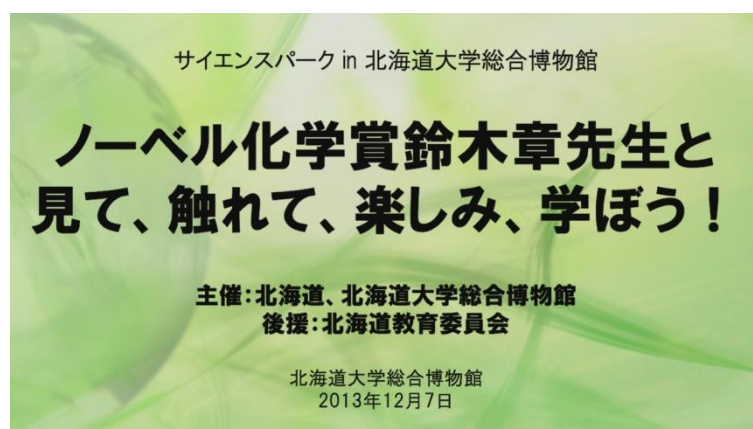
主催： 北海道、北海道大学総合博物館

後援： 北海道教育委員会

開講： 2013 年 12 月 7 日(北海道大学総合博物館)

掲載： 2014 年 3 月(予定)

講義映像



北海道大学名誉教授の鈴木章氏をお招きし、本道の未来を担う子どもたちに、生活の利便性向上や社会経済の発展に大きく貢献する科学技術への関心を高めてもらうため、「見て、触れて、楽しんで、学ぶ」ことができる「体験型の交流の場」を創出しました。

第1部「参加体験型の実験」では、鈴木先生よりクロスカップリング反応の研究等についてのお話し、クロスカップリング反応の実験（講師：山本先生）があります。

第2部では、鈴木先生と参加児童との交流イベントがあります。

サステナビリティ・ウィーク > ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ(2012)

講義： ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ（2012）

小林 清一、宮本 顯二

主催： 北海道大学大学院保健科学研究院

開講： 2012 年 11 月 3 日（北海道大学保健科学研究院）

掲載： 2013 年 5 月 13 日

講義映像

北海道大学サステナビリティ・ウィーク2012

ようこそ！ ヘルスサイエンスの世界へ

主催：北海道大学大学院保健科学研究院

北海道大学大学院保健科学研究院
2012年11月3日

アレルギー疾患は文明病か！？

1. アレルギー疾患の増加は世界的傾向
2. アレルギー罹患率は開発途上国よりも
西欧先進国で高い
3. 開発途上国の西欧化に伴い、アレルギー
疾患が増加する
4. 農村部よりも都市部でアレルギー罹患率
が高い

→ 遺伝子変化は考えにくい、欧米型ライフ
スタイルに関連する環境要因か？

ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ
北海道大学大学院保健科学研究院 2012年11月3日

アレルギーの不思議

小林 清一
北海道大学大学院保健科学研究院
教授

小林 清一教授が講演している様子

保健科学研究院の公開講座は「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」というテーマのもと、3名の講師陣が専門分野の紹介をします。

第1限目は「アレルギーの不思議」と題して、小林清一教授が国民病とも呼ばれているアレルギーについて解説します。第2限目は「あなたの健康生活を支える看護師活用術」と題して、良村貞子教授が保健医療福祉の現場で活躍している看護職者の業務の内容を紹介します。第3限目は「今こそ考えるとき、高齢者の延命治療ー我が国と諸外国の比較からー」と題して、宮本顯二教授が高齢者の終末期医療について解説します。

サステナビリティ・ウィーク > ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ(2013)

講義： ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ（2013）

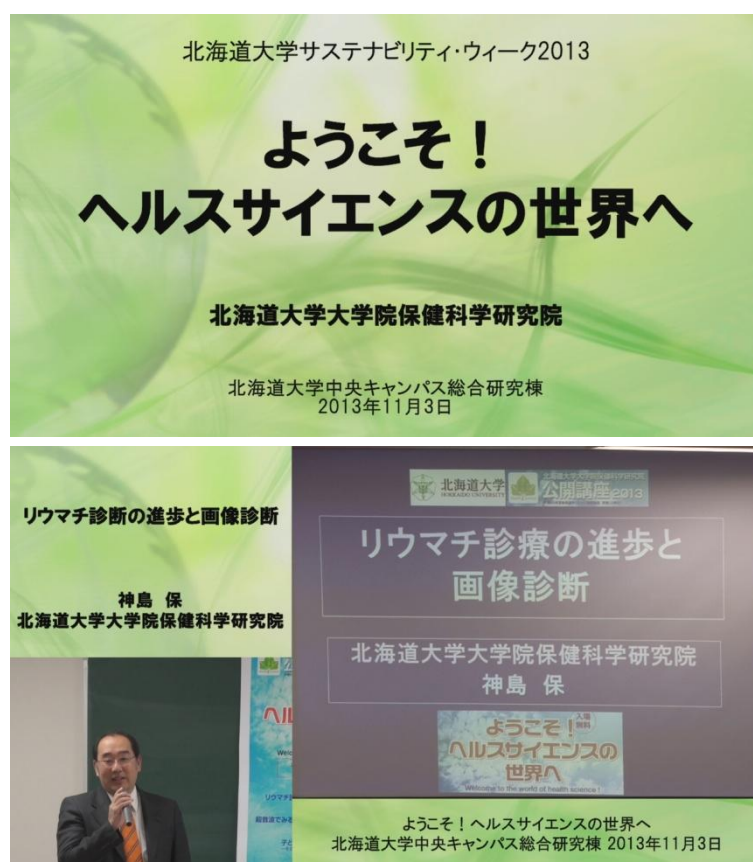
神島 保、三神 大世、傳田 健三

主催： 北海道大学大学院保健科学研究院

開講： 2013 年 11 月 3 日（北海道大学保健科学研究院）

掲載： 2014 年 2 月 4 日～

講義映像



保健科学研究院の公開講座は「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」というテーマのもと、3名の研究者が専門分野の紹介をわかりやすく行います。

第1限目：「リウマチ診療の進歩と画像診断」 神島保教授が進行性の関節破壊をきたす関節リウマチの診断・治療に画像診断がどのように役立つかを解説します。

第2限目：「超音波でみる心臓の動きと血液の流れ」 三神大世教授が心臓の動きや血流の動画など人体内をリアルタイムで映像化する超音波の診断能力について解説します。

第3限目：「子どものうつと自殺に傾く心理—その実態と対策について—」 傳田健三教授が、近年増加している子どものうつ病、若者の自殺について、わが国の実態を報告し、その対策について解説します。

講演者はサステナビリティ・ウィーク 2013 のテーマである「持続可能な社会の構築に向けた学び」をキーワードとして、保健科学の視点から詳しくかつ分かりやすく解説します。

北海道大学公開講座 > 北海道大学公開講座(2013 年度) 2030 年へのシナリオ

講義： グローバリゼーションと教育の変容

小内 透

開講： 2013 年 7 月 1 日(北海道大学情報教育館)

掲載： 2012 年 9 月 27 日

講義映像

北海道大学公開講座
第1回

グローバリゼーションと教育の変容

小内 透
北海道大学大学院教育学研究院 教授

北海道大学情報教育館
2013年7月1日

I 増大する外国人児童・生徒

3 ニューカマーの増大と「国民」教育の維持

①入管法改定とニューカマーの増加

a.外国人登録人口 2012年: 2,833,656人(1978年: 766,894人) 総人口比: 1.60%(0.67%)

図1 外国人登録者数および総人口に占める比率

年	外国人登録者数 (人)	総人口に占める比率 (%)
1978	766,894	0.67
2012	2,833,656	1.60

北海道大学公開講座 第1回
北海道大学情報教育館 2013年7月1日

グローバリゼーションと教育の変容

小内 透
北海道大学大学院教育学研究院

経済・社会のグローバリゼーションの動きが強まる中で、教育のあり方は大きく変容しつつあります。国の枠をこえて、義務教育段階から高等教育まで多くの外国人が学び、外国で学ぶ日本人も増大しています。それにともなって、世界的な規模で教育の成果が評価される傾向も現れています。これらの動きの中で、従来の国民教育のあり方が問い直され、トランスナショナルな教育システムの構築が課題となりつつあることについて論じます。

北海道大学公開講座 > 北海道大学公開講座(2013 年度) 2030 年へのシナリオ

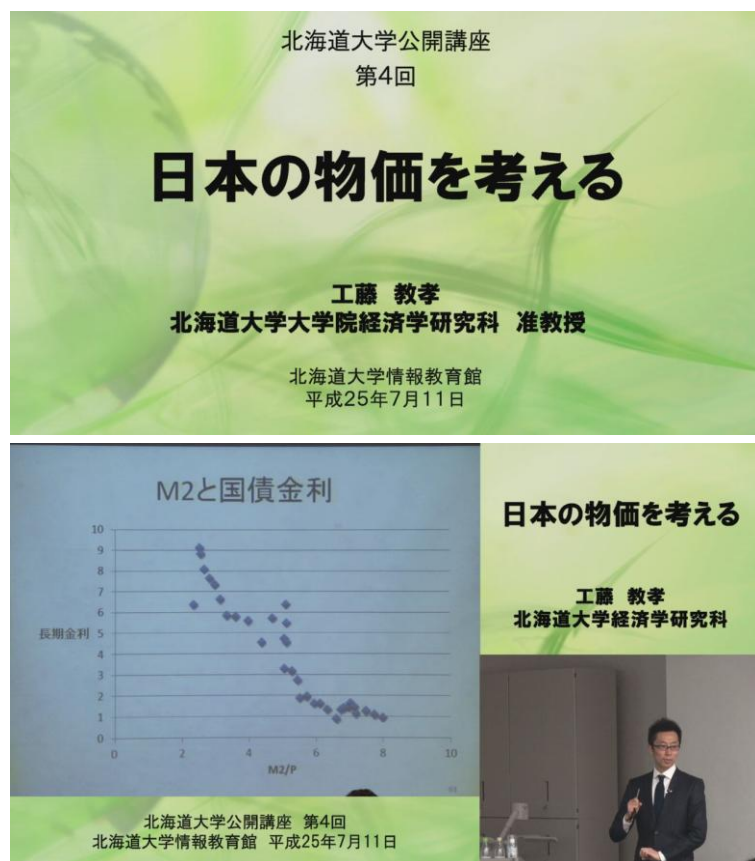
講義： 日本の物価を考える

工藤 教孝

開講： 2013 年 7 月 11 日 (北海道大学情報教育館)

掲載： 2013 年 11 月 6 日

講義映像



第2次安倍政権発足によって日本経済は大きな転換点を迎えています。特に注目されているのが政府と日銀との関係です。安倍政権の目指す「レジームチェンジ」によって日本経済はどこへ向かうのでしょうか。本講義では、日銀の金融政策と政府の累積債務問題の未来を「物価」という視点から考えます。

北海道大学公開講座 > 北海道大学公開講座(2013 年度) 2030 年へのシナリオ

講義： わが国の医療と薬の近未来像とは

武田 宏司

開講： 2013 年 7 月 22 日 (北海道大学情報教育館)

掲載： 2013 年 11 月 6 日

講義映像

北海道大学公開講座
第6回

わが国の医療と薬の近未来像とは

武田 宏司
北海道大学大学院薬学研究院 教授

北海道大学情報教育館
平成25年7月22日

高齢者の医療費は若年者より多い

ファーマ2020：ビジョン 統括に立つ医薬品業界, p11, 図5, PwC Japan
http://www.pwc.com/jp/ja/japan-knowledge/archive/assets/pdf/archive_pharma_2020.pdf

国	50-64	65-69	70-74	75-79	80以上
米国	15	20	25	30	35
カナダ	10	15	20	25	30
英国	10	15	20	25	30
オーストラリア	10	15	20	25	30
日本	10	15	20	25	30
ドイツ	10	15	20	25	30
スペイン	10	15	20	25	30
スウェーデン	10	15	20	25	30

出典：Lawrence Kurland & Christian Hagist, "Who's Going Broke?" National Bureau of Economic Research, Working Paper No. 11833, December 2005

注：各国における50～64歳の患者の医療費を基準にした場合の他の年齢層の医療費を比較するために、日本は100%とされている。

北海道大学公開講座 第6回
北海道大学情報教育館 平成25年7月22日

わが国の医療と薬の近未来像とは

武田 宏司
北海道大学大学院薬学研究院

昨年は山中伸弥教授のノーベル賞受賞の話題で日本中が沸きました。一方で、医療費負担の増大、薬害による健康被害など、医療をめぐるマイナス面の報道も目につきます。しかし、実際にはこれらの判断は諸外国との比較のなかでなされる必要があります。本講義では、わが国の医療水準を世界と比較してその特徴を明らかにした上で、今後医療と薬にかかわる研究がどの方向へ向かおうとしているのか、わかりやすく解説したいと思います。

北海道大学公開講座 > 北海道大学公開講座(2013 年度) 2030 年へのシナリオ

講義： 北海道の都市と交通の将来展望

岸 邦宏

開講： 2013 年 7 月 18 日 (北海道大学情報教育館)

掲載： 2014 年 2 月 27 日

講義映像



昨年、北海道新幹線札幌延伸が決まり、2035 年に開業予定となっています。しかし、すでに人口減少・高齢化が進み、いかにして安全・安心に暮らせる街を作るか、都市や産業を活性化することが重要な課題となっています。本講義では、北海道の都市と交通の将来はどうなっているか、札幌市と地方都市の観点から説明します。そして、将来のために都市や交通ネットワークをどのように整備していくべきかを解説します。

博物館 土曜市民セミナー > 原子力発電所の廃炉と放射性廃棄物の処分

講義： 原子力発電所の廃炉と放射性廃棄物の処分

小崎 完

開講： 2013 年 3 月 9 日 (北海道大学総合博物館)

掲載： 2013 年 4 月 8 日

講義映像

土曜市民セミナー

原子力発電所の廃炉と放射性廃棄物の処分

小崎 完
北海道大学大学院工学研究院 教授

北海道大学総合博物館
2013年3月9日

原子力発電所の廃炉と放射性廃棄物の処分

小崎 完
北海道大学大学院工学研究院 教授

放射性廃棄物の処分方法

流地中トレンチ処分
流地中ピット処分
管理型処分
高レベル放射性廃棄物
中レベル放射性廃棄物
低レベル放射性廃棄物
地下300mより深い地層
地層処分
隔離型処分

放射性レベル
0 m
25 m
50 m
100 m
300 m
高

土曜市民セミナー
北海道大学総合博物館 2013年3月9日

福島第一原子力発電所の事故から2年。福島環境修復から生じる除染廃棄物、発電所内の熔融燃料、汚染水、原子炉の解体で生じる廃棄物等の安全な処理・処分が大きな課題となっている。ここでは、通常の運転の末に役目を終えた原子炉の廃炉方法とその技術、廃炉で発生する解体廃棄物の種類と物量、使用済核燃料の再処理方法とその利点などを解説する。また、現在進められている放射性廃棄物の処分方法とその安全性を整理した上で、福島の復興と未来の地球環境のために我々が為すべきことを考えたい。

博物館 土曜市民セミナー > 食糧問題から見る昭和史

講義： 食糧問題から見る昭和史

白木沢 旭児

開講： 2013年1月12日(北海道大学総合博物館)

掲載： 2013年4月10日

講義映像



現代日本にくらす私たちは、食べ物をどこから獲得しているのか、を考えてみると、主食の米はともかくとして、穀物、肉類、野菜など外国からの輸入品がひじょうに多いことに気づかされます。現在、話題になっているTPPへの参加如何によっては、外国からの輸入食料品がさらに増える可能性もあります。私たちはなぜ、食糧を外国に依存するようになったのでしょうか。話は第二次世界大戦前後にさかのぼります。昭和史という長い時代のなかで私たちの食糧の問題を考えてみようと思います。

博物館 土曜市民セミナー > 考古動物学から考えるアホウドリの歴史

講義： 考古動物学から考えるアホウドリの歴史

江田 真毅

開講： 2013 年 2 月 9 日 (北海道大学総合博物館)

掲載： 2013 年 6 月 3 日

講義映像

土曜市民セミナー

考古動物学から考える アホウドリの歴史

江田 真毅
北海道大学総合博物館 講師

北海道大学総合博物館
2013年2月9日

考古動物学から考える
アホウドリの歴史

江田 真毅
北海道大学総合博物館



Q3. 出土した骨はアホウドリの骨？



本島産標本: 長谷川博品
アホウドリ (*P. albatrus*)



クロアシアホウドリ (*P. neriipes*)



本島産標本: 長谷川博品
コアホウドリ (*P. immutabilis*)

狩猟されたのは
沿岸性のアホウドリ？
遠洋性のクロアシ・コアホウドリ？

土曜市民セミナー
北海道大学総合博物館 2013年2月9日

アホウドリ。この気の毒な鳥の名前をみなさん一度は耳にしたことがあるでしょう。翼を広げると 2 m を超えるこの海鳥は、地上では動きが鈍く、またヒトを恐れませんが、19 世紀末ごろから羽毛採取のために乱獲され、一時は絶滅したと考えられました。現在、主に伊豆諸島の鳥島と尖閣諸島の南小島・北小島で約 3,000 羽が繁殖しています。遺跡から発掘された骨の分析から、アホウドリは過去に日本列島に住んでいた人々にも盛んに利用されていたことが明らかになりました。DNA 解析など様々な視点で遺跡から出土した骨を分析する科学、考古動物学からこの鳥の歴史について考えます。

博物館 土曜市民セミナー > 豊平川がつくりだした自然景観

講義： 豊平川がつくりだした自然景観

前田 寿嗣

開講： 2013 年 5 月 11 日 (北海道大学総合博物館)

掲載： 2013 年 7 月 3 日

講義映像



札幌は豊平川がつくった扇状地の上に発展してきた街であることはよく知られています。扇状地ばかりではなく、源流の小魚山から石狩川への合流点まで、豊平川沿いには様々な地形が見られます。これらは、一千万年以上の時間をかけて、大地をつくる地質とそれを削り堆積させる豊平川のはたらきによってできあがってきたもので、この豊かな自然景観は豊平川の恵みといっても過言ではありません。ふだん見慣れているこれらの景観と豊平川とのかかわりを改めて見直していくことにしましょう。

博物館 土曜市民セミナー > 破綻国家の教訓から考える持続的国家

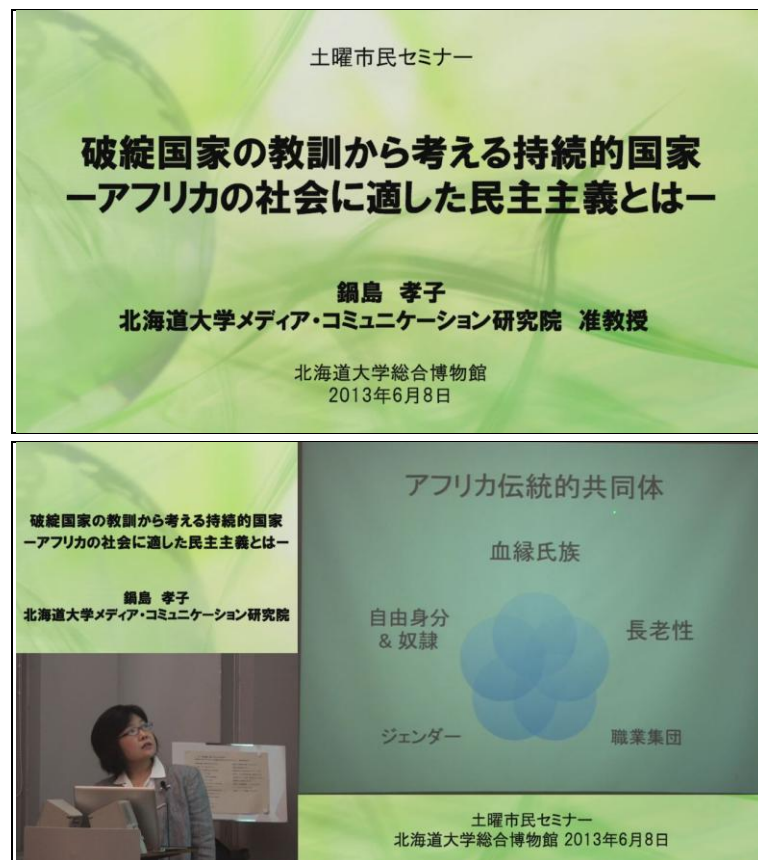
講義： 破綻国家の教訓から考える持続的国家：
アフリカの社会に適した民主主義とは

鍋島 孝子

開講： 2013 年 6 月 8 日 (北海道大学総合博物館)

掲載： 2013 年 7 月 4 日

講義映像



民主主義とは何でしょうか。どうしたら政治的安定を得られるのでしょうか。統合できない多様な社会は、強権的に統制した方が得策なのでしょうか。セミナーでは、アフリカの破綻国家の例としてコンゴ・ザイールの歴史を取り上げます。実際、アフリカでは植民地を経て、流動的な社会階層やグループが出現してきました。これらの人々は、ヨーロッパ発祥の国民国家に適合できない性格を持っていました。では、これら規格外の国家「不適合者」を放っておいていいのでしょうか。彼らは差別を受け、経済的困窮からテロリストや暴力集団に変容していくのです。画一的な国家ではなく、社会の実情に適合できる民主主義国家について考えて行きます。

博物館 土曜市民セミナー > Serbia - a crossroad / セルビア

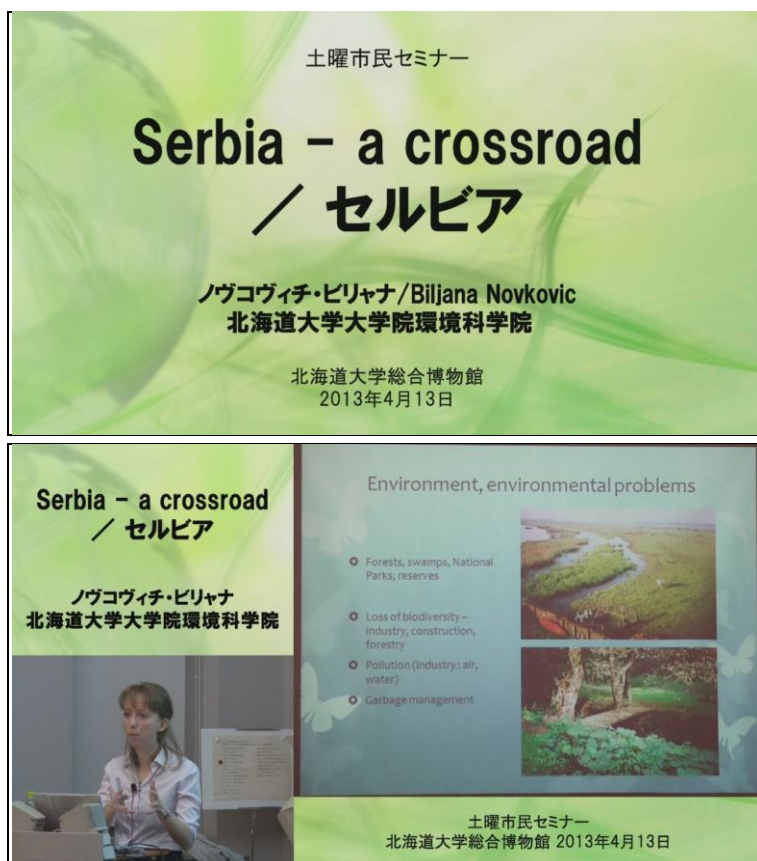
講義： Serbia - a crossroad / セルビア

ノヴォヴィチ・ビリャナ

開講： 2013年4月13日(北海道大学総合博物館)

掲載： 2013年7月10日

講義映像



セルビアは、ヨーロッパの南東に位置する、バルカン半島にある陸地に囲まれた国です。長い歴史や地理的な位置のおかげで、セルビアには多くの民族、宗教、文化が会い、混ざり、今でも共存しています。様々なサービス、農業、工業が主な国の産業です。美味しい食べ物、にぎやかな音楽、川を中心にした暮らし方、最近の伝統芸術と技術、農村観光の復活等がセルビアで楽しめます。発表では、眠らない町 ―ベオグラード、ヨーロッパの最大の峡谷、二番目に大きい要塞都市、にぎやかな祭り、スポーツ等について紹介致します。

博物館 土曜市民セミナー > 地域の課題解決と大学研究活動

講義： 地域の課題解決と大学研究活動

小磯 修二

開講： 2013年7月13日(北海道大学総合博物館)

掲載： 2013年8月23日

講義映像

土曜市民セミナー

地域の課題解決と 大学研究活動

小磯 修二
北海道大学公共政策大学院 特任教授

北海道大学総合博物館
2013年7月13日

地域の課題解決と
大学研究活動

小磯 修二
北海道大学公共政策大学院

被保護世帯数の動向(保護率%)

年度	釧路市 (%)	北海道 (%)	全国 (%)
2000年度	28	18	8
2001年度	30	19	9
2002年度	33	21	10
2003年度	37	23	11
2004年度	40	24	12

土曜市民セミナー
北海道大学総合博物館 2013年7月13日

大学の地域貢献が求められているが、地域のかかえる課題の解決や、活性化に向けて大学の研究活動がどのようにかわっていくかは大変難しいテーマである。釧路公立大学において13年間にわたって、産業政策、環境問題、福祉政策など幅広い地域課題に向き合ってきた挑戦の経験を紹介しながら、大学の地域社会への貢献について一緒に考えていきたい。

博物館 土曜市民セミナー > 再生可能エネルギーと地域経済の活性化

講義： 再生可能エネルギーと地域経済の活性化

吉田 文和

開講： 2013 年 8 月 10 日 (北海道大学総合博物館)

掲載： 2013 年 12 月 17 日

講義映像

土曜市民セミナー

再生可能エネルギーと 地域経済の活性化

吉田 文和
北海道大学大学院経済学研究科 教授

北海道大学総合博物館
2013年8月10日

再生可能エネルギーと
地域経済の活性化

吉田 文和
北海道大学大学院経済学研究科

地域経済と再生可能エネルギー：北海道モデル

- バイオマス：熱か熱電併給、林業からの残廃材
- 太陽光発電：広く市民がエネルギー生産に参加
- 風力発電：陸上－農業関係、洋上－漁業関係、外部事業者－大規模投資、都市と連携－市民風車
- 小水力発電：農業関係水利施設、砂防堰堤、上下水道、農協・自治体と連携
- 地域に電力と熱供給：家庭、オフィス、学校、病院、商店、レストラン、道庁、水産加工・乳製品工場など
- 電力会社：買取保証、優先接続
- 地熱発電：温泉観光業者と連携、大規模投資必要で、外から事業者参加か
- バイオガス：熱電併給は発電のみ、農畜産業から家畜糞尿、サイレージ・茎など、漁・水産系廃棄物

再生可能エネルギーは地域資源なので、地元の参加、利益還元が成功の鍵！

土曜市民セミナー
北海道大学総合博物館 2013年8月10日

北海道は、日本の中でも、風力、バイオマス、太陽光、地熱、小水力など、自然エネルギーが恵まれた地域です。昨年の7月から、再生可能エネルギーの固定価格買取制度が発足して、道内でも大型の太陽光パネルの建設が始まっています。しかし、大部分が本州資本による投資です。エネルギーの地産地消に向けた取り組みが求められています。デンマーク、ドイツなどの取り組みを紹介しながら、北海道内先進的取り組みと日本全体の制度的な課題を、紹介、検討したいと思います。

博物館 土曜市民セミナー > サステナブルな企業報告を考える

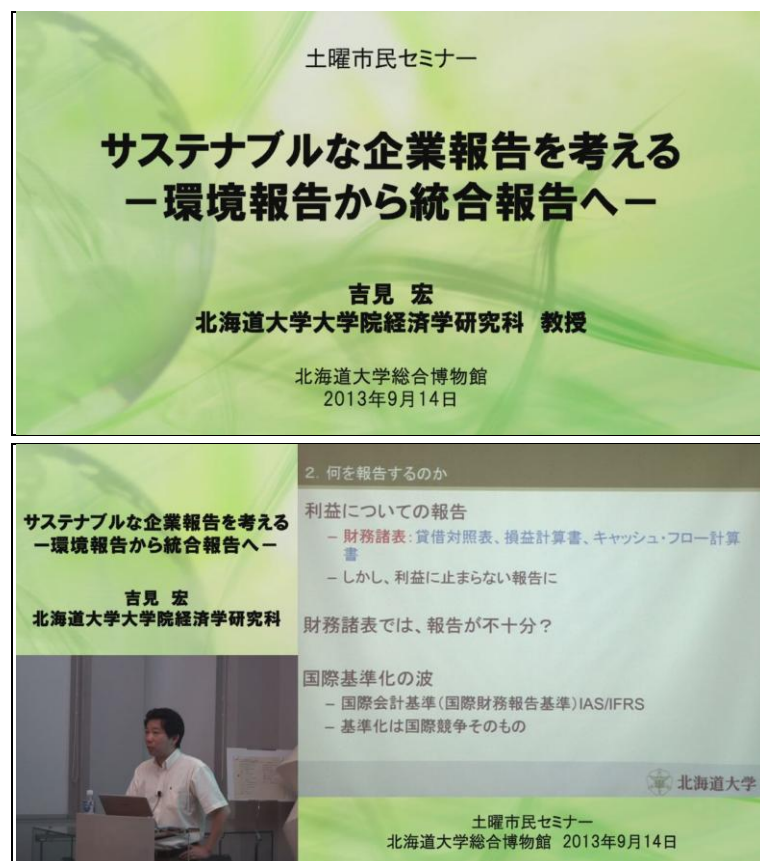
講義： サステナブルな企業報告を考えるー環境報告から統合報告へー

吉見 宏

開講： 2013年9月14日(北海道大学総合博物館)

掲載： 2013年12月24日

講義映像



土曜市民セミナー

サステナブルな企業報告を考える ー環境報告から統合報告へー

吉見 宏
北海道大学大学院経済学研究科 教授

北海道大学総合博物館
2013年9月14日

サステナブルな企業報告を考える
ー環境報告から統合報告へー

吉見 宏
北海道大学大学院経済学研究科

2. 何を報告するのか

利益についての報告

- ー 財務諸表: 貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書
- ー しかし、利益に止まらない報告に

財務諸表では、報告が不十分?

国際基準化の波

- ー 国際会計基準(国際財務報告基準)IAS/IFRS
- ー 基準化は国際競争そのもの

北海道大学

土曜市民セミナー
北海道大学総合博物館 2013年9月14日

企業がその活動を社会に対して報告する方法にはいくつかあります。代表的なものは財務報告(会計報告)ですが、1980年代以降、環境に関する報告が注目されてきました。それはCSR(企業の社会的責任)報告となり、そしていま、それらを統合した「統合報告」が提案されています。企業が社会に何を報告すべきなのか、企業の社会貢献とは何か、今までの流れを追いながら、今後の企業のあり方を探ります。

博物館 土曜市民セミナー > 男らしさの神話と実話

講義： 男らしさの神話と実話

瀬名波 栄潤

開講： 2013 年 11 月 9 日 (北海道大学総合博物館)

掲載： 2014 年 2 月 20 日

講義映像

土曜市民セミナー

男らしさの神話と実話

瀬名波 栄潤
北海道大学大学院文学研究科 教授

北海道大学総合博物館
2013年11月9日

男らしさの神話と実話

瀬名波 栄潤
北海道大学大学院文学研究科

1995 年：ブラック・アメリカン運動
1997 年：プロミス・キーパーズの紀元：女性復権を求める男性のみのキリスト教運動団体。
現代：「男らしさを語る物語」(佐々木マユミ著、アサヒ文芸刊)
保平誠：伝統的な男らしさの権威や権化をなせる
男性の権利論：現代社会における男性の相対的な権利縮減状況を批判し、女性の主要な男性に
対する意識変革を主張する
精神主義論：男性性の危機を男性原理の不全状況に求め、その回復を追求しようとする
親フェミニスト論：女性問題を自分達の問題でもあると考える

「日本男子」の今
男らしさの「危機」
少年たち「いじ」の自衛
草食系男子と肉食系女子
中高年男性：過労死
老年男性：老年虐待
札幌市男女共同参画センター
男のための読み和読会：011-728-1331 (毎週水・土、午後 6~8 時)

1) まとめ：男女共同参画社会の実現

付録：「男」を語るハリウッド映画
オールドボーイ (2003年) (日本映画)
オールドボーイ (2003年) (韓国映画)

土曜市民セミナー
北海道大学総合博物館 2013年11月9日

女性の社会進出が進み、男女の役割にも変化が起きています。男女平等を求める一方で、おとなしい男性を草食系と揶揄したりするのは好例でしょう。こうしたなか、最近では「男」について考え直す議論が盛んに行われています。本講義では、まずこれらの背景を説明し、それから文学作品や映画などを紹介したいと思います。講師の専門分野上、英米文学作品やハリウッドの映画作品が中心になると思います。が、事前準備は必要ありません。また、本講義では、男性が登場する神話を紹介するわけでもありません。ご承知おき下さい。それでは、「理想化された男性像」と「現実の男」について検証し、今後のオトコについて考えましょう。

人文学カフェ > 明治十五年の《アポロ讃歌》—プラトンがつないだ古代ギリシアと日本

講義： 明治十五年の《アポロ讃歌》—プラトンがつないだ古代ギリシアと日本

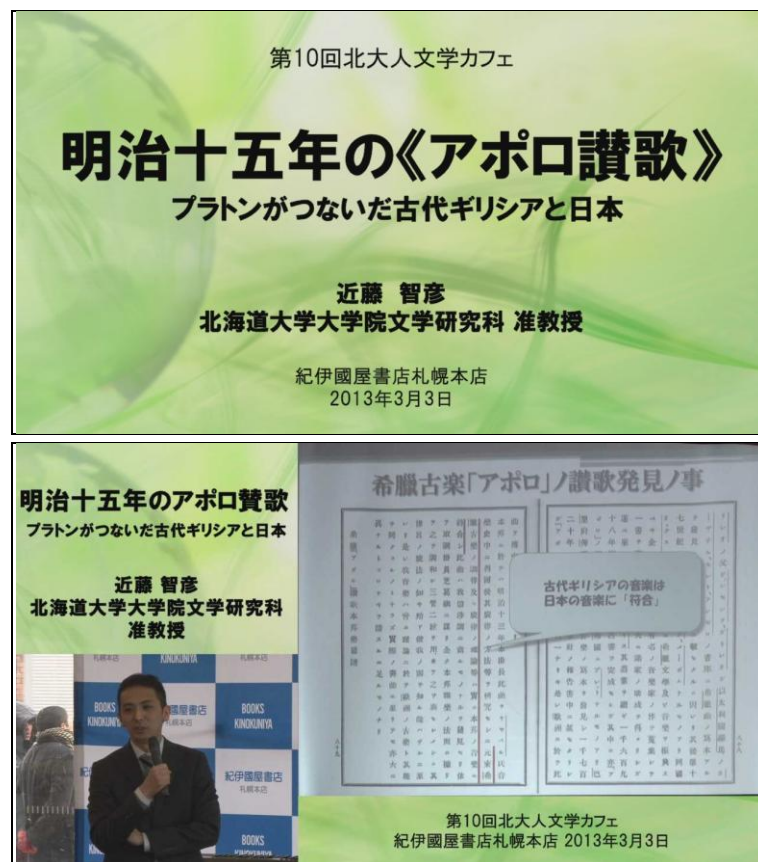
近藤 智彦

主催： 北海道大学院文学研究科・人文学カフェ実行委員会

開講： 2013年3月3日(紀伊國屋書店札幌本店)

掲載： 2013年5月31日

講義映像



明治15年(1882年)1月31日。この日東京で、満員の聴衆を前に、紀元二世紀の古代ギリシアの音楽を雅楽として蘇らせた一曲《アポロ讃歌》が演奏されました。なぜ、二千年も前のギリシアの音楽が明治期の日本で、しかも和楽器で演奏されたのでしょうか？今回の話し手の近藤智彦さんによれば、この古代ギリシアの音楽と雅楽の不思議な出会いには、同じく古代ギリシアの哲学者プラトンの主著『国家』の思想がかかわっているそうなのですが――

謎が謎を呼ぶ、広く深い思想史の森。それは自分自身を知る森でもあります。みなさん、近藤さんとこの森を散歩してみませんか。当日は雅楽版《アポロ讃歌》の再現映像も紹介します。(演奏: 伶楽舎、講演映像には含まれておりません)

人文学カフェ > 北の大地を掘る・みる・聞く ―最新考古学事情―

講義： 北の大地を掘る・みる・聞く ―最新考古学事情―

高瀬 克範

主催： 北海道大学院文学研究科・人文学カフェ実行委員会

開講： 2013年7月20日(紀伊國屋書店札幌本店)

掲載： 2013年8月13日

講義映像



考古学者の仕事といえば…、冒険や宝探し？

いえいえ、考古学者は過去の人々がのこしたモノ(物質資料)から人類史を再構成する使命をにない、もの言わぬモノ資料に何とかして語らせ、その「声」を聞くことに日夜奮闘しているのです。そのために駆使されている科学捜査さながらの方法を、「七つ道具」とともに高瀬さんに解説してもらいましょう。

考古学の最大の利点は何でしょうか？それは、たとえ文字で書かれた記録がなくても、歴史を復元できるところにあります。人間がいた場所であれば、地球上のどこでも歴史研究の対象になりえるのです。もちろん、北の大地に住んだ人々のあゆみを解明するためにも、なくてはならない学問なのです。考古学からみえてきた千島・カムチャツカの知られざる歴史とはどのようなものなのか、最新の成果もご紹介します。

人文学カフェ > 「机の上のペン」と「ペンの下の机」

講義： 「机の上のペン」と「ペンの下の机」 言葉のしくみを科学する認知言語学

高橋 英光

主催： 北海道大学院文学研究科・人文学カフェ実行委員会

開講： 2014年2月22日(紀伊國屋書店札幌本店)

掲載： 2014年3月(予定)

講義映像

第13回北大人文学カフェ

「机の上のペン」と「ペンの下の机」
言葉のしくみを科学する認知言語学

高橋 英光
北海道大学大学院文学研究科 教授

紀伊國屋書店札幌本店
2014年2月22日

机の上のペン と ペンの下の机
言葉のしくみを科学する
認知言語学

高橋 英光
北海道大学大学院文学研究科

2章 上下のメタファー

- ・ ヒトは上下(垂直軸)で空間以外の様々な経験を表現するが、上＝好ましいコト、下＝好ましくないコト、を表しやすい(Lakoff and Johnson 1980、瀬戸賢一 2005)。「景気が上向く」「気分が高揚する」「期待が高まる」「景気が下向く」「彼女は最近沈んでいる」「気分が落ち込む」「体力が下降気味」

←ヒトは、うれしい時、元気な時は背筋を伸ばし上を向く。逆に悲しい時、元気のない時はうつむきやすい。
←太陽が昇ると、世界が明るくなり、ヒトは活動的になる。見上げると太陽が見える。

つまりヒトの身体経験を写し出している。

第13回北大人文学カフェ
紀伊國屋書店札幌本店 2014年2月22日

わたしたちは「金星」のことを「明けの明星」とも呼び、前後の文脈や状況に応じて使い分けます。位置関係の表現に「体育館の横の自転車」と言いますが、「自転車の横の体育館」という使い方はほとんどしません。同じモノやコトを表す言葉が複数ある場合、なぜ適切に使い分けができるのでしょうか。それは、ヒトに認知能力があるからです。言葉と言葉を使う時の頭の働き(認知能力)に注目して、言葉のしくみを解き明かそうとする学問、それが認知言語学です。

認知言語学と聞くと難しそうな気がしますが、ご心配無用。高橋さんが身近な実例を取り上げ、皆さんの素朴な疑問や思い込みについてわかりやすく解説いたします。普段何気なく使い分けている言葉のしくみがわかると、言葉の不思議やおもしろさが見えてきます。皆さんも高橋さんと一緒に、言葉と頭の親密な関係を体験しませんか。

時計台サロン > 第8回 我らのスピリッツ

講義： 我らのスピリッツ

藤田 正一、太田原 高昭

主催： 北海道大学大学院農学研究院

共催： 北海道新聞社

後援： 札幌国際プラザ、札幌農学振興会

開講： 2012年11月21日(札幌市時計台ホール)

掲載： 2013年3月13日

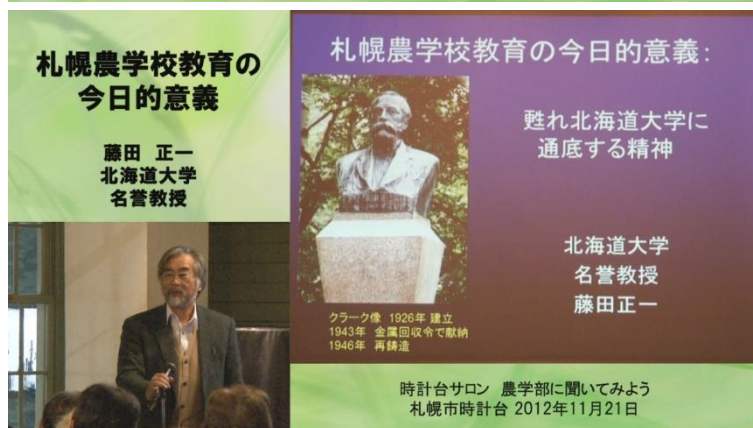
講義映像



時計台サロン「農学部に聞いてみよう」、第8回「我らのスピリッツ」の様です。

第一講演では、藤田先生が「札幌農学校の今日的意義」と題して、札幌農学校に受け継ぐ精神に重きをおいてお話しします。

第二講演では、大田原先生が『志の場所』—司馬遼太郎の北海道論」と題して、北海道全体のスピリッツについてお話しします。



時計台サロン > 第10回 スーパーマーケットはどこへ行くのか？

講義： スーパーマーケットはどこへ行くのか？

横山 清、坂爪 浩史

主催： 北海道大学大学院農学研究院

共催： 北海道新聞社

後援： 札幌国際プラザ、札幌農学振興会

開講： 2013 年 1 月 29 日 (札幌市時計台ホール)

掲載： 2013 年 4 月 5 日～

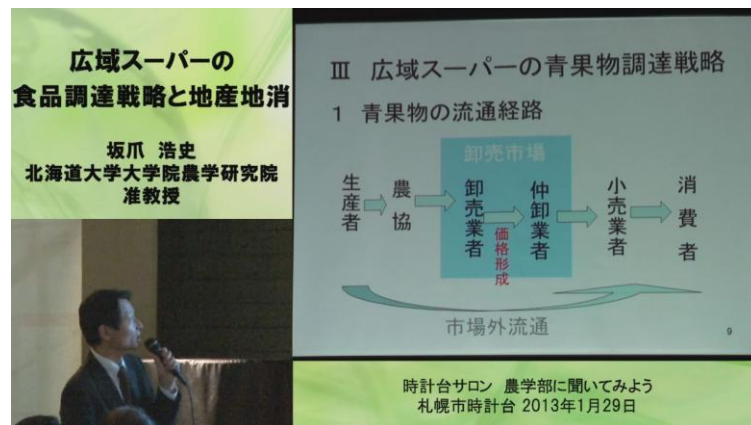
講義映像



時計台サロン「農学部に聞いてみよう」、第10回「スーパーマーケットはどこへ行くのか？」の模様です。

第一講演では、横山先生が「食の終焉とスーパーマーケット」と題して、食も含めた流通業について、現実とこの50年間でどう変わってきたか解説します。

第二講演では、坂爪先生が「広域スーパーの食品調達戦略と地産地消」と題して、スーパーマーケット業界における食品の調達戦略について解説します。



時計台サロン > 第11回 夜まで討論！TPP 問題

講義： 夜まで討論！TPP 問題

久田 徳二、東山 寛、吉田 徹

主催： 北海道大学大学院農学研究院

共催： 北海道新聞社

後援： 札幌国際プラザ、一般社団法人 札幌農学同窓会

開講： 2013 年 2 月 27 日 (札幌市時計台ホール)

掲載： 2013 年 5 月 2 日

講義映像



時計台サロン「農学部に聞いてみよう」、第 11 回「夜まで討論！TPP 問題」の様様です。

第一講演では、久田先生が「TPP のイロハ」と題して、第二講演では、東山先生が「TPP と農業は両立するか」と題して、第三講演では、吉田先生が「TPP はなぜ嫌われるか」と題して、TPP について解説します。

その後、会場の方のご質問・意見をふまえて議論します。



時計台サロン > 第13回 北海道農業は気候変動にどう向き合うか？

講義： 北海道農業は気候変動にどう向き合うか？

広田 知良、高橋 昌志

主催： 北海道大学大学院農学研究院

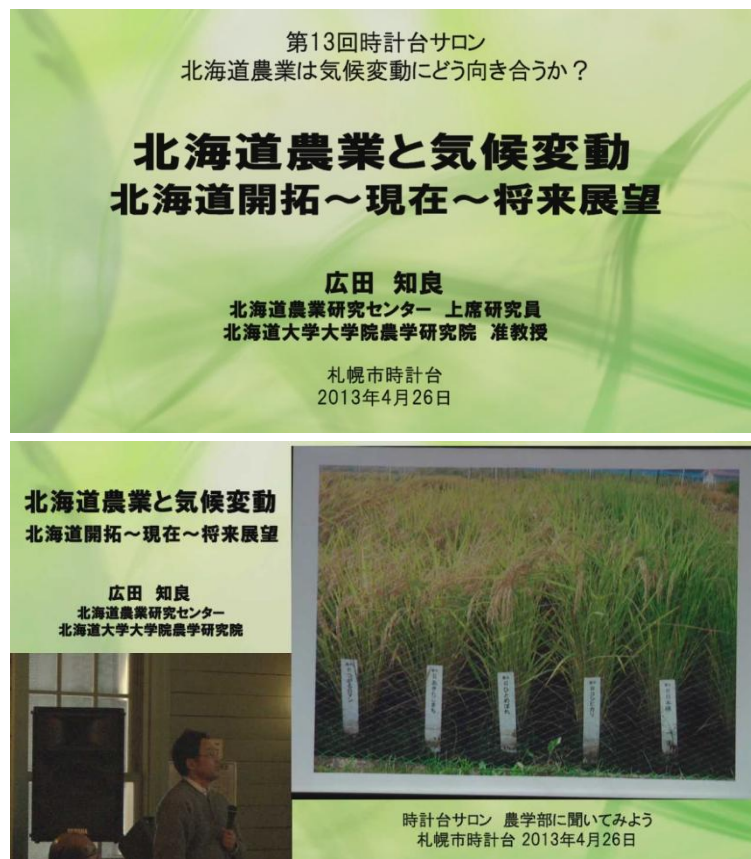
共催： 北海道新聞社

後援： 札幌国際プラザ、一般社団法人 札幌農学同窓会

開講： 2013年4月26日(札幌市時計台ホール)

掲載： 2013年6月24日～

講義映像



時計台サロン「農学部に聞いてみよう」、第13回「北海道農業は気候変動にどう向き合うか？」の様です。

第一講演では、広田先生が「北海道農業と気候変動 北海道開拓～現在～将来展望」と題して、半世紀毎の農業気象における歴史を振り返り、将来展望を述べます。

第二講演では、高橋先生が「北海道でも見られるようになった暑さがもたらす家畜の夏バテ」と題して、夏の暑さがさらに暑くなった、そういう場合に、家畜などの生産動物がどのような影響を受けてきたのか、うけるのかを解説します。

時計台サロン > 第 14 回 森林空間の科学

講義： 森林空間の科学

小池 孝良

主催： 北海道大学大学院農学研究院

共催： 北海道新聞社

後援： 札幌国際プラザ、一般社団法人 札幌農学同窓会

開講： 2013 年 6 月 21 日 (札幌市時計台ホール)

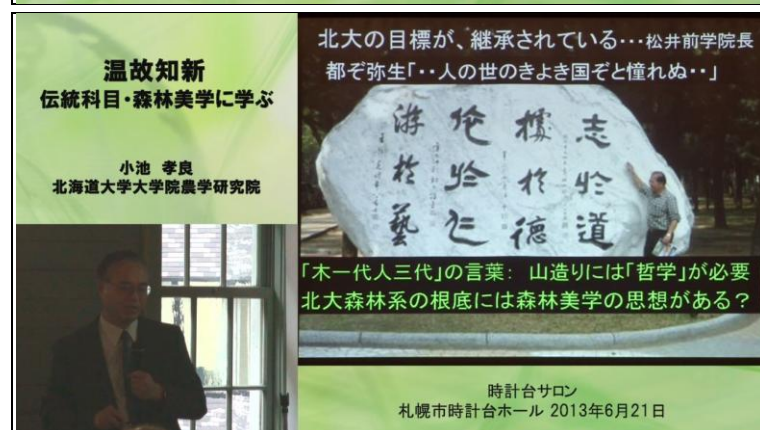
掲載： 2013 年 10 月 10 日

講義映像



時計台サロン「農学部に聞いてみよう」、第 14 回「森林空間の科学」の模様です。

第一講演では、小池先生が「温故知新:伝統科目・森林美学に学ぶ」と題して、森林美学の今日的意義について考え直し、積極的な景観の創造や、どのように山づくりを行っていけばいいのかについてお話しします。



時計台サロン > 第 16 回 農畜産物と私たちの健康

講義： 農畜産物と私たちの健康

仁木 良哉、川端 潤

主催： 北海道大学大学院農学研究院

共催： 北海道新聞社

後援： 札幌国際プラザ、一般社団法人 札幌農学同窓会

開講： 2013 年 10 月 29 日 (札幌市時計台ホール)

掲載： 2014 年 2 月 21 日～

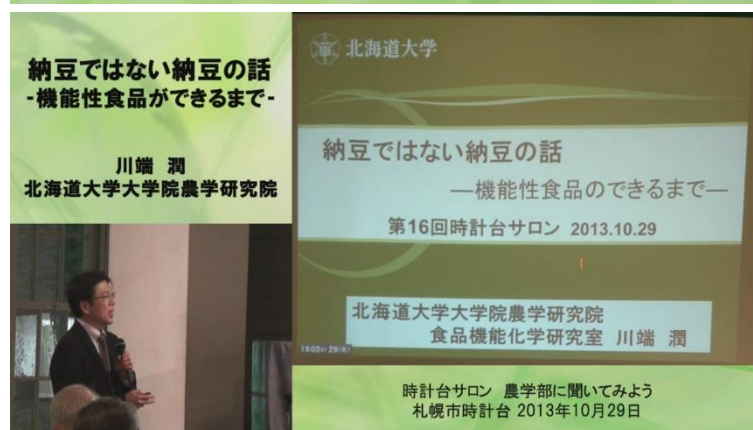
講義映像



時計台サロン「農学部に聞いてみよう」、第 16 回「農畜産物と私たちの健康」の様様です。

第一講演では、仁木先生が「ミルクは神様からの贈り物」と題して、栄養的な側面からお話します。

第二講演では、川端先生が「納豆ではない納豆の話 ——機能性食品のできるまで」と題して、機能性食品について解説します。



バイオミメティクス市民セミナー > 北海道の昆虫多様性とバイオミメティクス

講義： 北海道の昆虫多様性とバイオミメティクス

堀 繁久

主催： 北海道大学総合博物館

協賛： 高分子学会バイオミメティクス研究会

開講： 2012 年 9 月 1 日 (北海道大学総合博物館)

掲載： 2013 年 4 月 15 日

講義映像



細長い日本列島の北端に位置する北海道。そこに暮らす昆虫は、南から入ってきたものと北から入ってきたものが交じり合い、独特の昆虫相を形成している。北海道は、太平洋、日本海、オホーツク海と三方を海に囲まれ、大雪山や利尻岳などの高山、針葉樹林・針広混交林・ブナ林など様々な森林、釧路湿原やサロベツ湿原、石狩川や天塩川、石狩海岸など多様な環境に適応しながら様々な昆虫が生息している。北海道に生息する昆虫の多様性を眺めながら、そこに生息する昆虫が持っている、厳しい自然環境を生き残るために獲得したと考えられる、興味深い機能や構造を探すヒントを考えてみたい。

バイオメティクス市民セミナー > 農業とエントモメティクス、バイオメティクス

講義： 農業とエントモミメティクス、バイオミメティクス

森 直樹

主催： 北海道大学総合博物館

協賛： 高分子学会バイオミメティクス研究会

開講： 2012 年 11 月 3 日(北海道大学総合博物館)

掲載： 2013 年 6 月 27 日

講義映像

バイオメティクス・市民セミナー

農業とエントモメティクス、 バイオメティクス

森 直樹
京都大学大学院農学研究科 准教授

北海道大学総合博物館
2012年11月3日

**農業とエントモメティクス、
バイオメティクス**

森 直樹
**京都大学大学院農学研究科
准教授**



1. 昆虫唾液成分ポリシチンを巡る植食者－植物－天敵の相互作用（植物に誘導される間接防御反応）
2. ポリシチンの構造活性相関


OCC(=O)CCCCCCCCCCCCCCC(CNC(=O)O)CO
3. 昆虫由来の植物エフェクター



バイオメティクス・市民セミナー
北海道大学総合博物館 2012年11月3日

地球の歴史上、陸上に初めて登場した動物が「虫」であり、その種類数は地球上の全動物の7割を超えることを皆さんはご存知でしょうか。この意味から、実は地球は「虫」の惑星といえます。

今回の講演では、地球上で大繁栄する「虫」の生きる戦略を科学の目で切り込み、彼らが使う種々の情報伝達手段や、他の生物との関わり合いを中心に紹介したいと思います。そこには、「喰う－喰われる」の関係を通して、様々な生きる知恵を見出すことが出来ます。その機能を学び、じょうずに農業に応用することは出来ないでしょうか？それは簡単ではありませんが、そこには人間が謙虚に耳を傾けるべき、驚くほど巧妙な現象が隠されています。「虫」なんて聞いただけでも身の毛がよだつという方々にも積極的にご参加頂き、彼らを巡るワンダーランドを楽しんで下さい。

バイオミメティクス市民セミナー > ゲルとバイオミメティクス

講義： ゲルとバイオミメティクス

龔 劍萍（グン チェンピン）

主催： 北海道大学総合博物館

協賛： 高分子学会バイオミメティクス研究会

開講： 2013年1月13日（北海道大学総合博物館）

掲載： 2013年7月4日

講義映像

バイオミメティクス市民セミナー

ゲルとバイオミメティクス

龔 劍萍
北海道大学大学院先端生命科学研究院 教授

北海道大学総合博物館
2013年1月13日

ゲルとバイオミメティクス

龔 劍萍
北海道大学大学院
先端生命科学研究院

高靱性DNゲルの創製

従来のゲル

ダブルネットワーク(DN)ゲル

硬くて強い電解質網目と柔らかくて伸びる中性網目の組み合わせ

従来のゲルの数1000倍の靱性を達成!

Gong et al., Adv. Mat. 2003

日本, 米国, EU, 中国, 韓国 特許取得済み

ゲルが弱いという常識を覆した!!!

バイオミメティクス市民セミナー
北海道大学総合博物館 2013年1月13日

ぷるぷるのプリンやゼリー。ちょっと触ると崩れてしまう。水分を90%以上も含んでいるのに、形を保つ。このように大量の水を含みながらも水が流れ出さずに形を保つものを「ゲル」という。豆腐やコンニャク、ソフトコンタクトレンズもゲルである。そのイメージと正反対に、ハンマーでたたいても、壊れないゲルがある。トラックで踏みつぶしても、通り過ぎた後で元の形に戻る。これで直径数センチメートルのボールを作り、ゴルフクラブで一撃しても、一時的に変形はするものの、元の形に戻る。この物質は「ダブルネットワークゲル」(略称DNゲル)と呼ばれる。実は人の体にも、ゲルの部分が沢山ある。力を生む筋肉、それを骨に伝える腱、荷重に耐える軟骨。みんなゲルの仲間である。これら生体の素晴らしい機能を深く知ることにより、人類は初めて強靱なDNゲルを生み出した。

バイオメティクス市民セミナー > 生物画像から工学的「きづき」を生み出す新しいデータベース

講義： 生物画像から工学的「きづき」を生み出す新しいデータベース

長谷山 美紀

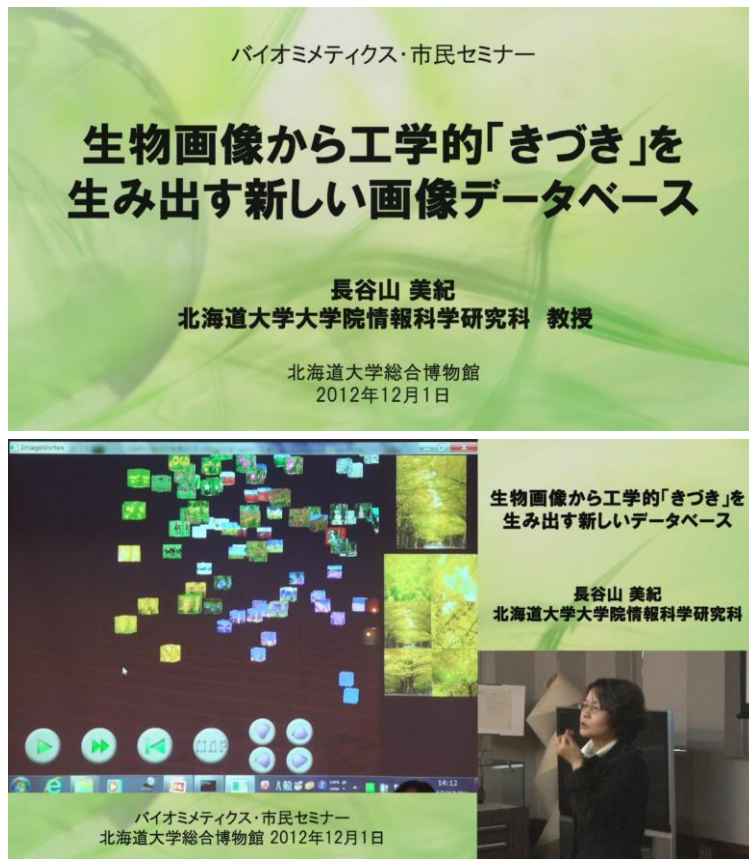
主催： 北海道大学総合博物館

協賛： 高分子学会バイオメティクス研究会

開講： 2012年12月1日(北海道大学総合博物館)

掲載： 2013年7月22日

講義映像



我々の身の周りには、デジタルデータが溢れています。画像、映像、音楽、書籍に代表されるマルチメディアデータは勿論のこと、地球規模の気象データや我々が日常生活において生み出しているデータは膨大な量となっています。その一方で、大量のデータに内在する価値を見出すことが可能な、そして、人間に新たな「きづき」を与えるデータベースを構築していくことは、非常に有益であり、情報科学がその役割を担っています。

ところで、近年、「生物の技術体系」を模倣することで技術革新の着想を得、工学的新材料を生み出していく研究が進められています。これを実現するためには、大量の生物画像から工学的「きづき」を生み出すデータベースを構築していく必要があります。

本セミナーでは、画像や映像、音響信号の処理技術の最先端を紹介するとともに、生物画像から工学的「きづき」を生み出す新しいデータベースが実現する未来についてお話します。驚くような素材が生物を模倣することで、次々と生み出される時代の到来を予感してください。

バイオミメティクス市民セミナー > ナノテクノロジーが拓くバイオミメティクス

講義： ナノテクノロジーが拓くバイオミメティクス

居城 邦治

主催： 北海道大学総合博物館

協賛： 高分子学会バイオミメティクス研究会、高分子学会北海道支部

開講： 2013年5月4日(北海道大学総合博物館)

掲載： 2013年11月15日

講義映像

バイオミメティクス市民セミナー

ナノテクノロジーが拓く バイオミメティクス

居城 邦治
北海道大学電子科学研究所 教授

北海道大学総合博物館
2013年5月4日

ナノテク材料 CdTe 量子ドット (光るナノ粒子)

• CdCl_2
• MPA, 3mM in water (pH=9) $\text{HS}-\text{CH}_2-\text{CH}_2-\text{COOH}$
• Te powder
• NaBH_4 suspended in water (0°C)

量子ドット
2nm 10nm

UV

合成条件によって
サイズのコントロール
が可能

サイズに依存した
発光特性を持つ
新規のナノ材料！

バイオミメティクス市民セミナー
北海道大学総合博物館 2013年5月4日

ナノテクノロジー(ナノテク)は、ナノメートル (nm、10 億分の 1 メートル)の領域すなわち原子や分子のスケールにおいて、物質を自在に組み立てたり、動かしたりする技術のことです。2001 年から世界各国で研究がスタートし、現在最も活発な科学技術研究分野のひとつとなっています。半導体や高性能電池、情報家電や先進医療デバイスなどに使われているだけでなく、白物家電、スポーツ用品、化粧品などにも、ナノテクを活用した製品が多数存在します。ナノテクを駆使することで、生物のナノ構造をまねることができるようになってきました。また、逆にバイオミメティクスの考え方を導入することで、環境にやさしいナノテクが生まれようとしています。ナノテクとバイオミメティクスのこれからについて考えていきます。

セミナー/講演会 > 教育 > スキルアップセミナー

講義： 第2回 論文・レポートを書く前に

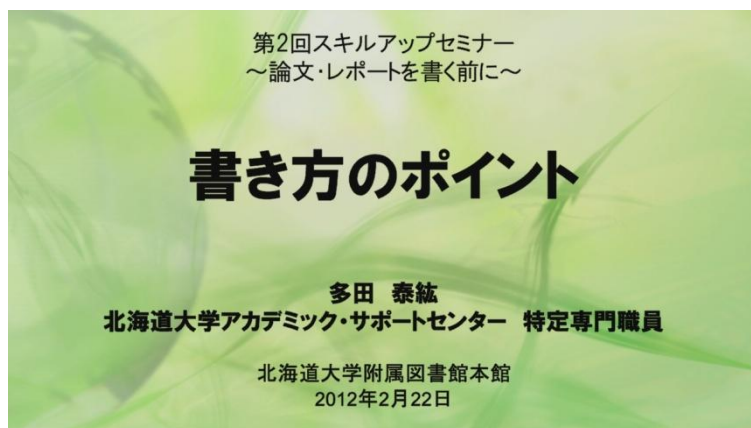
多田 泰紘、堀越 邦恵

主催： 北海道大学アカデミック・サポートセンター、北海道大学附属図書館

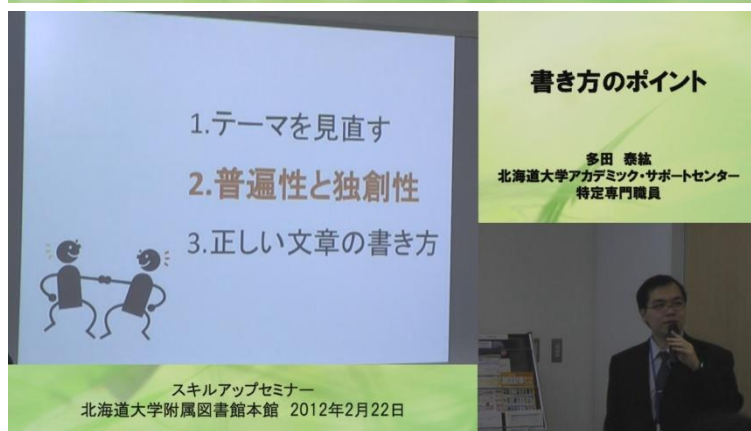
開講： 2013 年 2 月 18 日 (北海道大学附属図書館本館)

掲載： 2013 年 4 月 19 日

講義映像



第2回目は、「論文・レポートを書く前に」と題して、アカデミックな文章を書く上での考え方や注意点について、セミナーを開催しました。これから卒論、修論を始める人にオススメです。



セミナー/講演会 > 教育 > 知識のオープン化と教育の未来

講義： 知識のオープン化と教育の未来

渡辺 智暁

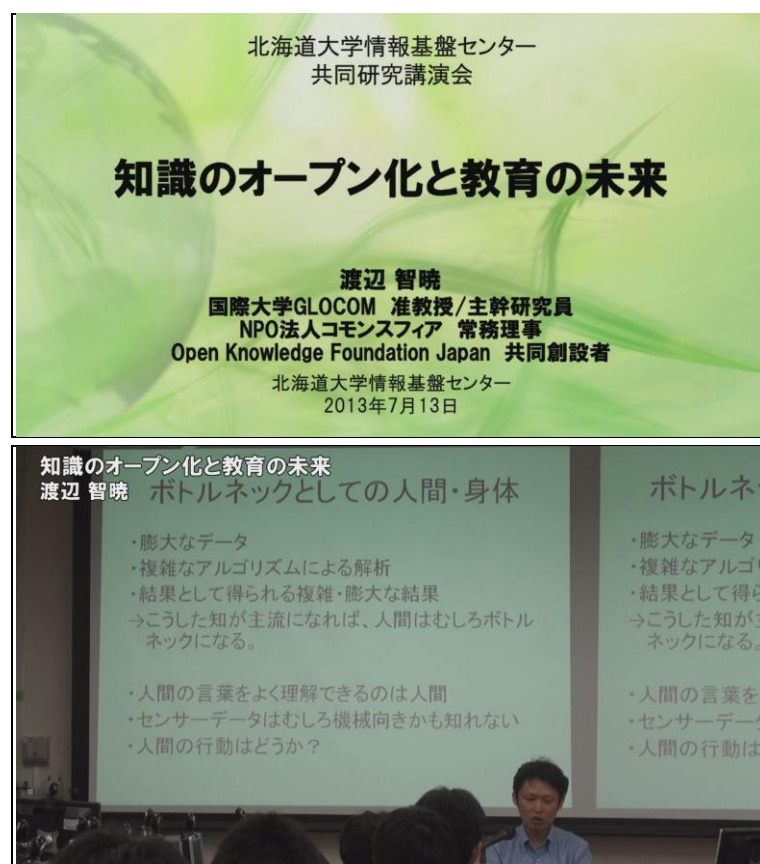
主催： 北海道大学情報基盤センター

共催： 教育システム情報学会北海道支部

開講： 2013 年 7 月 13 日 (北海道大学情報基盤センター)

掲載： 2013 年 9 月 13 日

講義映像



オープン化のトレンドと学習・教育がどのように関わっていくかについて、お話します。

セミナー/講演会 > 創成シンポジウム > 第10回 北大から世界へ がん研究最前線

講義： 北大から世界へ がん研究最前線

白土 博樹、田中 伸哉、藤田 恭之、佐藤 のりゆき

主催： 北海道大学創成研究機構

後援： 札幌市教育委員会、北海道新聞社

開講： 2013年3月27日(北海道大学学術交流会館)

掲載： 2014年2月14日

講義映像

北海道大学 創成研究機構
第10回 創成シンポジウム

北大から世界へ がん研究最前線

主催:北海道大学創成研究機構
後援:札幌市教育委員会、北海道新聞社

北海道大学学術交流会館
2013年3月27日

医学と理工学の融合で患者を救う
～陽子線治療装置の開発～

白土 博樹
北海道大学大学院医学研究科

治療計画用CT装置の開発

1987年 北海道大学
辻井博彦、鎌田 正、入江五朗

CT画像を用いた治療は、その後、放射線治療の標準となった。

第10回創成シンポジウム
北海道大学学術交流会館 2013年3月27日

FIRST ～がん治療の最前線～

世界をリードする陽子線治療装置の開発に挑む白土教授が、現在建設中の装置の全容を紹介し、進行中の研究内容について語ります。

NEXT ～未来のがん治療～
のりさんと科学を語ろう!「がん研究者の素顔に迫る」
藤田教授、田中教授が新たな治療法実現に向けた最先端研究を紹介した後、佐藤のりゆきキャスター(北海道大学創成研究機構客員教授)が、がん研究者の素顔に迫ります。

資料室 > オープンコースウェア・セミナー > アート&テクノロジーが導く未来

講義： アート&テクノロジーが導く未来

土佐 尚子

主催： 北海道大学情報基盤センター、北海道大学オープンコースウェア

開講： 2013 年 3 月 22 日 (北海道大学情報基盤センター)

掲載： 2013 年 5 月 25 日

講義映像



テクノロジーを用いてアートや文化を新しい形で表現する「カルチュラルコンピューティング」という概念を作り出しました。カルチュラルコンピューティングという新しいコンセプトに基づいて行った近年の仕事を紹介します。



コンテンツ交換プロジェクト > 情報倫理小冊子(韓国語版)(情報学 I:2012 年度)

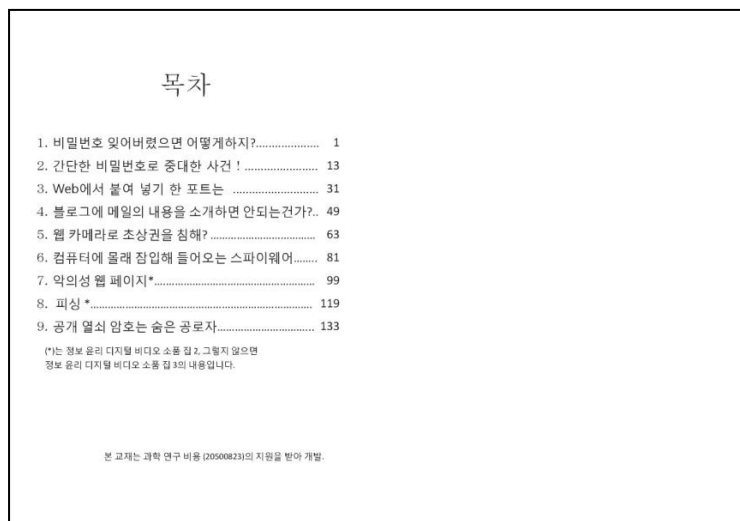
教材： 情報倫理小冊子 (韓国語版) (情報学 I : 2012 年度)

布施 泉

開講： 2012 年度

掲載： 2014 年 3 月 17 日

教材



本冊子は、情報学 I の授業で使われた情報倫理に関する韓国語版の資料です。

韓国・高麗大学 OCW とのコンテンツ交換プロジェクトの対象コンテンツです。



コンテンツ交換プロジェクト > 村上春樹「1Q84」を読む(韓国語版)

講義： 村上春樹「1Q84」を読む ―物語をかきかえる― (韓国語版)

中村 三春

主催： 北海道大学院文学研究科・人文学カフェ実行委員会

開講： 2010年5月15日(紀伊國屋書店札幌本店)

掲載： 2014年3月(予定)

講義映像

제 2 회 인문학 카페

무라카미 하루키 『1Q84』를 읽는다
-이야기를 고쳐쓰다-

나카무라 미하루
홋카이도대학 대학원 문학연구과 교수

기노쿠니아 샷포로본점
2010년 5월 15일

★『1Q84』의 'Cross Cutting'

◆Book 1
●아오마메가 고속도로에서 내리자, 갑자기 시간이 1984년에서 1Q84년으로 바뀐다. 덴고는 후카에리가 전해준 『공기 변태기』를 재구성하여 인기를 얻음.

◆Book 2
●아오마메는 소녀를 강간한 혐의를 받고 있는 사이비 집단, '천구'의 교주를 암살 후, 자살한다. 같은 시각, 덴고가 아버지의 병상에서 본 『공기 변태기』에는 아오마메의 모습이.

◆Book 3
●살아 남아 잠복을 시작하는 아오마메. 그녀를 쫓던 우시카와는 다마루에게 살해당한다. 결말부분에서 아오마메와 덴고는 고엔지의 놀이동산에서 20년만에 재회한다.

예를 들면 '국민의 창생'이라는 남북전쟁을 주제로 한 작품이 있는데요. 이 작품은 두 가정의 소토리가 평행으로 진행되다가 때때로 만나는, 즉 교차(크로스)하는 구조로 되어 있습니다.

무라카미 하루키
『1Q84』을 읽다
―이야기를 고쳐 쓰다―
나카무라 미하루
홋카이도대학 대학원 문학연구과 교수

紀伊國屋書店 札幌本店

第2回人文学カフェ「村上春樹『1Q84』を読む ―物語をかきかえる―」の韓国語版です。

韓国・高麗大学 OCW とのコンテンツ交換プロジェクトの対象コンテンツです。

コンテンツ交換プロジェクト > 食品と社会 (Food in Society)

講義： 食品と社会 (Food in Society)

キム・チョルギユ (韓国・高麗大学)

開講： 2012 年度

掲載： 2014 年 3 月 (予定)

講義資料

2012 年第 2 四半期に高麗大学で開設された講義です。

韓国・高麗大学 OCW とのコンテンツ交換プロジェクトの対象コンテンツです。

Ⅲ. パンフレット・ニュースレター

2013年4月 パンフレット(新入生対象)



はじめての講義を決める前に。

北大オープンコースウェア

<http://ocw.hokudai.ac.jp>



北海道大学オープンコースウェア（北大 OCW）では講義の資料や映像を無償で Web 配信しています。

北海道大学オープンコースウェア

〒060-0811 札幌市北区北 11 条西 5 丁目 E-mail: contact@ocw.hokudai.ac.jp TEL/FAX: 011-706-3555

URL : <http://ocw.hokudai.ac.jp/> URL (ミラー) : <http://ocw.hokudai.cn/>

講義選択に役立つ【全学教育】の公開科目一覧

講義資料

- 【思索と言語】論理学 A
- 【芸術と文学】漢文講読—『列女伝』を読む—
- 【社会の認識】戦争と平和、環境と地域社会
- 【科学・技術の世界】トポロジーの考え方、数論の歴史、基礎心理学入門、
ゼロからはじめる「科学力」養成講座 1・2、心の発達と自己分析 - ありのままの自分を見つめて -
- 【環境と人間】「環境マネジメントシステム」という考え方
- 【健康と社会】健康長寿と口腔科学 1・2
- 【人間と文化】平和の学際的研究
- 【社会科学の基礎】グローバル化社会の基礎構造
- 【数学概論 A】愛ではじまる微積分
- 【基礎物理学 I】基礎物理学 I
- 【物理学 II】熱力学

講義映像

- 【芸術と文学】ピアノ音楽の楽しみ・魅力、パイプオルガンとその音楽、北大生のための音楽講座、ロシア音楽の魅力、札幌と音楽文化
- 【科学・技術の世界】野生動物保全と人間社会
- 【環境と人間】北大総合博物館で学ぼう、ヒグマ学入門、大学博物館講座 - 北大自然史研究の系譜
- 【人間と文化】ムーミンの国へようこそ！、プログラミング入門—Ruby で誰でもプログラミング
- 【特別講義】キャリアデザイン I、大学と社会
- 【一般教育演習（フレッシュマンセミナー）】蛙学への招待、聞く力・話す力のトレーニング、フィールド体験型プログラム - 人間と環境科学 -(1)
- 【英語 II】英語 II
- 【英語演習】初級：all-English training for giving a campus tour、上級：War History and Memory in Japan
- 【心理学実験】心理学実験
- 【その他】学部移行ガイダンス



iTunes U から利用できます。



アップル社が提供している「iTunes U」は、大学の講義などを無料で見ることができるサービスです。

北海道大学オープンコースウェア（北大 OCW）は、2012 年 1 月、iTunes U から講義映像の配信をスタートしました。現在の公開数は、OCW の Web サイトと比較するとまだ少数ですが、今後もコンテンツを増やしていく予定です。ご期待ください！

※(映像以外の講義資料は、OCW の Web サイトをご利用ください。)

2013年7月ポスター(高校生対象)



<http://ocw.hokudai.ac.jp/>

北海道大学オープンコースウェア (HU-OCW) では、北海道大学の正規講義や公開講座などの講義資料、映像をインターネット上で無償で公開しています

小中高校生向けコンテンツも配信



「北海道大学オープンキャンパス」「ひらめき☆ときめきサイエンス」
「サイエンスパークin北海道大学総合博物館」「北海道大学プロフェッサービジット」



バーコードリーダーをかざしてください



iTunes U から動画配信

北海道大学オープンコースウェアで公開の教育コンテンツを配信しています

<https://itunes.apple.com/jp/institution/hokkaido-university/id472530795>

パソコン、iPad、iPod、iPhone に対応
(iTunes U の視聴には、iTunes または 専用アプリケーションのダウンロードが必要です)

[NEW]

新しい
コンテンツを
続々配信中!



バーコードリーダーをかざしてください



知の系譜

歴史的講義ノートの開

1876 札幌農学校

1907 東北帝国大学農科大学

1918 北海道帝国大学

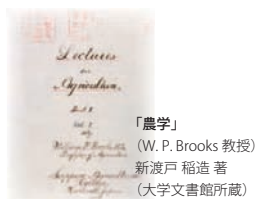
1947 北海道大学

2006 オープンコースウェアの開

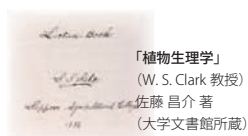
2008 歴史的講義ノートの開

<http://ocw.hokudai.ac.jp/> 《◆知の系譜よりアクセスしてください》

北海道大学の起源は、日本最初の近代の大学として、1876年に、北のフロンティア北海道に設立された札幌農学校に遡ります。爾来、帝国大学を経て新制大学に至る長い歴史のなかで、本学は、「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」および「実学の重視」という教育研究に関わる基本理念を培ってきました。札幌農学校の定員は1年生から4年生まで合わせて50人で、開校当時、クラークほか、4名の外国人教師がおり、外国人教師による講義は全て英語で行われていました。生徒は教師の口述を筆記し、それをノートに浄書し、さらに、そのノートを教師が点検して誤りを修正するという形で授業は進められていました。



このたび北海道大学オープンコースウェアは、大学図書館と共同で、大学図書館が所蔵しております当時の講義ノートの一部をデジタル化し、WEB上で公開することといたしました。我が国の高等教育の源泉を知る上で貴重な資料です。どうぞ、ご覧ください。



お問い合わせ先

北海道大学オープンコースウェア (<http://ocw.hokudai.ac.jp/>)

〒060-0811 札幌市北区北11条西5丁目
北海道大学情報基盤センター南館内

E-mail contact@ocw.hokudai.ac.jp
Tel / Fax 011-706-3555

2013年8月パンフレット(一般対象)



<http://ocw.hokudai.ac.jp/>

北海道大学オープンコースウェア (HU-OCW) では、北海道大学の正規講義や公開講座の講義資料、映像をインターネット上で無償で公開しています



『北海道大学公開講座』, 『土曜市民セミナー』, 『バイオメテックス』, 『時計台サロン』など一般向けセミナーの過去開催分もご覧いただけます



バーコードリーダーをかざしてください



iTunes U から動画配信

北海道大学オープンコースウェアで公開の教育コンテンツを配信しています

<https://itunes.apple.com/jp/institution/hokkaido-university/id472530795>

パソコン、iPad、iPod、iPhone に対応

(iTunes U の視聴には、iTunes または専用アプリケーションのダウンロードが必要です)

[NEW]

新しい
コンテンツを
続々配信!



バーコードリーダーをかざしてください

北海道大学オープンコースウェア Newsletter No.6

本学では2005年度から北海道大学オープンコースウェアプロジェクト(以下、北大OCW)を開始し、講義の資料や映像を通して北海道大学の教育を伝えています。この趣旨にご賛同くださる先生方のご協力で活動を維持していますので、本ニュースレターで北大OCWの活動をより一層ご理解いただければ幸いです。皆様からの資料提供を心よりお待ちしております。

北大OCWでは講義資料や講義映像を、ウェブサイトやiTunes Uにて公開しています。本ニュースレターでは北大OCWの活動にご協力くださっている先生方の声をシリーズでお伝えします。今回は、H24年度エクセレントティーチャーズに選出された「思索と言語 ことばを科学する:人間の再発見」担当教員の奥聡先生にお話を伺いました。

◇◇◇◇◇
「ことばを科学する:人間の再発見」の概要と学生の反応を教えてください

◇◇◇◇◇
昨年から全学教育「思索と言語」の一科目としてスタートしました。私の専門が理論言語学で、また私自身が科学哲学や科学の方法論に興味があるので、それらを組み合わせたい内容にしています。半分は言語学そのものを紹介し、残りは言語学を使って科学的なものの考え方を考察するという構成です。

“自然科学”の一分野として、人間の頭の中にある仕組みがどうなっているかを考える。その発想自体が多くの学生にとっては意外なようで、文系の科目だと思っていた等の感想が寄せられます。そもそも、文系と理系を分けること自体が本質的な意味をもたないことも確かですし、授業で基調にしている言語学は、自覚的に“自然科学”だと自己を定義しています。

大学1、2年生は、まだ決着のついていない問題について考えたり、解決すべき問題を作り出すといったことに慣れていないと感じます。当たり前だと思っていることに少し踏み込んでみると、分かっていないことは多いのです。言語ではそれが顕著にみられます。

今期は177名が履修登録しています。授業を受けるうちに、熱心に取り組む学生はこういう言語学もあるのだということを理解していきます。そのことに喜びを感じてのめり込む学生は多いです。しかし、言葉のように神秘的な

ことを科学的に考えてしまってもよいのだろうか、最後まで違和感を持ち続ける学生も一定の割合でいます。非常に興味深いところです。

◇◇◇◇◇
大人数のクラス編成ですが、授業のこだわりはありますか？

◇◇◇◇◇
なるべく学生を動かして飽きさせないようにしています。経験的に、北大生はうまく仕掛けて刺激すると90分の授業に十分に集中し積極的に参加してくることがわかってきました。欧米学生に教えていたときに比べると大人しいですが、書かせると本当に良く書きます。

毎回、授業の終わりに今回のポイントとそれについての感想を書かせています。学生達は静かに黙々と書いていますが、実は、とても前向きに授業へ参加している時間なのです。授業で面白いと思ったことを主体的に書く、自分の中できちんと整理ができますよね。強制的にそういう時間をもつことに意味があります。

そうして、フィードバックを常にモニターしています。今日はココだぞ！と思ったところを学生が面白がっている感想は非常に嬉しい。一方で、思ってもみなかったところに厳しい意見が入ることがありますが、私にとっては重要なインフォメーションです。学生達の素朴な質問の中には、答えの出ないこともあります。学生の好奇心をより引き立てる形でコメントを返すという作業は、教育者として非常にチャレンジングな作業です。

さらに、それらの意見を次回授業のきっかけにすると、学生も自分の考えが次の授業につながっていると感じ取ってくれて、大人数クラスでも、十分にインタラクティブな授業が出来ます。



奥 聡(おく さとし)
メディア・コミュニケーション研究院准教授
【研究領域】理論言語学、生成文法
情報構造、ゼロ項構文、言語獲得

◇◇◇◇◇
これまでのOCWとの関わりと、今後に期待することは？

◇◇◇◇◇
OCW 立上げ当初、私は研究院の連絡担当に任命されました。全学的に、教材提供の依頼があった時、シラバスとハンドアウトなどを提供してもいいはずなのに、理解がなかなか得られなくて。そこで、少しずつ作り溜めていた英語Ⅱの教材を提供しました。

立上げのために来学されていたMITの宮川先生は、同じ分野の理論言語学研究者なので以前から面識があり、OCWについても話したことがあります。MITは世界最先端の授業を無償公開すると決めましたが、生で授業に参加できるのはMIT学生だけです。オンラインでは表面的エッセンスを覗いているのにすぎないと。そういうものなのだなと思っています。

MITには自書を全頁公開している先生もいるそうです。出版社は決ったらしいですが、結果的に売れ行きは上がったそうです。見たから買わないというより、手元に本として残しておきたいと思う割合のほうがずっと多かった。これは、なかなか示唆的です。

OCWを通して、北大に来たいと思う質の良い学生が増えることにつながる充実したコンテンツを提供できるといいですね。



～講堂内を縦横無尽に駆け回る姿が印象的な授業風景～

【奥聡先生の関連公開コンテンツ】
全学教育 英語Ⅱ、ことばを科学する:人間の再発見

新規コンテンツ公開状況 (2012/12/1 ~ 2013/12/10)

* は学内限定公開

◆コース (正規講義資料)

英語演習初級	2012 年度第 2 学期 (全 14 回)	全学教育科目
キャリアデザイン I *	2012 年度第 2 学期 (2 回)	全学教育科目
英語 II	ビデオ教材	全学教育科目
大学と社会 *	2013 年度第 1 学期 (10 回)	全学教育科目
学問の世界 *	2013 年度集中講義 (5 学科・コース)	全学教育科目
情報学 I	情報倫理小冊子	全学教育科目

◆セミナー / 講演会

スキルアップセミナー	第 1 回、第 2 回	アカデミック・サポートセンター 附属図書館
北海道大学公開講座	2013 年度 (3 講座)	学務部
国際原子力人材育成イニシアティブ事業		
「環境放射能基礎コース (初級)」	2013 年 6 月 (3 講義)	工学研究院
「環境放射能コース (中級)」	2013 年 7 月 (2 講義)	工学研究院
「環境放射能専門家育成コース (上級)」	2013 年 8 月 (1 講義)	工学研究院
北海道大学情報基盤センター共同研究講演会	2012 年 10 月、2013 年 3 月、7 月	情報基盤センター

◆研究教育資料

北海道大学総合博物館展示資料	展示映像 3 点	総合博物館
----------------	----------	-------

◆公開講座 / 市民セミナー

北海道大学オープンキャンパス 2013	2013 年度 (2 学部)	アドミッションセンター
サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館	2012 年度	総合博物館
市民セミナー 安心した暮らしと在宅ケアを支える	2012 年度	保健科学研究院
ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ	2012 年度	保健科学研究院
北海道大学総合博物館 土曜市民セミナー	2012 年 11 月～2013 年 7 月開催回	総合博物館
北大人文学カフェ	第 9 ～ 11 回	文学研究科
時計台サロン 農学部に聞いてみよう	第 7 ～ 12 回、第 14 回	農学研究院

OCW 博士のコラム ～ HU-OCW の舞台裏 ～



2006 年度に公開を開始し、8 年が過ぎようとしている北大 OCW の公開資料は、数と種類ともに充実してきた。2013 年 12 月 10 日時点で、正規科目 125 科目、その他 245 科目 (全 370 科目) が公開されており、アクセス数は約 5 万ビジット/月、約 50 万ページビュー/月に達している。ご尽力いただいた教職員の皆様には誠に感謝いたしておる。

ところが、資料に含まれる第三者著作物について利用許諾を得られないこともままあり、削除せざるを得ない場合がある。著作権法で授業での複製が認められておいても、OCW からのウェブ配信となるとわけが違ってくる。

そこで、OCW ではご提供資料の内容をそこのままに、力を注いでいる。

2013 年 11 月に 4.0 へバージョンアップされたクリエイティブ・コモンズ・ライセンス (詳細→ <http://creativecommons.org/weblog/entry/40768>) を採用して使用

可能素材への差替えやクレジット表記、さらには資料に出版社名等発行元を含む出典を明記のうえ利用許諾を申請するなど、資料内の素材をできる限り活かした形で公開できるように、一丸となって取り組んでおるのじゃ。

OCW では本学の知の継承・知の普及・知の育成を進めることが目的じゃ。アーカイブ化するだけではなく、実を伴ったコンテンツを公開していきたいと考えておる。

資料公開にご興味のある教職員の皆さんは、なんなりとご相談いただきたい！

【編集後記】資料提供や撮影にご協力を賜りました先生方、各種連絡調整にご尽力を賜りました担当教職員のみなさま、そして奥先生にこの場をおかりしてお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。OCW スタッフ一同 (ED/川村)



〒 060-0811 札幌市北区北 11 条西 5 丁目 北海道大学オープンコースウェア 学内便 (48)
TEL/FAX 011-706-3555 E-mail: contact@ocw.hokudai.ac.jp
<http://ocw.hokudai.ac.jp/>

OCW2014 年 1 月発行

2013 年度
北海道大学オープンコースウェア活動報告書

平成 26 年 3 月発行

発行者 北海道大学オープンコースウェア
〒060-0811
札幌市北区北 11 条西 5 丁目
TEL/FAX 011-706-3555
URL <http://ocw.hokudai.ac.jp/>

印刷者 柏楊印刷株式会社